

男女共同参画に関する  
市民意識調査結果報告書

平成29年3月

日置市総務企画部地域づくり課

# 目次

## I 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 調査の内容	1
4 回収結果	1
5 報告書の見方	1

## II 調査回答者の属性

1 性別	2
2 年齢	2
3 生活形態	2
4 婚姻の状況	3
5 夫婦の就業状況	3
6 居住地域	3
7 就業状況	4

## III 調査結果について

1 男女共同参画関連用語について	5
2 男女の地位に関する意識について	
(1)各分野の男女の地位の平等感	7
(2)社会全体における男女の地位の平等感	23
3 固定的な性別役割分担意識について	
(1)家庭等における固定的な性別役割分担	25
4 政策方針決定過程への女性の参画に関する意識	29
5 家庭での役割分担について	
(1)家事等における役割分担	30
6 働くことについて	
(1)現在の職業	34
(2)希望する働き方	36
(3)職場における処遇の格差	39
(4)就労規則に関する認識	41
(5)就労規則の実効	42

7	女性の活躍推進について	
	(1)女性の活躍を進めるに際しての妨げ	43
	(2)昇進に対するイメージ	45
	(3)就業の継続を希望する女性が働き続けられるために、家庭・社会・職場において必要なことに関する意識	47
8	地域社会との関わり方について	
	(1)地域への貢献意欲	49
	(2)どのような地域活動に関わっているか	50
	(3)地域活動に参加する気持ち	52
	(4)地域の雰囲気や慣習	54
	(5)地域活動のやりがいや苦勞(自由記述)	56
9	ワークライフバランス(仕事と生活の調和)	
	(1)「仕事」と「生活」の優先と調和の実情	64
	(2)「仕事」と「生活」の優先と調和の希望	65
	(3)「家庭」と「地域活動」「個人」の調和の実情	66
	(4)「家庭」と「地域活動」「個人」の調和の希望	68
	(5)ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の実現に必要なこと	70
10	生活における不安や悩みごとについて	
	(1)生活する中での不安や悩み	72
11	男女の人権について	
	(1)配偶者等からの暴力のこれまでの被害経験の有無	74
	(2)配偶者等から暴力を受けた時の相談先	79
	(3)配偶者等から暴力を受けたときに相談しなかった(できなかった)理由	80
	(4)男女間の暴力防止に必要なこと	82
	(5)メディアにおける性・暴力表現について	84
IV	自由意見	86
V	調査票	94

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画に対する意識や現状を把握し、「日置市男女共同参画基本計画」策定に活用するなど、今後の本市男女共同参画施策を検討するための基礎資料とするべく実施しました。

## 2 調査の方法

- (1) 調査地域 日置市全域
- (2) 調査対象 日置市内に在住する20歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 無作為抽出
- (5) 調査方法 郵便送付・郵送回収
- (6) 調査時期 平成28年11月25日(金)～平成28年12月15日(木)

## 3 調査の内容

12項目について38の設問を設定しました。

- (1) 男女共同参画関連用語について
- (2) 男女の地位に関する意識について
- (3) 家庭等における固定的な性別役割分担
- (4) 政策方針決定過程への女性の参画に関する意識
- (5) 家庭での役割分担について
- (6) 働くことについて
- (7) 女性の活躍推進について
- (8) 地域社会との関わり方について
- (9) ワークライフバランス(仕事と生活の調和)
- (10) 生活における不安や悩みごとについて
- (11) 男女の人権について
- (12) あなたご自身のことについて

## 4 回収結果

調査票配布枚数	有効回収数	回収率
2,000	738	36.9%

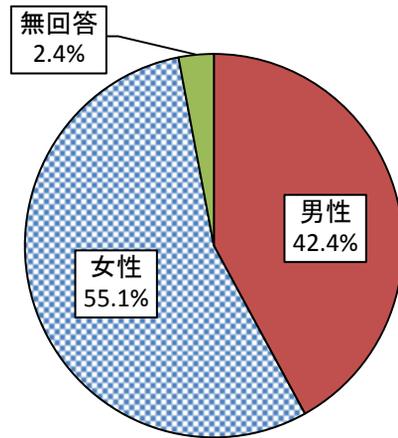
## 5 報告書の見方

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのため、パーセントの合計が100%にならないこともあります。
- (2) 複数回答が可能な質問の場合は、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%なのかという見方をしています。そのため、各項目の比率の合計は通常100%を超えます。
- (3) 性別・年齢を表すグラフ等においては、性別・年齢が不明なものは分析対象から除いているため、各属性の合計が全体と一致しない場合があります。

## II 回答者の属性

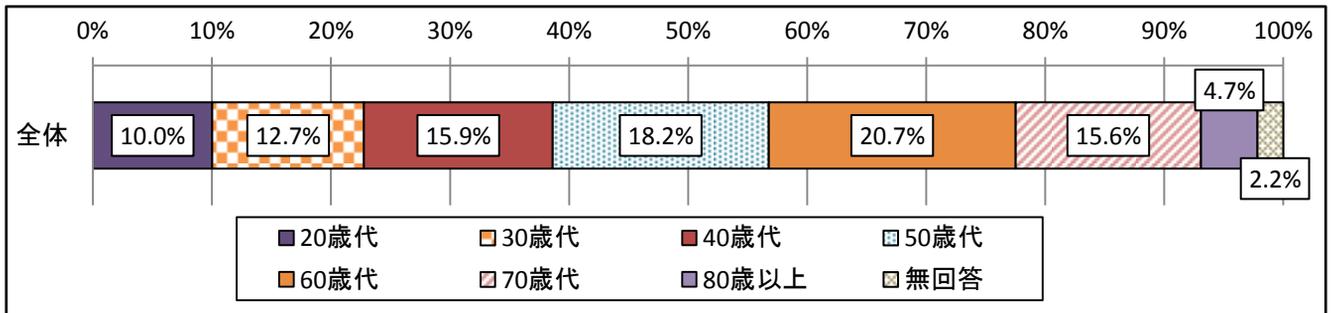
### 1 性別

	人数	構成比
男性	313	42.4%
女性	407	55.1%
無回答	18	2.4%
合計	738	100.0%



### 2 年齢

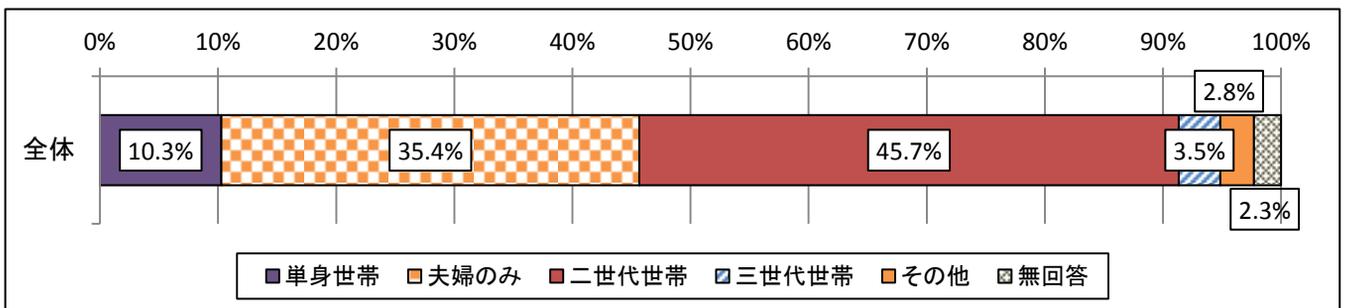
	合計		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	74	10.0%	94	12.7%	117	15.9%	134	18.2%	153	20.7%	115	15.6%	35	4.7%	16	2.2%
男性	313	100.0%	25	8.0%	30	9.6%	47	15.0%	62	19.8%	69	22.0%	62	19.8%	17	5.4%	1	0.3%
女性	407	100.0%	49	12.0%	64	15.7%	69	17.0%	72	17.7%	84	20.6%	52	12.8%	17	4.2%	0	0.0%



### 3 生活形態

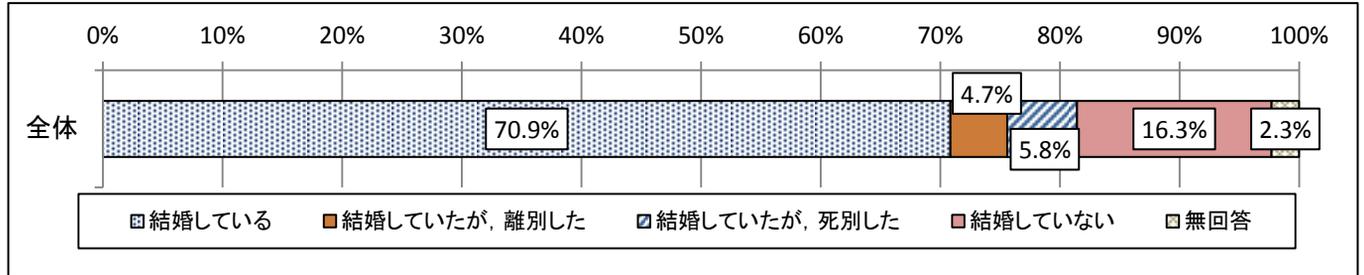
#### 《世帯状況について》

	合計		単身世帯 (一人暮らし)		一世代世帯 (夫婦のみ)		二世世代世帯 (親と子など)		三世世代世帯 (親と子と孫など)		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	76	10.3%	261	35.4%	337	45.7%	26	3.5%	21	2.8%	17	2.3%
男性	313	100.0%	42	13.4%	126	40.3%	126	40.3%	9	2.9%	8	2.6%	2	0.6%
女性	407	100.0%	33	8.1%	134	32.9%	210	51.6%	17	4.2%	13	3.2%	0	0.0%



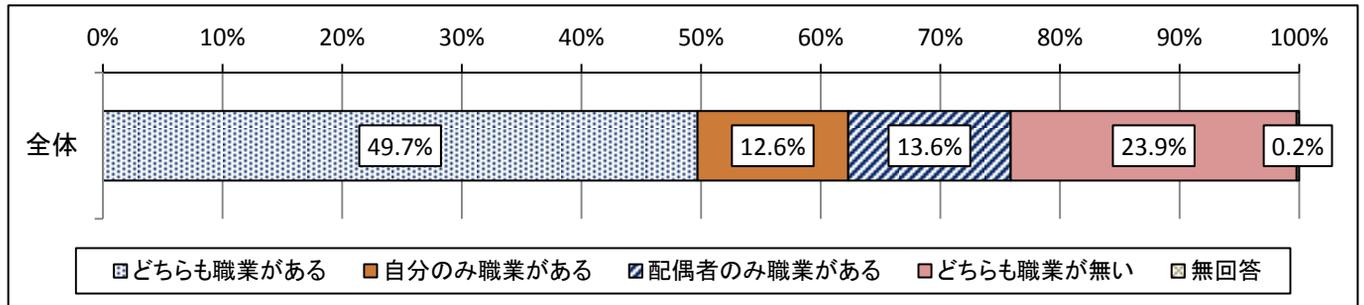
## 4 婚姻の状況

	合計		結婚している		結婚していたが、 離別した		結婚していたが、 死別した		結婚していない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	523	70.9%	35	4.7%	43	5.8%	120	16.3%	17	2.3%
男性	313	100.0%	225	71.9%	15	4.8%	16	5.1%	56	17.9%	1	0.3%
女性	407	100.0%	296	72.7%	20	4.9%	26	6.4%	64	15.7%	1	0.2%



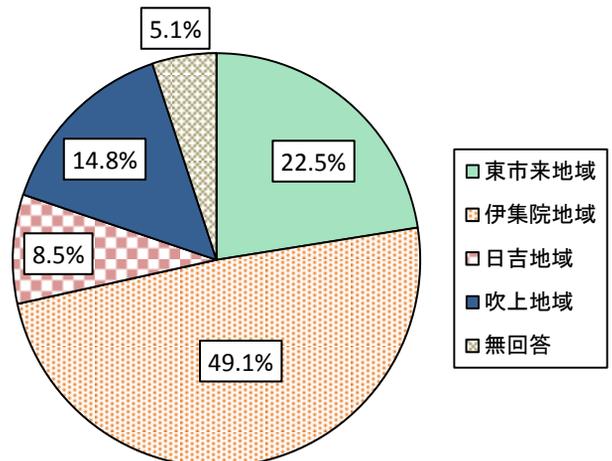
## 5 夫婦の就業状況

	合計		どちらも 職業がある		自分のみ 職業がある		配偶者のみ 職業がある		どちらも 職業が無い		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	523	100.0%	260	49.7%	66	12.6%	71	13.6%	125	23.9%	1	0.2%



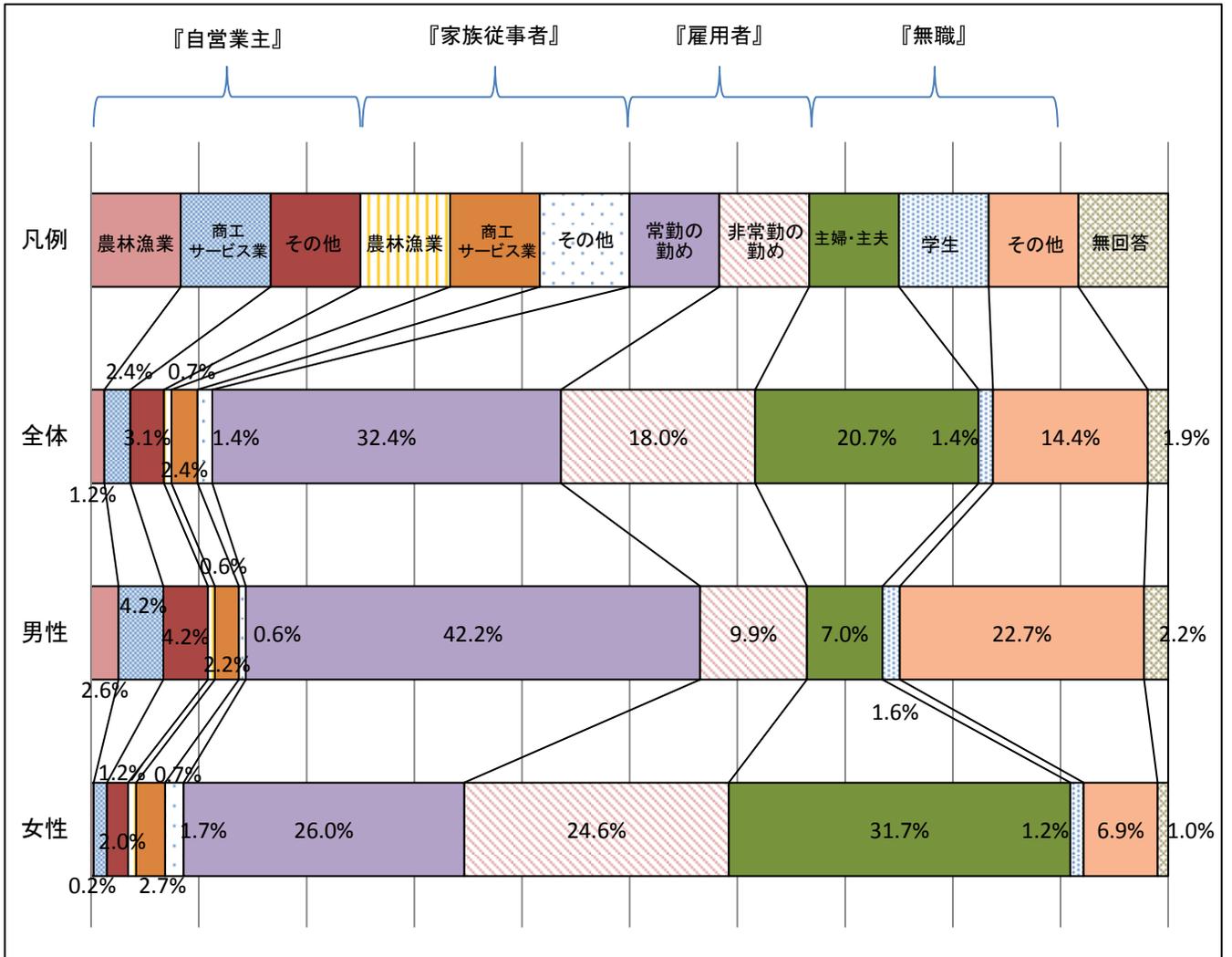
## 6 居住地

	人数	構成比
東市来地域	166	22.5%
伊集院地域	362	49.1%
日吉地域	63	8.5%
吹上地域	109	14.8%
無回答	38	5.1%
合計	738	100.0%



# 7 就業状況

	農林業 (自営業主)		商工サービス (自営業主)		その他 (自営業主)		農林業 (家族従事者)		商工サービス (家族従事者)		その他 (家族従事者)		常勤の勤め (社員・職員等)		非常勤の勤め (パート・アルバイト・ 臨時職員・嘱託等)		主婦・主夫		学生		その他の 無職		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	9	1.2%	18	2.4%	23	3.1%	5	0.7%	18	2.4%	10	1.4%	239	32.4%	133	18.0%	153	20.7%	10	1.4%	106	14.4%	14	1.9%
男性	8	2.6%	13	4.2%	13	4.2%	2	0.6%	7	2.2%	2	0.6%	132	42.2%	31	9.9%	22	7.0%	5	1.6%	71	22.7%	7	2.2%
女性	1	0.2%	5	1.2%	8	2.0%	3	0.7%	11	2.7%	7	1.7%	106	26.0%	100	24.6%	129	31.7%	5	1.2%	28	6.9%	4	1.0%

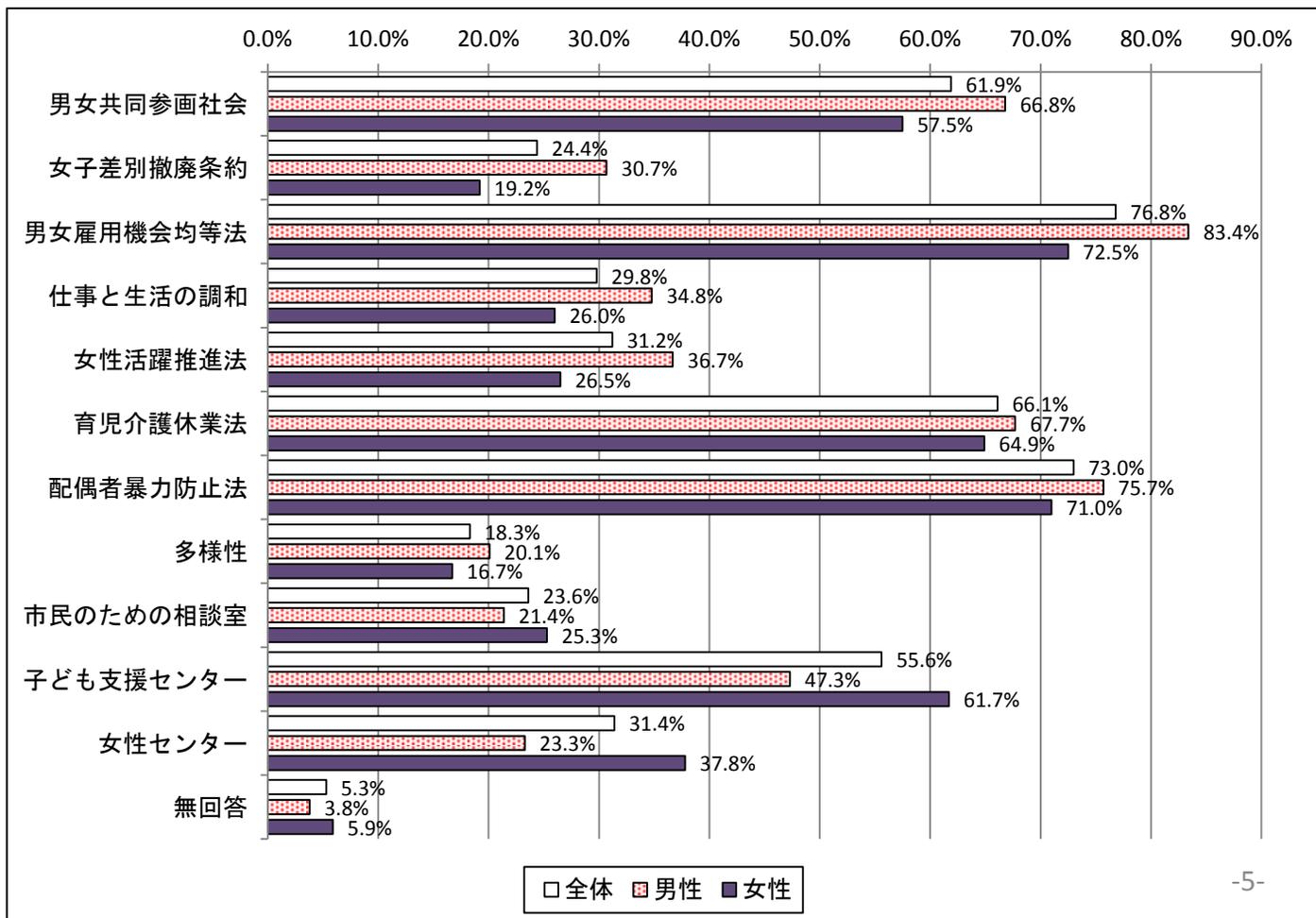


### Ⅲ 調査結果

【問1】 次の言葉について、あなたが見たり、聞いたりしたことがあるものをすべて選んでください。

- 1 男女共同参画社会
- 2 女子差別撤廃条約
- 3 男女雇用機会均等法
- 4 仕事と生活の調和(ワークライフバランス)
- 5 女性活躍推進法
- 6 育児介護休業法
- 7 DV防止法(配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律)
- 8 多様性(ダイバーシティ)
- 9 日置市市民のための相談室(男女共同参画専門員)  
(配偶者等からの暴力・暴言, 子育て, 介護, 学校, 友人, 職場, 地域のこと等)
- 10 日置市子ども支援センター
- 11 日置市女性センター

	合計		男女共同参画社会		女子差別撤廃条約		男女雇用機会均等法		仕事と生活の調和		女性活躍推進法		育児介護休業法		配偶者暴力防止法		多様性		市民のための相談室		子ども支援センター		女性センター		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	457	61.9%	180	24.4%	567	76.8%	220	29.8%	230	31.2%	488	66.1%	539	73.0%	135	18.3%	174	23.6%	410	55.6%	232	31.4%	39	5.3%
男性	313	100.0%	209	66.8%	96	30.7%	261	83.4%	109	34.8%	115	36.7%	212	67.7%	237	75.7%	63	20.1%	67	21.4%	148	47.3%	73	23.3%	12	3.8%
女性	407	100.0%	234	57.5%	78	19.2%	295	72.5%	106	26.0%	108	26.5%	264	64.9%	289	71.0%	68	16.7%	103	25.3%	251	61.7%	154	37.8%	24	5.9%



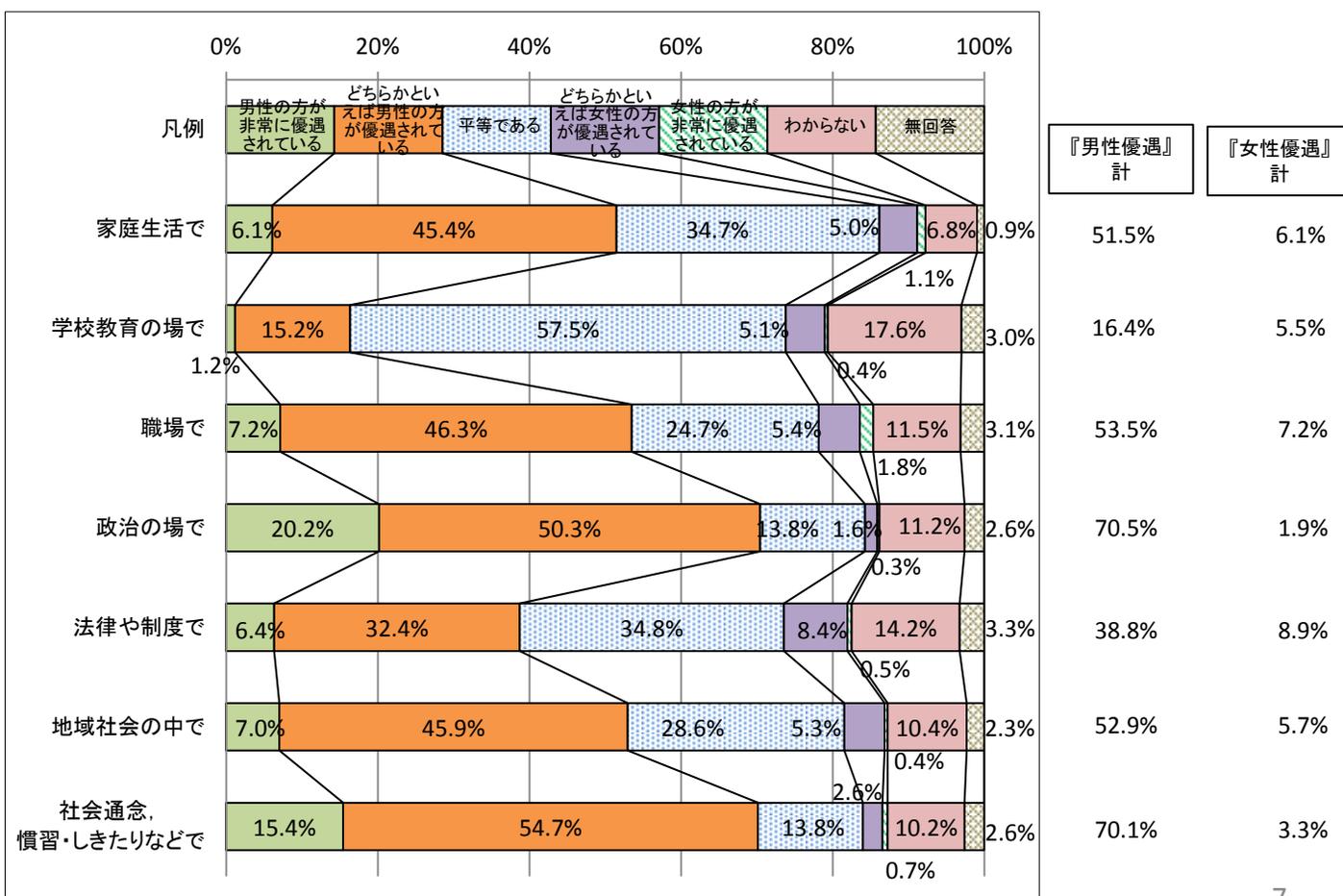
◆ 男女共同参画の関連用語についてみると、全体では「男女雇用機会均等法」(15.4%)と回答した割合が最も高く、次いで「配偶者暴力防止法(DV防止法)」(14.7%)、「育児介護休業法」(13.3%)、「男女共同参画社会」(12.4%)の順となっている。一方、回答した割合が最も低かったのは「多様性」(3.7%)、次いで「市民のための相談室」(4.7%)、「女子差別撤廃条約」(4.9%)の順となっている。

◆ 男女別でみると、回答の割合が高いのは男女とも「男女雇用機会均等法」、次いで「配偶者暴力防止法(DV防止法)」、「育児介護休業法」の順となり全体の結果と同じだが、「男女雇用機会均等法」については、男性の割合が女性より1.4ポイント高くなっている。

【問2】あなたは、次のような分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。①～⑦の項目について、右欄の1～6の中からあなたの考えに最も近い番号を1つずつ選んでください。

### 各分野の男女の地位の平等感【総計】

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
家庭生活で	6.1%	45.4%	34.7%	5.0%	1.1%	6.8%	0.9%
学校教育の場で	1.2%	15.2%	57.5%	5.1%	0.4%	17.6%	3.0%
職場で	7.2%	46.3%	24.7%	5.4%	1.8%	11.5%	3.1%
政治の場で	20.2%	50.3%	13.8%	1.6%	0.3%	11.2%	2.6%
法律や制度で	6.4%	32.4%	34.8%	8.4%	0.5%	14.2%	3.3%
地域社会の中で	7.0%	45.9%	28.6%	5.3%	0.4%	10.4%	2.3%
社会通念、慣習・しきたりなどで	15.4%	54.7%	13.8%	2.6%	0.7%	10.2%	2.6%



◆ 男女の地位の平等感についてみると、「平等である」と回答した割合は「学校教育の中で」(57.5%)が最も高く、次いで「法律や制度で」(34.8%)、「家庭生活で」(34.7%)、「地域社会の中で」(28.6%)、「職場で」(24.7%)、「政治の場で」「社会通念、慣習・しきたりなどで」(13.8%)の順となっている。

◆ また、全ての分野で『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)が『女性優遇』(「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)を上回っている。

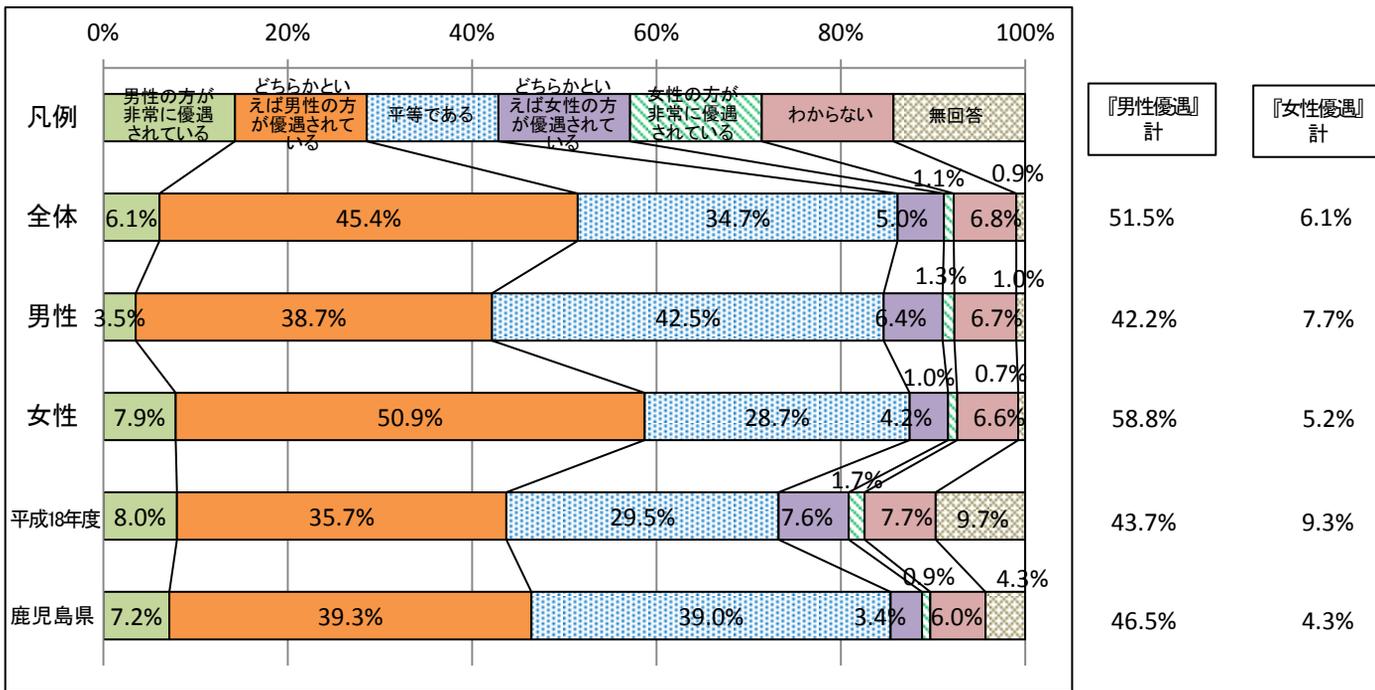
◆ 特に「政治の場で」、「社会通念、慣習・しきたりなどで」は、『男性優遇』が『女性優遇』より60ポイント以上高くなっており、「地域社会の中で」、「職場で」、「家庭生活で」は、『男性優遇』が『女性優遇』より40ポイント以上高くなっている。

# ① 家庭生活で

《性別件数:無回答 18件除く》

(平成18年度調査・平成28年度鹿児島県意識調査)

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	45	6.1%	335	45.4%	256	34.7%	37	5.0%	8	1.1%	50	6.8%	7	0.9%
男性	313	100.0%	11	3.5%	121	38.7%	133	42.5%	20	6.4%	4	1.3%	21	6.7%	3	1.0%
女性	407	100.0%	32	7.9%	207	50.9%	117	28.7%	17	4.2%	4	1.0%	27	6.6%	3	0.7%
平成18年度	975	100.0%	78	8.0%	348	35.7%	288	29.5%	74	7.6%	17	1.7%	75	7.7%	95	9.7%
鹿児島県	2,227	100.0%	160	7.2%	875	39.3%	869	39.0%	75	3.4%	19	0.9%	133	6.0%	96	4.3%



◆ 全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が45.4%と最も高く、次いで「平等である」(34.7%)、「わからない」(6.8%)の順となっている。

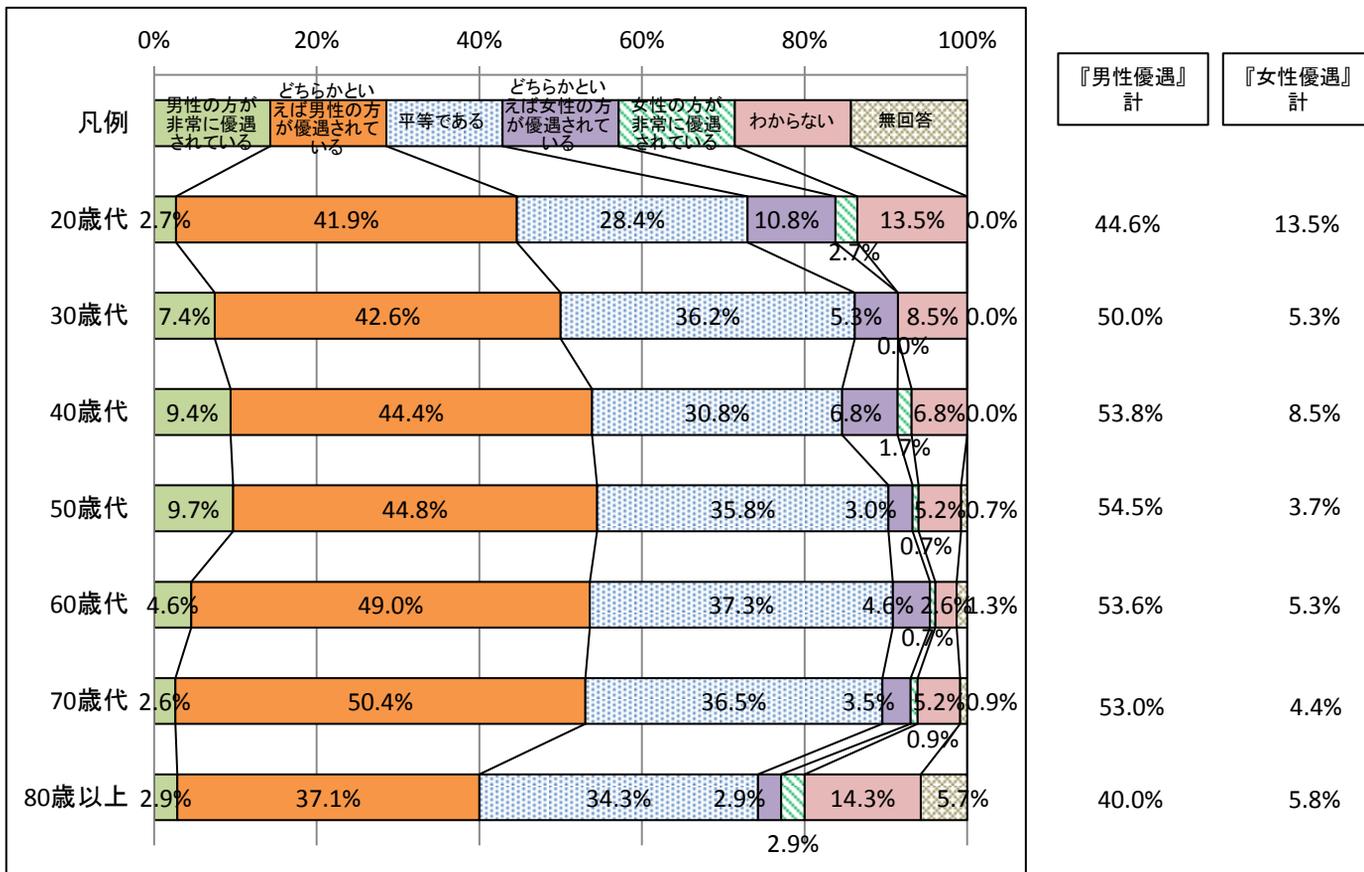
◆ 男女別で見ると、「平等である」の割合は、男性は42.5%女性は28.7%と、13.8ポイント女性が低くなっている。また、女性の58.8%が『男性優遇』(「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性の方が非常に優遇されている」)と感じており、男性の42.2%に比べて16.6ポイント高くなっている。

◆ 前回調査(平成18年度)と比較すると、「平等である」と回答した割合は、5.2ポイント高くなっている。また、『男性優遇』と回答した割合は7.8ポイント高くなっているが、『女性優遇』と回答した割合は、3.2ポイント低くなっている。

◆ 鹿児島県調査(平成28年度)と比較すると、「平等である」と回答した割合は、4.3ポイント低くなっている。また、『男性優遇』と回答した割合は5.0ポイント、『女性優遇』と回答した割合は、1.8ポイント高くなっている。

《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	2	2.7%	31	41.9%	21	28.4%	8	10.8%	2	2.7%	10	13.5%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	7	7.4%	40	42.6%	34	36.2%	5	5.3%	0	0.0%	8	8.5%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	11	9.4%	52	44.4%	36	30.8%	8	6.8%	2	1.7%	8	6.8%	0	0.0%
50歳代	134	100.0%	13	9.7%	60	44.8%	48	35.8%	4	3.0%	1	0.7%	7	5.2%	1	0.7%
60歳代	153	100.0%	7	4.6%	75	49.0%	57	37.3%	7	4.6%	1	0.7%	4	2.6%	2	1.3%
70歳代	115	100.0%	3	2.6%	58	50.4%	42	36.5%	4	3.5%	1	0.9%	6	5.2%	1	0.9%
80歳以上	35	100.0%	1	2.9%	13	37.1%	12	34.3%	1	2.9%	1	2.9%	5	14.3%	2	5.7%



◆ 年代別で見ると、全ての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が最も高くなっており、特に70歳代では5割をこえている。次いで「平等である」の割合が高くなっている。

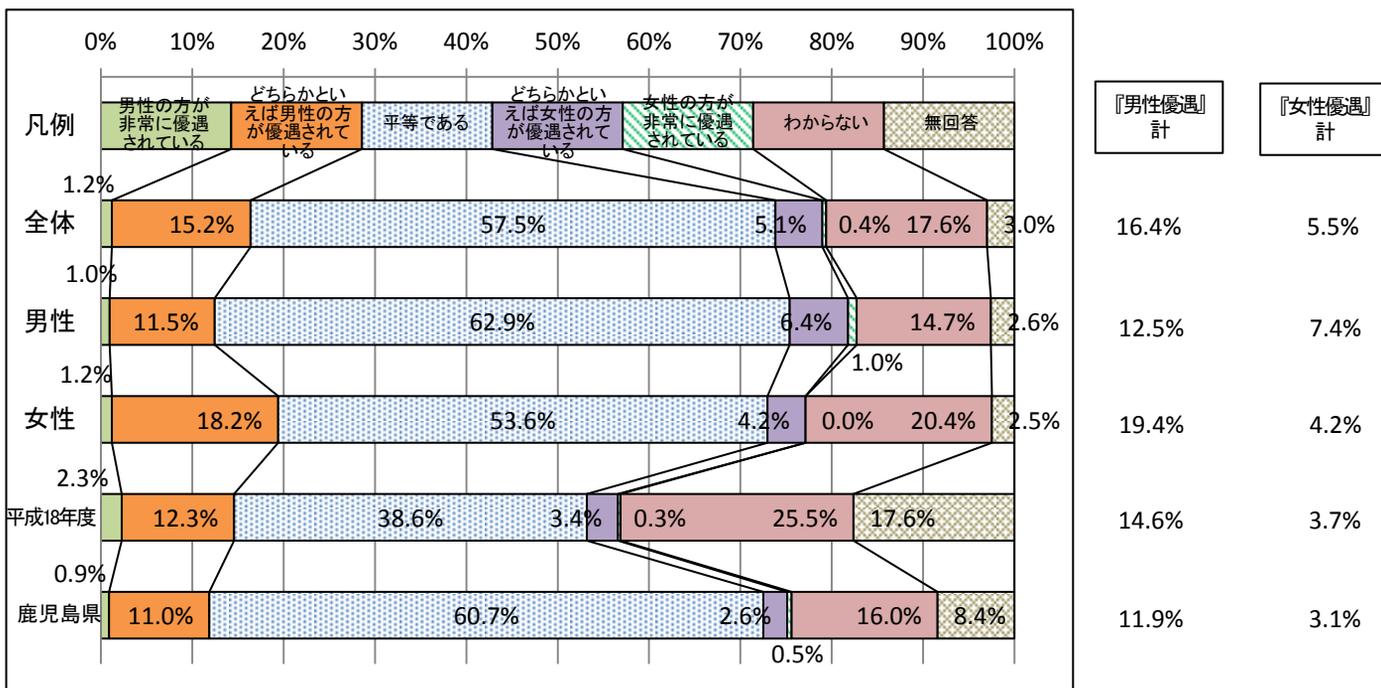
◆ 『男性優遇』と『女性優遇』の割合を比較すると、全ての年代で『男性優遇』と回答した割合が上回っており、特に50歳代では『男性優遇』が『女性優遇』を50.8ポイント上回っている。

## ② 学校教育の場で

《性別件数:無回答 18件除く》

(平成18年度調査・平成28年度鹿児島県意識調査)

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	9	1.2%	112	15.2%	424	57.5%	38	5.1%	3	0.4%	130	17.6%	22	3.0%
男性	313	100.0%	3	1.0%	36	11.5%	197	62.9%	20	6.4%	3	1.0%	46	14.7%	8	2.6%
女性	407	100.0%	5	1.2%	74	18.2%	218	53.6%	17	4.2%	0	0.0%	83	20.4%	10	2.5%
平成18年度	975	100.0%	22	2.3%	120	12.3%	376	38.6%	33	3.4%	3	0.3%	249	25.5%	172	17.6%
鹿児島県	2,227	100.0%	19	0.9%	244	11.0%	1,351	60.7%	59	2.6%	11	0.5%	357	16.0%	186	8.4%



◆ 全体では「平等である」が57.5%と最も高く、次いで「わからない」(17.6%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(15.2%)の順となっている。

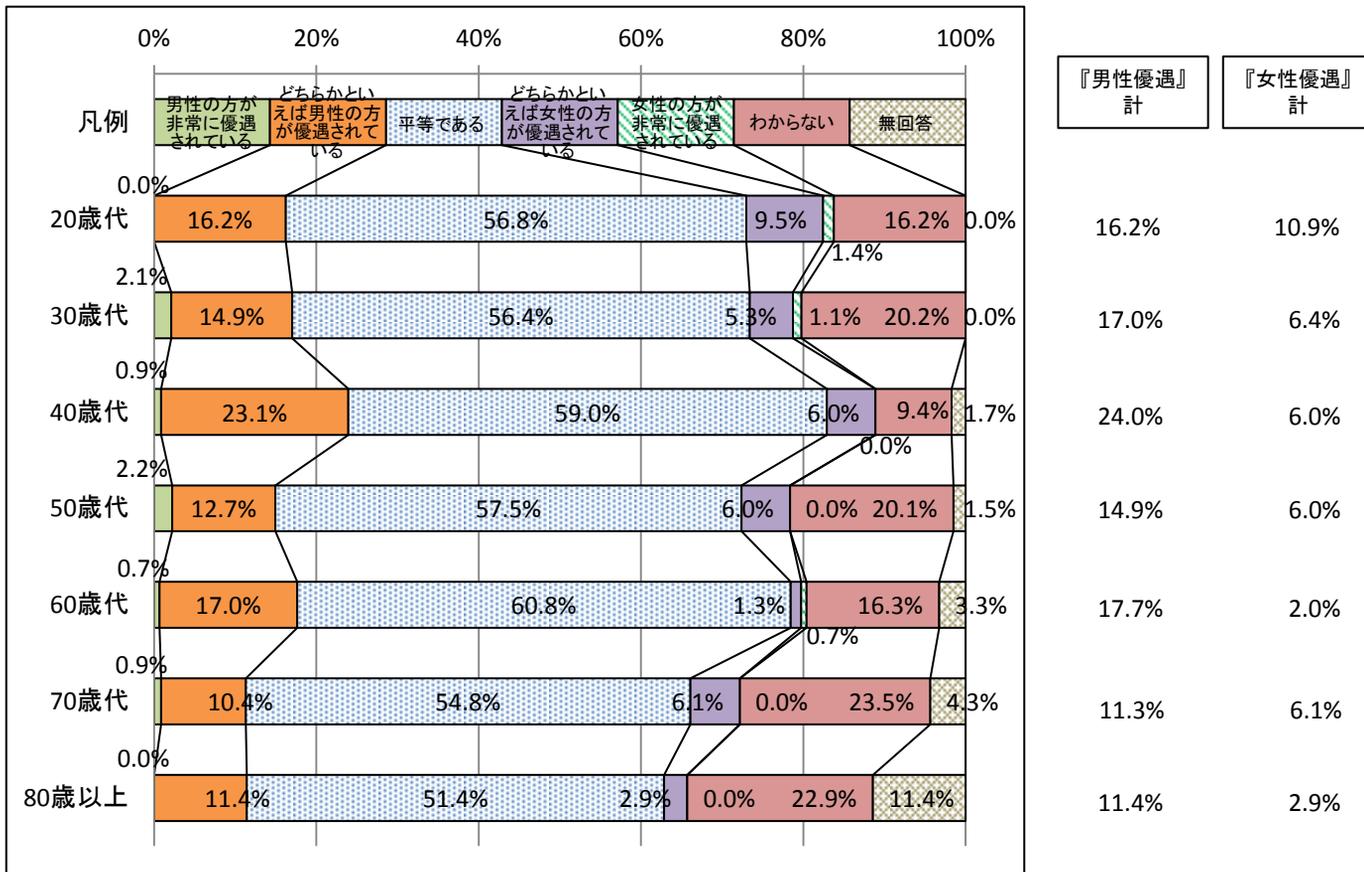
◆ 男女別で見ると、どちらも「平等である」、次いで「わからない」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の順になっているが、「平等である」と感じているのは、男性より女性の方が9.3ポイント低くなっている。また、女性の19.4%が『男性優遇』(「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性の方が非常に優遇されている」と感じており、男性の12.5%に比べて6.9ポイント高くなっている。

◆ 前回調査(平成18年度)と比較すると、「平等である」と回答した割合は、18.9ポイント高くなっている。また、『男性優遇』『女性優遇』と回答した割合は、どちらも1.8ポイント高くなっている。

◆ 鹿児島県調査(平成28年度)と比較すると、「平等である」と回答した割合は、3.2ポイント低くなっている。また、『男性優遇』と回答した割合は4.5ポイント、『女性優遇』と回答した割合は、2.4ポイント高くなっている。

《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	0	0.0%	12	16.2%	42	56.8%	7	9.5%	1	1.4%	12	16.2%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	2	2.1%	14	14.9%	53	56.4%	5	5.3%	1	1.1%	19	20.2%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	1	0.9%	27	23.1%	69	59.0%	7	6.0%	0	0.0%	11	9.4%	2	1.7%
50歳代	134	100.0%	3	2.2%	17	12.7%	77	57.5%	8	6.0%	0	0.0%	27	20.1%	2	1.5%
60歳代	153	100.0%	1	0.7%	26	17.0%	93	60.8%	2	1.3%	1	0.7%	25	16.3%	5	3.3%
70歳代	115	100.0%	1	0.9%	12	10.4%	63	54.8%	7	6.1%	0	0.0%	27	23.5%	5	4.3%
80歳以上	35	100.0%	0	0.0%	4	11.4%	18	51.4%	1	2.9%	0	0.0%	8	22.9%	4	11.4%



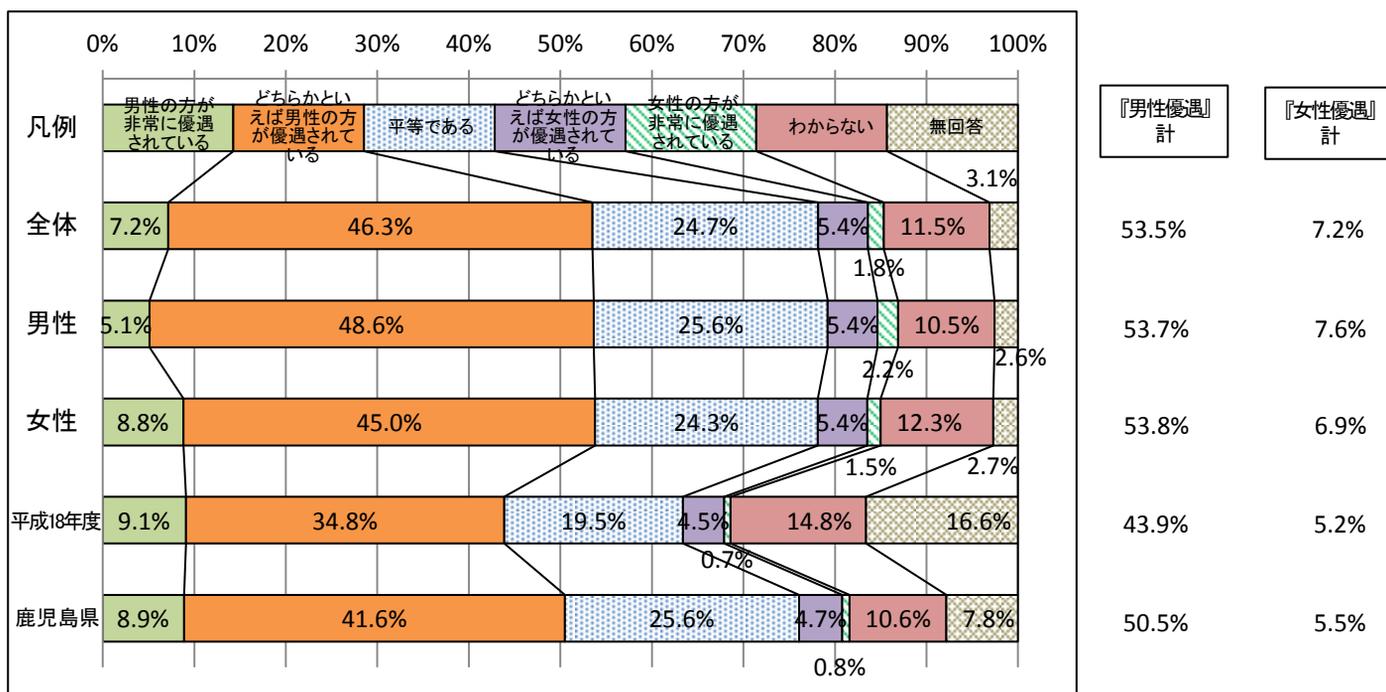
- ◆ 年代別で見ると、全ての年代で「平等である」と回答した割合が最も高く、5割をこえている。
- ◆ 『男性優遇』と『女性優遇』の割合を比較すると、全ての年代で『男性優遇』と回答した割合が上回っており、特に40歳代では『男性優遇』が『女性優遇』を18.0ポイント上回っている。

### ③ 職場で

《性別件数:無回答 18件除く》

(平成18年度調査・平成28年度鹿児島県意識調査)

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	53	7.2%	342	46.3%	182	24.7%	40	5.4%	13	1.8%	85	11.5%	23	3.1%
男性	313	100.0%	16	5.1%	152	48.6%	80	25.6%	17	5.4%	7	2.2%	33	10.5%	8	2.6%
女性	407	100.0%	36	8.8%	183	45.0%	99	24.3%	22	5.4%	6	1.5%	50	12.3%	11	2.7%
平成18年度	975	100.0%	89	9.1%	339	34.8%	190	19.5%	44	4.5%	7	0.7%	144	14.8%	162	16.6%
鹿児島県	2,227	100.0%	199	8.9%	927	41.6%	571	25.6%	104	4.7%	17	0.8%	236	10.6%	173	7.8%



◆ 全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が46.3%と最も高く、次いで「平等である」(24.7%)、「わからない」(11.5%)の順となっている。

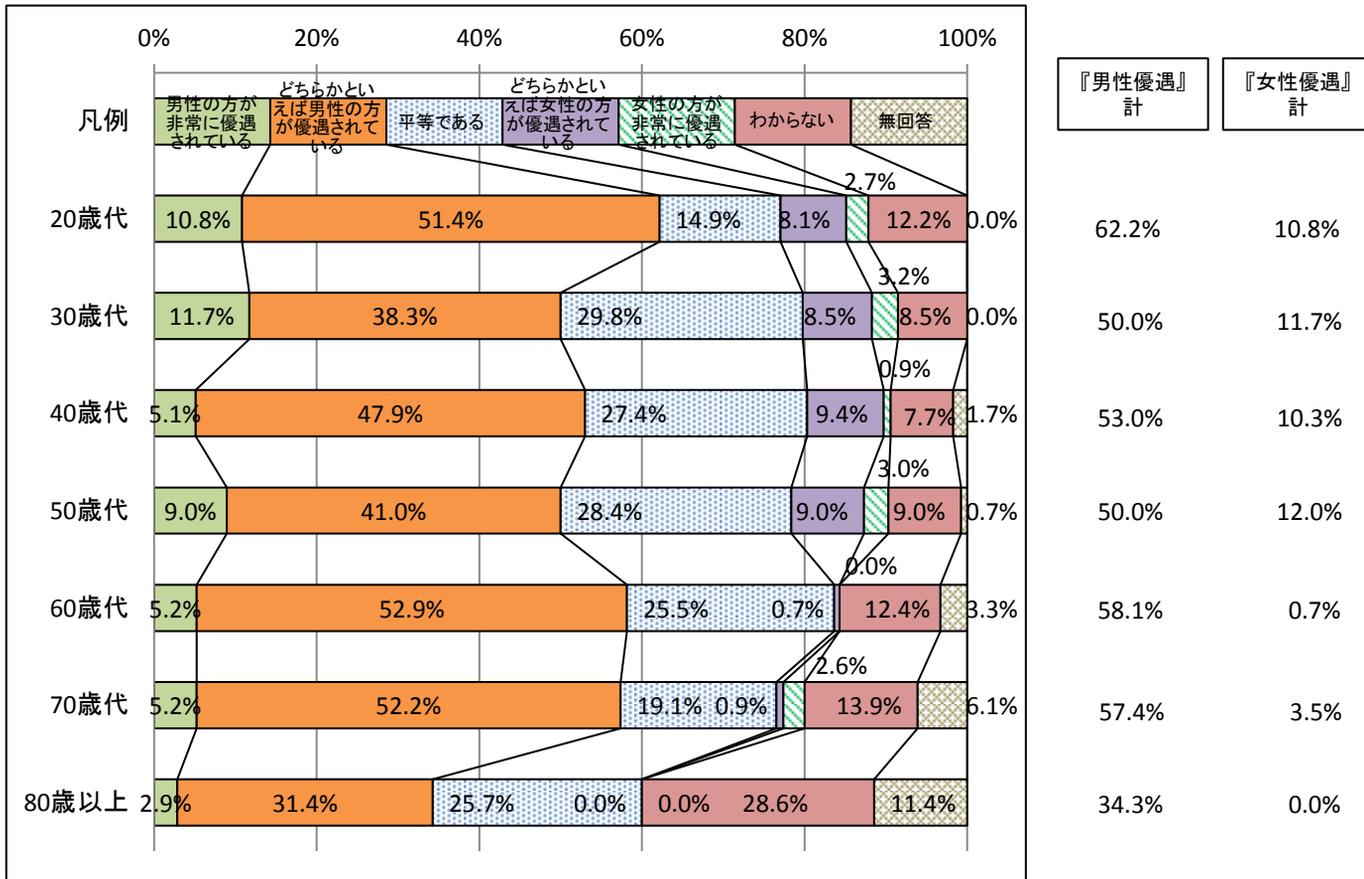
◆ 男女別でみると、どちらも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、次いで「平等である」、「わからない」の順になっているが、「平等である」と感じているのは、男性より女性の方が1.3ポイント低くなっている。また、『男性優遇』(「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性の方が非常に優遇されている」と感じている男性と女性の割合の差は、0.1ポイントと小さくなっている。

◆ 前回調査(平成18年度)と比較すると、「平等である」と回答した割合は、5.2ポイント高くなっている。また、『男性優遇』と回答した割合は9.6ポイント、『女性優遇』と回答した割合は2.0ポイント高くなっている。

◆ 鹿児島県調査(平成28年度)と比較すると、「平等である」と回答した割合は、0.9ポイント低くなっている。また、『男性優遇』と回答した割合は3.0ポイント、『女性優遇』と回答した割合は、1.7ポイント高くなっている。

《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	8	10.8%	38	51.4%	11	14.9%	6	8.1%	2	2.7%	9	12.2%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	11	11.7%	36	38.3%	28	29.8%	8	8.5%	3	3.2%	8	8.5%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	6	5.1%	56	47.9%	32	27.4%	11	9.4%	1	0.9%	9	7.7%	2	1.7%
50歳代	134	100.0%	12	9.0%	55	41.0%	38	28.4%	12	9.0%	4	3.0%	12	9.0%	1	0.7%
60歳代	153	100.0%	8	5.2%	81	52.9%	39	25.5%	1	0.7%	0	0.0%	19	12.4%	5	3.3%
70歳代	115	100.0%	6	5.2%	60	52.2%	22	19.1%	1	0.9%	3	2.6%	16	13.9%	7	6.1%
80歳以上	35	100.0%	1	2.9%	11	31.4%	9	25.7%	0	0.0%	0	0.0%	10	28.6%	4	11.4%



◆ 年代別で見ると、全ての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が最も高く、特に30歳代と80歳以上を除いた年代では、4割をこえている。

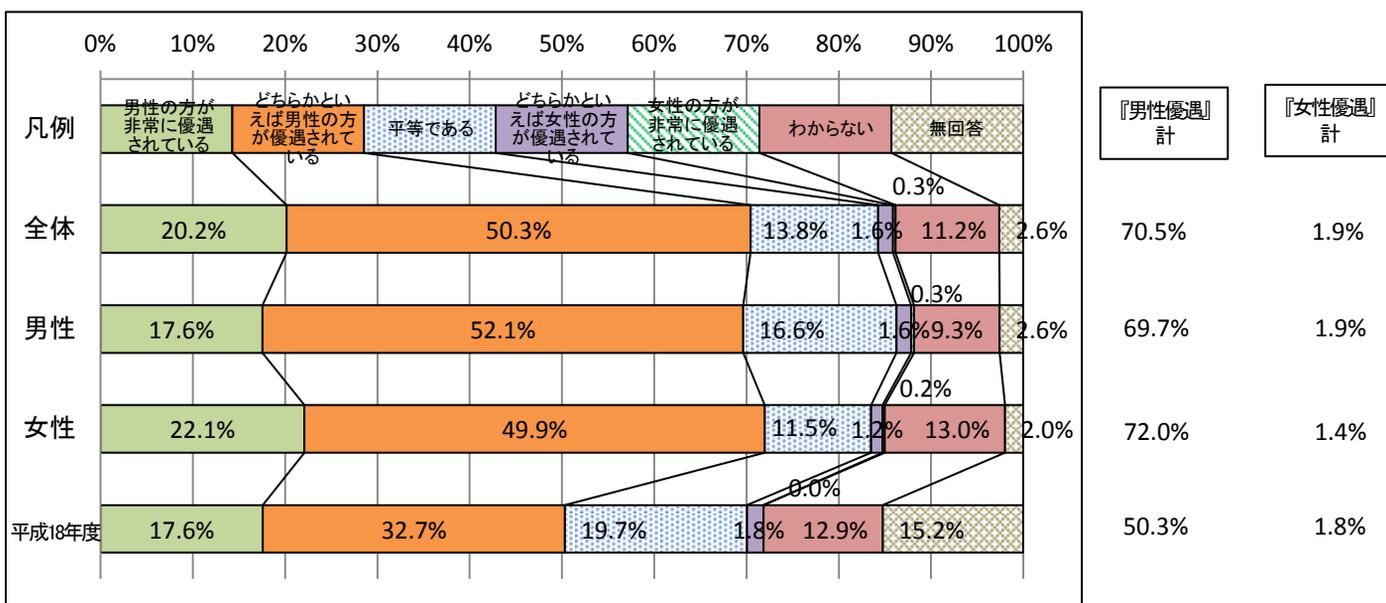
◆ 『男性優遇』と『女性優遇』では、全ての年代で『男性優遇』と回答した割合が上回っており、特に20歳代と60～70歳代では、『男性優遇』が『女性優遇』より50ポイント以上高くなっている。 -14-

#### ④ 政治の場で

《性別件数:無回答 18件除く》

(平成18年度調査)

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	149	20.2%	371	50.3%	102	13.8%	12	1.6%	2	0.3%	83	11.2%	19	2.6%
男性	313	100.0%	55	17.6%	163	52.1%	52	16.6%	5	1.6%	1	0.3%	29	9.3%	8	2.6%
女性	407	100.0%	90	22.1%	203	49.9%	47	11.5%	5	1.2%	1	0.2%	53	13.0%	8	2.0%
平成18年度	975	100.0%	172	17.6%	319	32.7%	192	19.7%	18	1.8%	0	0.0%	126	12.9%	148	15.2%



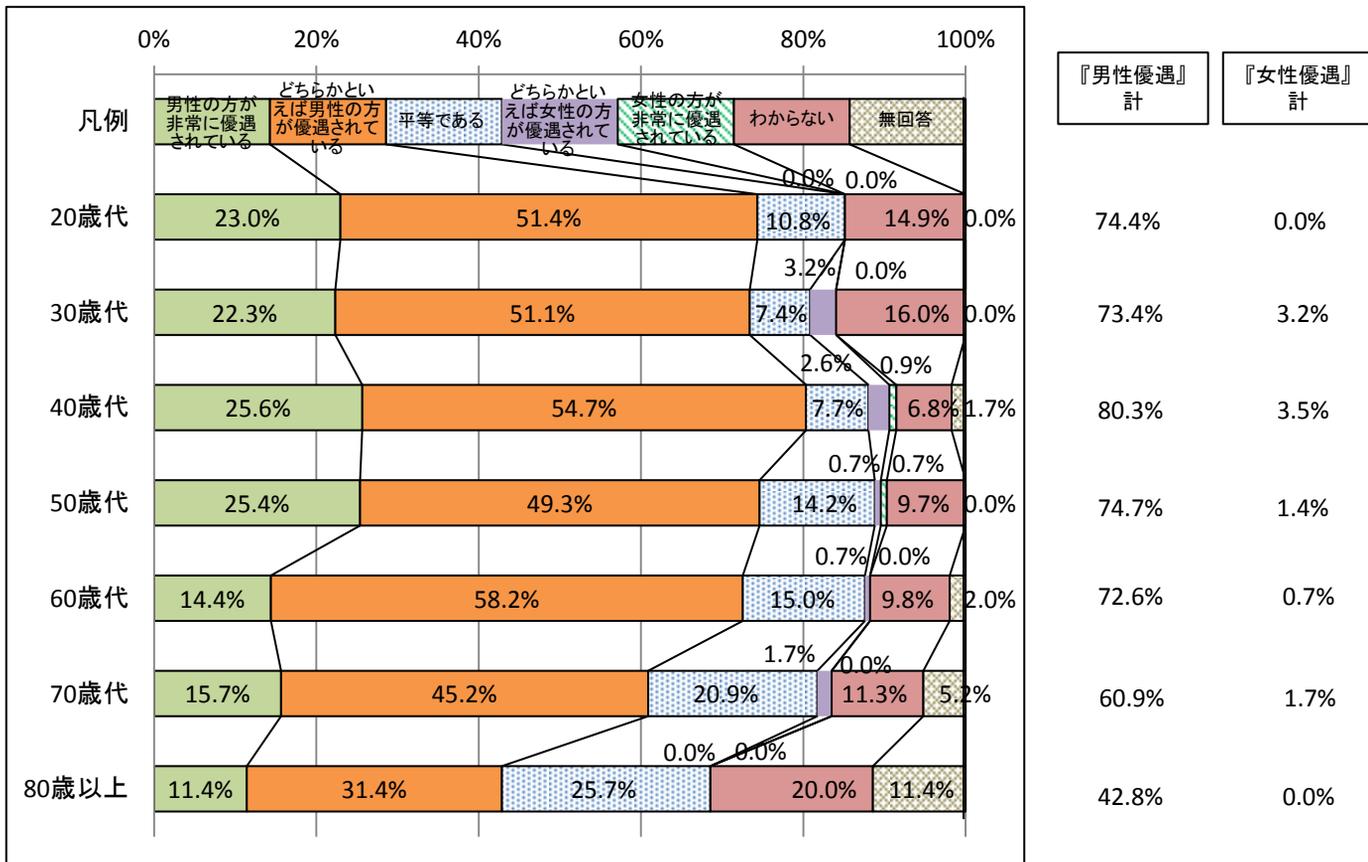
◆ 全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が50.3%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(20.2%)、「平等である」(13.8%)の順となっている。また、『男性優遇』(「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性の方が非常に優遇されている」と『女性優遇』(「どちらかといえば女性の方が優遇されている」+「女性の方が非常に優遇されている」)では、『男性優遇』が『女性優遇』より、68.6ポイント高くなっている。

◆ 男女別で見ると、「平等である」の割合は、男性は16.6%女性11.5%と、女性の方が5.1ポイント低くなっている。また、女性の72.0%が『男性優遇』(「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性の方が非常に優遇されている」と感じており、男性の69.7%に比べて2.3ポイント高くなっている。

◆ 前回調査(平成18年度)と比較すると、「平等である」と回答した割合は、5.9ポイント低くなっている。また、『男性優遇』と回答した割合は20.2ポイント、『女性優遇』と回答した割合は0.1ポイント高くなっている。

《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	17	23.0%	38	51.4%	8	10.8%	0	0.0%	0	0.0%	11	14.9%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	21	22.3%	48	51.1%	7	7.4%	3	3.2%	0	0.0%	15	16.0%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	30	25.6%	64	54.7%	9	7.7%	3	2.6%	1	0.9%	8	6.8%	2	1.7%
50歳代	134	100.0%	34	25.4%	66	49.3%	19	14.2%	1	0.7%	1	0.7%	13	9.7%	0	0.0%
60歳代	153	100.0%	22	14.4%	89	58.2%	23	15.0%	1	0.7%	0	0.0%	15	9.8%	3	2.0%
70歳代	115	100.0%	18	15.7%	52	45.2%	24	20.9%	2	1.7%	0	0.0%	13	11.3%	6	5.2%
80歳以上	35	100.0%	4	11.4%	11	31.4%	9	25.7%	0	0.0%	0	0.0%	7	20.0%	4	11.4%



◆ 年代別で見ると、全ての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が最も高く、特に20～40歳代と60歳代では、5割をこえている。

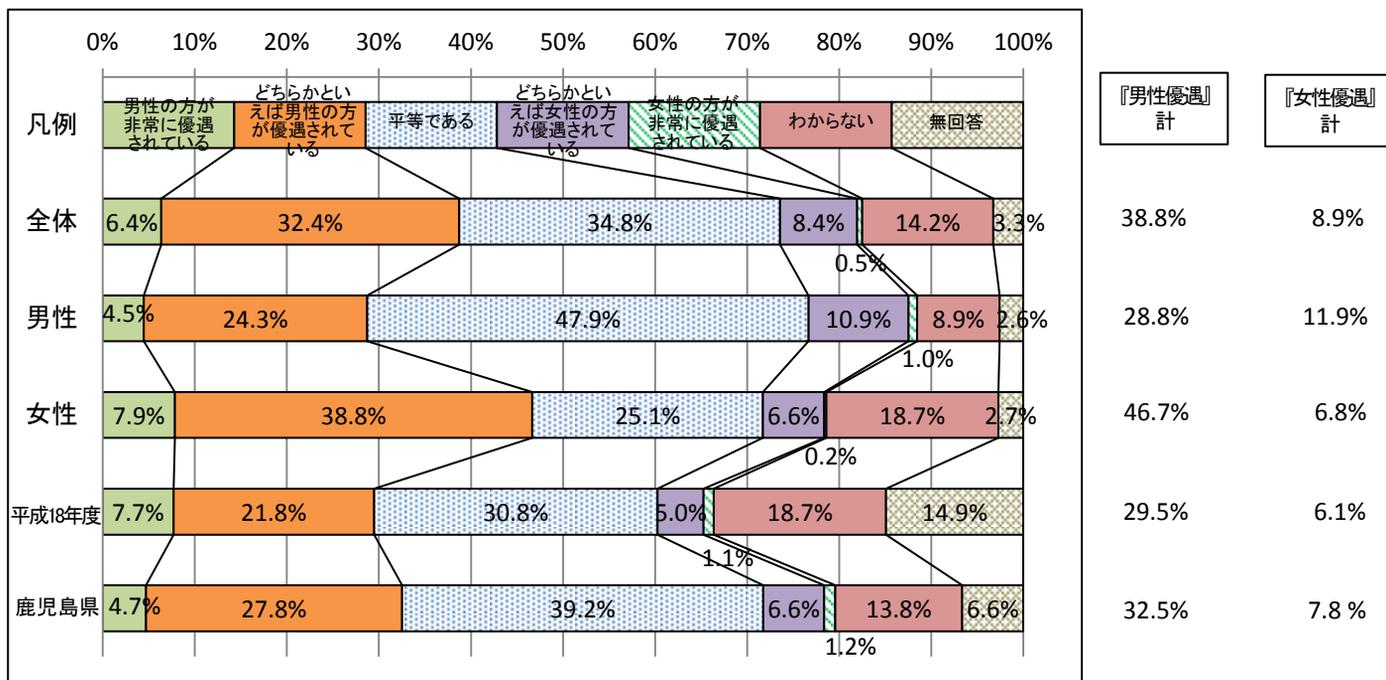
◆ 『男性優遇』と『女性優遇』では、全ての年代で『男性優遇』と回答した割合が上回っており、特に20～60歳代では、『男性優遇』が『女性優遇』より70ポイント以上高くなっている。

## ⑤ 法律や制度で

《性別件数:無回答 18件除く》

(平成18年度調査・平成28年度鹿児島県意識調査)

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	47	6.4%	239	32.4%	257	34.8%	62	8.4%	4	0.5%	105	14.2%	24	3.3%
男性	313	100.0%	14	4.5%	76	24.3%	150	47.9%	34	10.9%	3	1.0%	28	8.9%	8	2.6%
女性	407	100.0%	32	7.9%	158	38.8%	102	25.1%	27	6.6%	1	0.2%	76	18.7%	11	2.7%
平成18年度	975	100.0%	75	7.7%	213	21.8%	300	30.8%	49	5.0%	11	1.1%	182	18.7%	145	14.9%
鹿児島県	2,227	100.0%	104	4.7%	620	27.8%	874	39.2%	147	6.6%	27	1.2%	307	13.8%	148	6.6%



◆ 全体では「平等である」が34.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(32.4%)、「わからない」(14.2%)の順となっている。また、『男性優遇』(「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性の方が非常に優遇されている」と『女性優遇』(「どちらかといえば女性の方が優遇されている」+「女性の方が非常に優遇されている」)では、『男性優遇』が『女性優遇』より、29.9ポイント高くなっている。

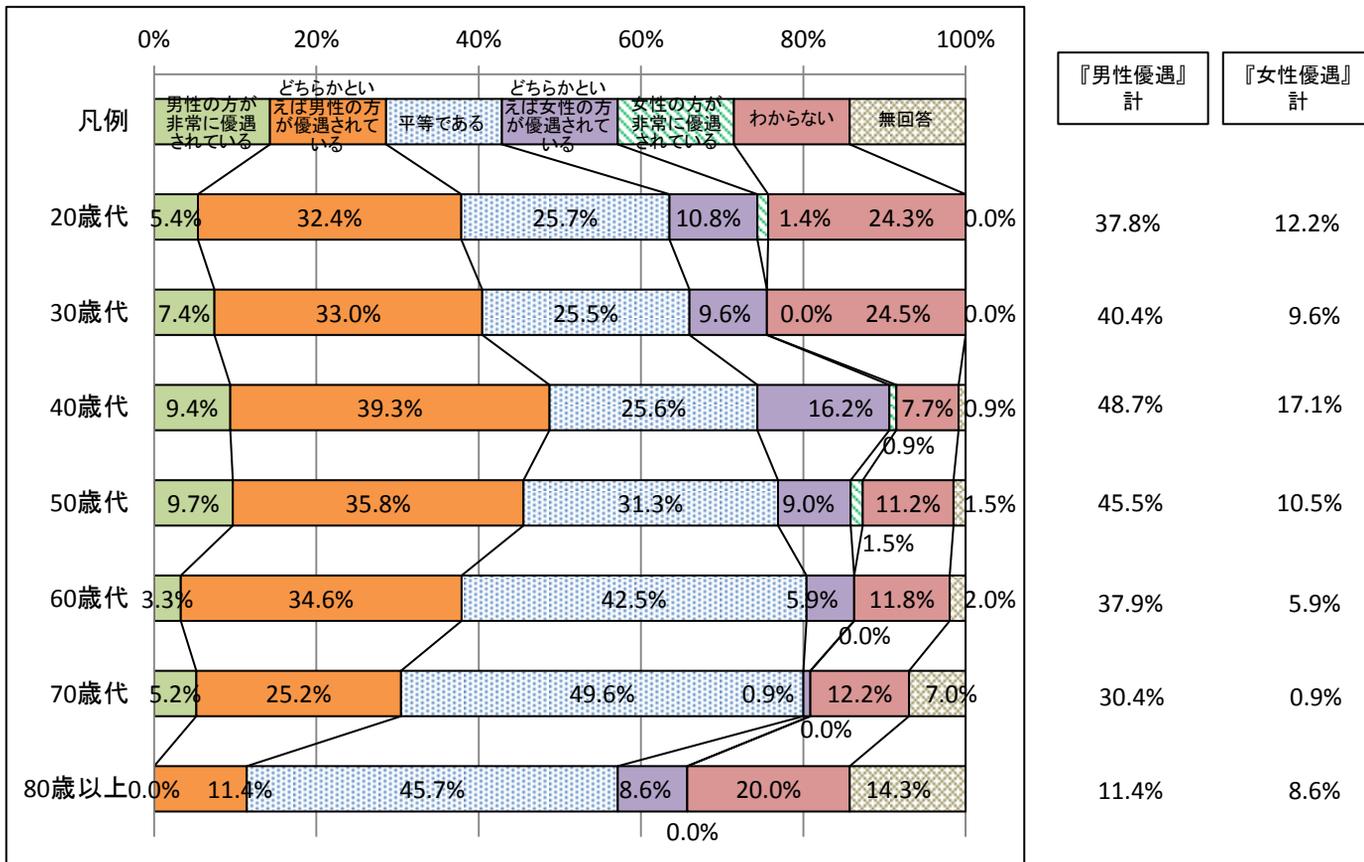
◆ 男女別でみると、男性は「平等である」、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の順になっており、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「平等である」、「わからない」の順になっている。「平等である」と感じているのは、男性より女性の方が22.8ポイント低くなっている。また、女性の46.7%が『男性優遇』と感じており、男性の28.8%に比べて17.9ポイント高くなっている。

◆ 前回調査(平成18年度)と比較すると、「平等である」と回答した割合は4.0ポイント、『男性優遇』と回答した割合は9.3ポイント、『女性優遇』と回答した割合は2.8ポイント高くなっている。

◆ 鹿児島県調査(平成28年度)と比較すると、「平等である」と回答した割合は、4.4ポイント低くなっている。また、『男性優遇』と回答した割合は6.3ポイント、『女性優遇』と回答した割合は、1.1ポイント高くなっている。

《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	4	5.4%	24	32.4%	19	25.7%	8	10.8%	1	1.4%	18	24.3%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	7	7.4%	31	33.0%	24	25.5%	9	9.6%	0	0.0%	23	24.5%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	11	9.4%	46	39.3%	30	25.6%	19	16.2%	1	0.9%	9	7.7%	1	0.9%
50歳代	134	100.0%	13	9.7%	48	35.8%	42	31.3%	12	9.0%	2	1.5%	15	11.2%	2	1.5%
60歳代	153	100.0%	5	3.3%	53	34.6%	65	42.5%	9	5.9%	0	0.0%	18	11.8%	3	2.0%
70歳代	115	100.0%	6	5.2%	29	25.2%	57	49.6%	1	0.9%	0	0.0%	14	12.2%	8	7.0%
80歳以上	35	100.0%	0	0.0%	4	11.4%	16	45.7%	3	8.6%	0	0.0%	7	20.0%	5	14.3%



◆ 年代別で見ると、20～50歳代では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が最も高いが、60歳代以上では「平等である」と回答した割合が最も高くなっている。

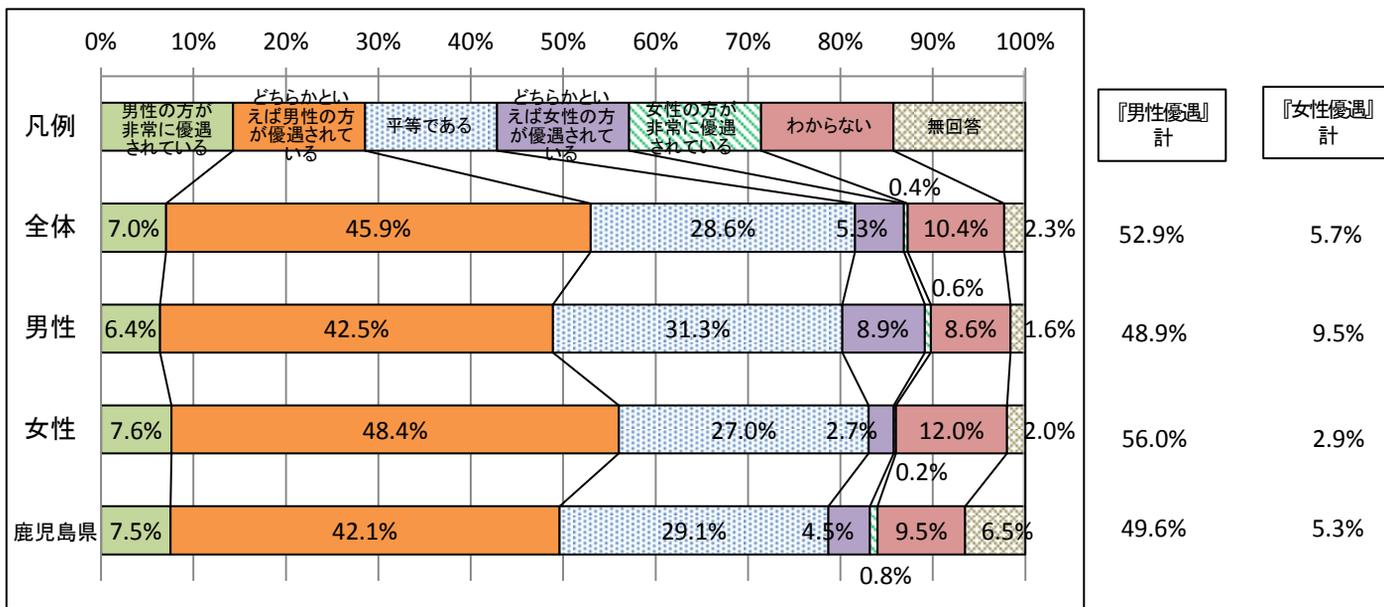
◆ 『男性優遇』と『女性優遇』では、全ての年代で『男性優遇』と回答した割合が上回っており、特に30～60歳代では、『男性優遇』が『女性優遇』より30ポイント以上高くなっている。

## ⑥ 地域社会の中で

《性別件数:無回答 18件除く》

(平成28年度鹿児島県意識調査)

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	52	7.0%	339	45.9%	211	28.6%	39	5.3%	3	0.4%	77	10.4%	17	2.3%
男性	313	100.0%	20	6.4%	133	42.5%	98	31.3%	28	8.9%	2	0.6%	27	8.6%	5	1.6%
女性	407	100.0%	31	7.6%	197	48.4%	110	27.0%	11	2.7%	1	0.2%	49	12.0%	8	2.0%
鹿児島県	2,227	100.0%	168	7.5%	937	42.1%	649	29.1%	100	4.5%	17	0.8%	211	9.5%	145	6.5%



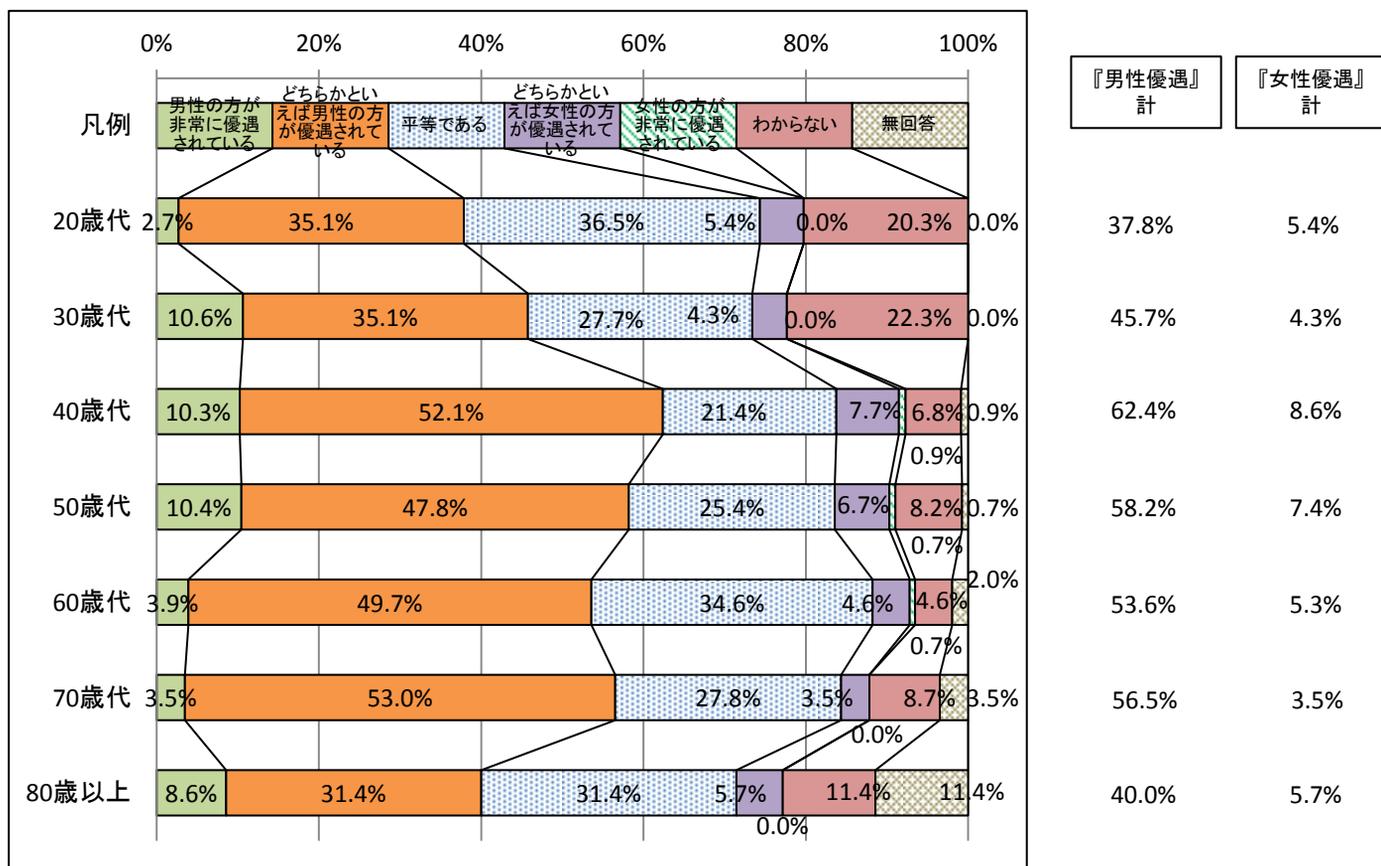
◆ 全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が45.9%と最も高く、次いで「平等である」(28.6%)、「わからない」(10.4%)の順となっている。また、『男性優遇』(「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性の方が非常に優遇されている」と『女性優遇』(「どちらかといえば女性の方が優遇されている」+「女性の方が非常に優遇されている」)では、『男性優遇』が『女性優遇』より、47.2ポイント高くなっている。

◆ 男女別で見ると、どちらも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、次いで「平等である」の順になっているが、「平等である」と感じているのは、男性より女性の方が4.3ポイント低くなっている。また、女性の56.0%が『男性優遇』と感じており、男性の48.9%に比べて7.1ポイント高くなっている。

◆ 鹿児島県調査(平成28年度)と比較すると、「平等である」と回答した割合は、0.5ポイント低くなっている。また、『男性優遇』と回答した割合は3.3ポイント、『女性優遇』と回答した割合は0.4ポイント高くなっている。

《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	2	2.7%	26	35.1%	27	36.5%	4	5.4%	0	0.0%	15	20.3%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	10	10.6%	33	35.1%	26	27.7%	4	4.3%	0	0.0%	21	22.3%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	12	10.3%	61	52.1%	25	21.4%	9	7.7%	1	0.9%	8	6.8%	1	0.9%
50歳代	134	100.0%	14	10.4%	64	47.8%	34	25.4%	9	6.7%	1	0.7%	11	8.2%	1	0.7%
60歳代	153	100.0%	6	3.9%	76	49.7%	53	34.6%	7	4.6%	1	0.7%	7	4.6%	3	2.0%
70歳代	115	100.0%	4	3.5%	61	53.0%	32	27.8%	4	3.5%	0	0.0%	10	8.7%	4	3.5%
80歳以上	35	100.0%	3	8.6%	11	31.4%	11	31.4%	2	5.7%	0	0.0%	4	11.4%	4	11.4%



◆ 年代別で見ると、30～70歳代では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が最も高いが、20歳代では「平等である」と回答した割合が最も高くなっている。

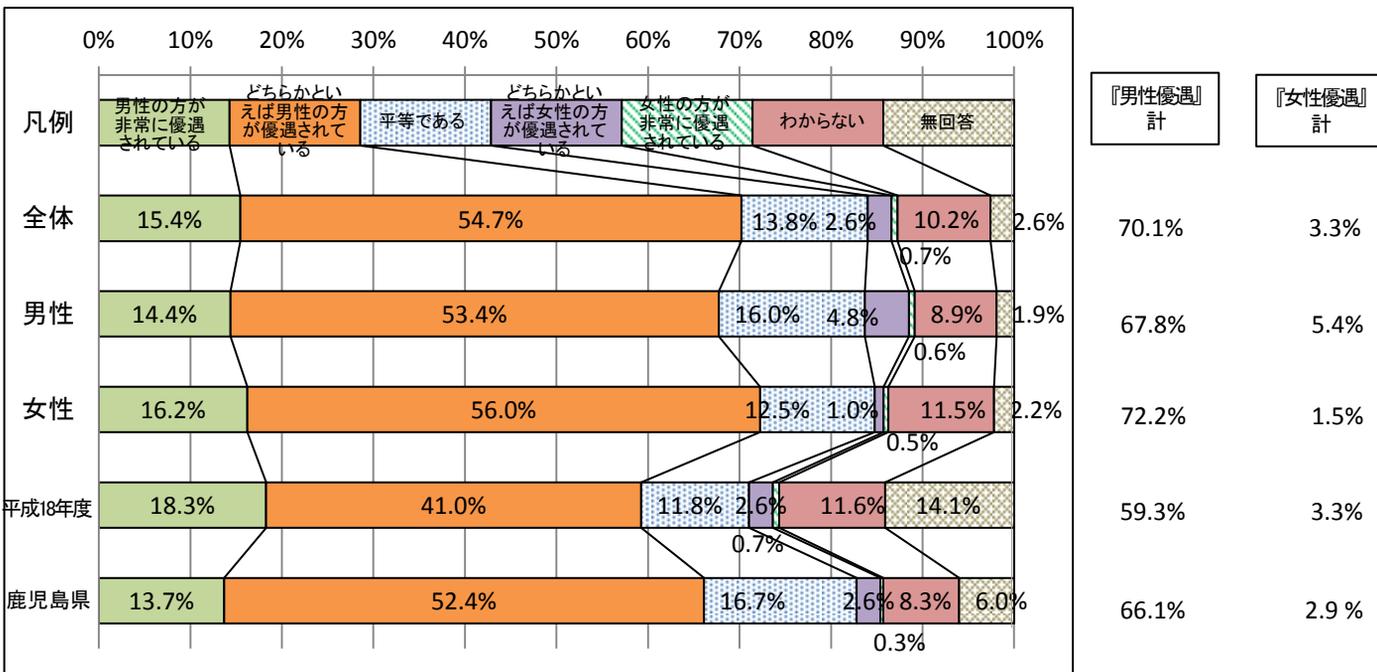
◆ 『男性優遇』と『女性優遇』では、全ての年代で『男性優遇』と回答した割合が上回っており、特に40～50歳代と70歳代では、『男性優遇』が『女性優遇』より、50ポイント以上高くなっている。

## ⑦ 社会通念、慣習・しきたりなど

《性別件数：無回答 18件除く》

(平成18年度調査・平成28年度鹿児島県意識調査)

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	114	15.4%	404	54.7%	102	13.8%	19	2.6%	5	0.7%	75	10.2%	19	2.6%
男性	313	100.0%	45	14.4%	167	53.4%	50	16.0%	15	4.8%	2	0.6%	28	8.9%	6	1.9%
女性	407	100.0%	66	16.2%	228	56.0%	51	12.5%	4	1.0%	2	0.5%	47	11.5%	9	2.2%
平成18年度	975	100.0%	178	18.3%	400	41.0%	115	11.8%	25	2.6%	7	0.7%	113	11.6%	137	14.1%
鹿児島県	2,227	100.0%	305	13.7%	1,168	52.4%	371	16.7%	58	2.6%	7	0.3%	185	8.3%	133	6.0%



◆ 全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が54.7%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(15.4%)、「平等である」(13.8%)の順となっている。また、『男性優遇』(「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性の方が非常に優遇されている」と『女性優遇』(「どちらかといえば女性の方が優遇されている」+「女性の方が非常に優遇されている」)では、『男性優遇』が『女性優遇』より、66.8ポイント高くなっている。

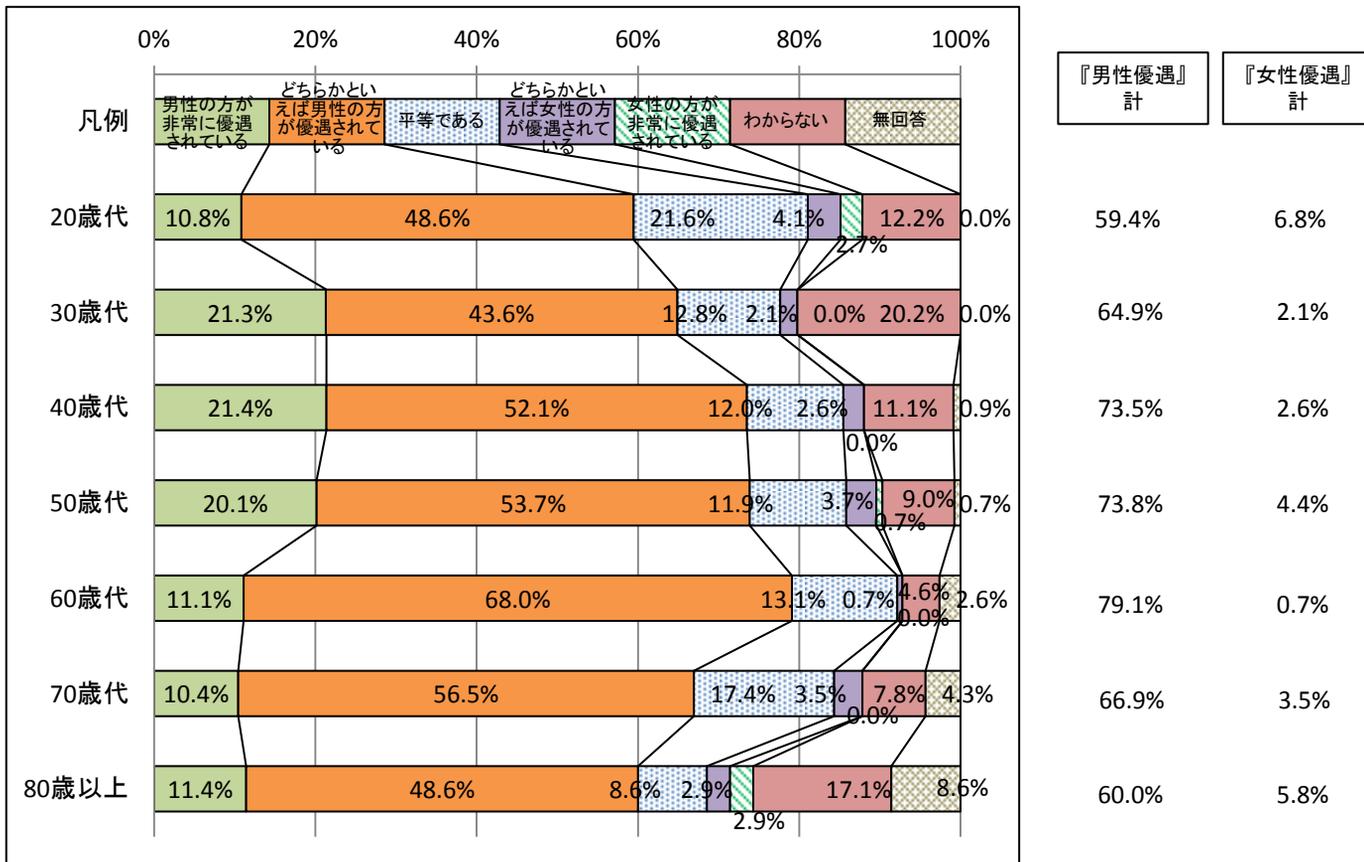
◆ 男女別で見ると、どちらも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高い割合となっているが、次いで男性は「平等である」、「男性の方が非常に優遇されている」となり、女性は「男性の方が非常に優遇されている」、「平等である」の順になっている。また、女性の72.2%が『男性優遇』と感じており、男性の67.8%に比べて4.4ポイント高くなっている。

◆ 前回調査(平成18年度)と比較すると、「平等である」と回答した割合は2.0ポイント、『男性優遇』と回答した割合は10.8ポイント高くなっている。

◆ 鹿児島県調査(平成28年度)と比較すると、「平等である」と回答した割合は、2.9ポイント低くなっている。また、『男性優遇』と回答した割合は4.0ポイント、『女性優遇』と回答した割合は、0.4ポイント高くなっている。

《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	8	10.8%	36	48.6%	16	21.6%	3	4.1%	2	2.7%	9	12.2%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	20	21.3%	41	43.6%	12	12.8%	2	2.1%	0	0.0%	19	20.2%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	25	21.4%	61	52.1%	14	12.0%	3	2.6%	0	0.0%	13	11.1%	1	0.9%
50歳代	134	100.0%	27	20.1%	72	53.7%	16	11.9%	5	3.7%	1	0.7%	12	9.0%	1	0.7%
60歳代	153	100.0%	17	11.1%	104	68.0%	20	13.1%	1	0.7%	0	0.0%	7	4.6%	4	2.6%
70歳代	115	100.0%	12	10.4%	65	56.5%	20	17.4%	4	3.5%	0	0.0%	9	7.8%	5	4.3%
80歳以上	35	100.0%	4	11.4%	17	48.6%	3	8.6%	1	2.9%	1	2.9%	6	17.1%	3	8.6%



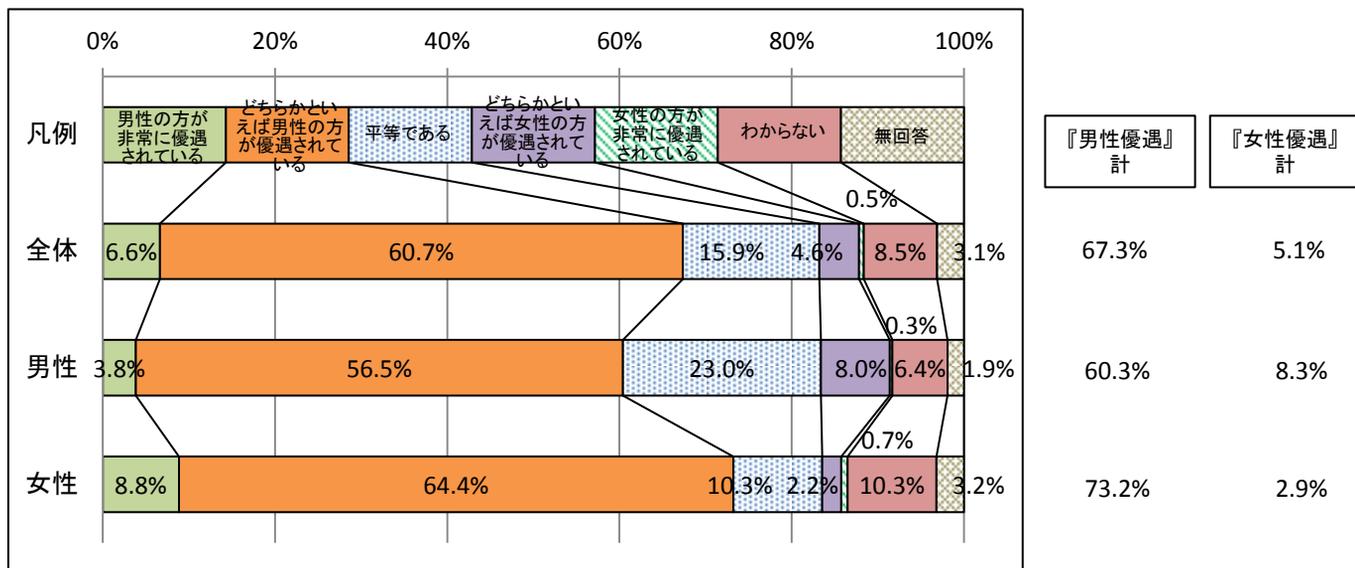
◆ 年代別で見ると、全ての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が最も高く、特に40～70歳代では5割をこえている。

◆ 『男性優遇』と『女性優遇』では、全ての年代で『男性優遇』と回答した割合が上回っており、特に40歳代と60歳代では、『男性優遇』が『女性優遇』より、70ポイント以上高くなっている。

【問3】 それでは、あなたは社会全体で見た場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。次の1～6の中からあなたの考えに最も近い番号を1つだけ選んでください。

《性別件数:無回答 18件除く》

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	49	6.6%	448	60.7%	117	15.9%	34	4.6%	4	0.5%	63	8.5%	23	3.1%
男性	313	100.0%	12	3.8%	177	56.5%	72	23.0%	25	8.0%	1	0.3%	20	6.4%	6	1.9%
女性	407	100.0%	36	8.8%	262	64.4%	42	10.3%	9	2.2%	3	0.7%	42	10.3%	13	3.2%



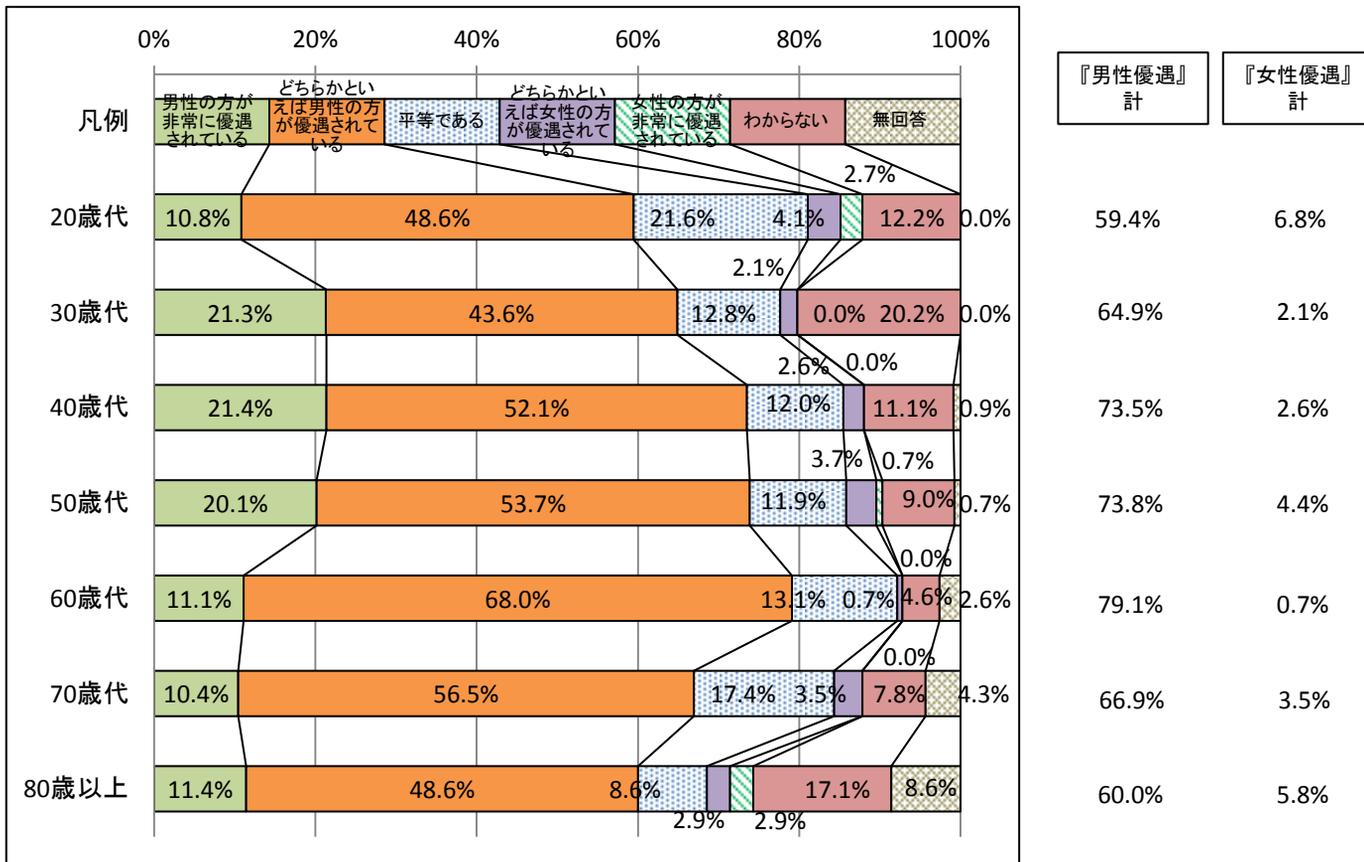
◆ 全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が60.7%と最も高く、次いで「平等である」(15.9%)、「わからない」(8.5%)の順となっている。

また、『男性優遇』(「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性の方が非常に優遇されている」と『女性優遇』(「どちらかといえば女性の方が優遇されている」+「女性の方が非常に優遇されている」)では、『男性優遇』が『女性優遇』より、62.2ポイント高くなっている。

◆ 男女別で見ると、どちらも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高い割合となっているが、次いで男性は「平等である」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の順となり、女性は「平等である」と「わからない」が同じ割合で続いている。また、女性の73.2%が『男性優遇』と感じており、男性の60.3%に比べて12.9ポイント高くなっている。

《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		男性の方が非常に優遇されている		どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等である		どちらかといえば女性の方が優遇されている		女性の方が非常に優遇されている		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	8	10.8%	36	48.6%	16	21.6%	3	4.1%	2	2.7%	9	12.2%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	20	21.3%	41	43.6%	12	12.8%	2	2.1%	0	0.0%	19	20.2%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	25	21.4%	61	52.1%	14	12.0%	3	2.6%	0	0.0%	13	11.1%	1	0.9%
50歳代	134	100.0%	27	20.1%	72	53.7%	16	11.9%	5	3.7%	1	0.7%	12	9.0%	1	0.7%
60歳代	153	100.0%	17	11.1%	104	68.0%	20	13.1%	1	0.7%	0	0.0%	7	4.6%	4	2.6%
70歳代	115	100.0%	12	10.4%	65	56.5%	20	17.4%	4	3.5%	0	0.0%	9	7.8%	5	4.3%
80歳以上	35	100.0%	4	11.4%	17	48.6%	3	8.6%	1	2.9%	1	2.9%	6	17.1%	3	8.6%



◆ 年代別で見ると、全ての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が最も高く、特に40～70歳代では5割をこえている。

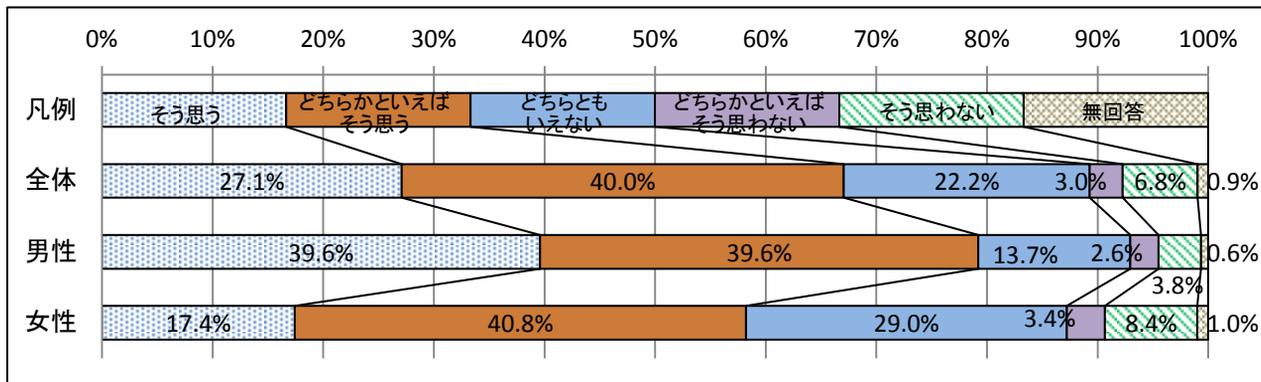
◆ 『男性優遇』と『女性優遇』では、全ての年代で『男性優遇』と回答した割合が上回っており、特に40歳代と60歳代では、『男性優遇』が『女性優遇』より、70ポイント以上高くなっている。

【問4】 あなたは次のようなことについてどう思いますか。

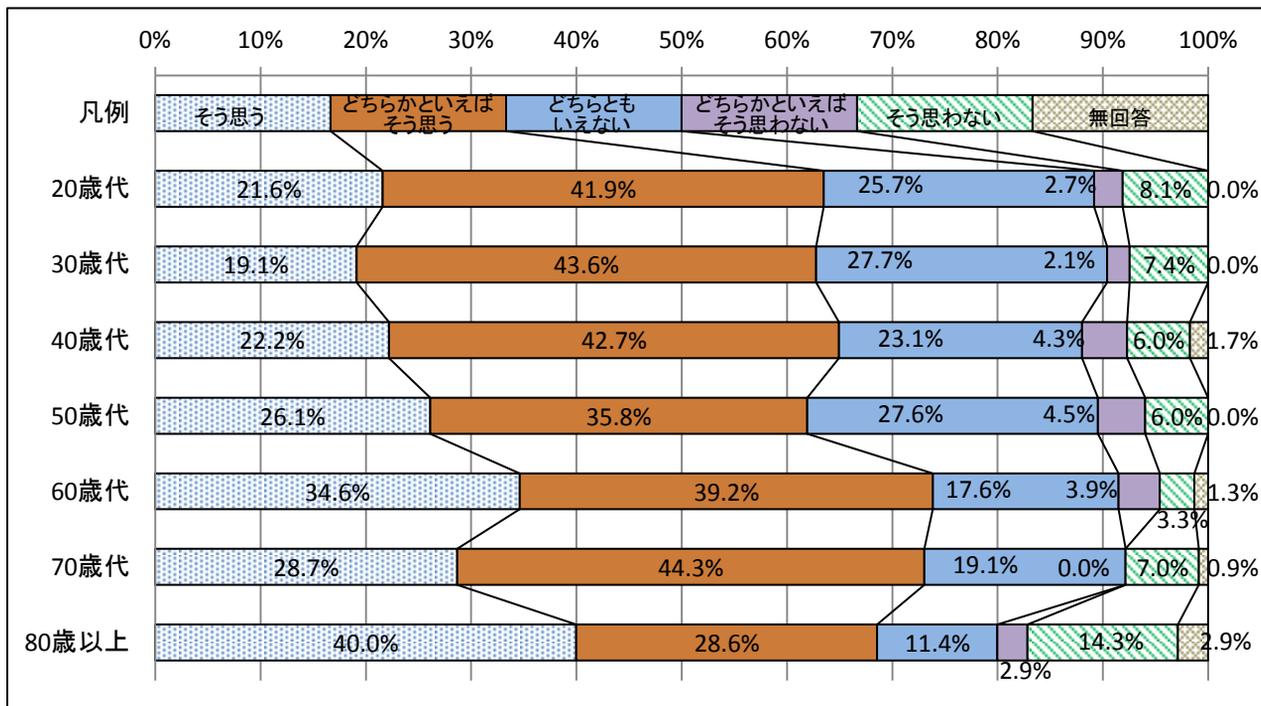
次の①～④の項目について、右欄の1～5のうちあてはまる番号を1つずつ選んでください。

① 妻や子どもを養うのは、男性の責任である

《性別件数：無回答 18件除く》



《年代別件数： 無回答16件除く》



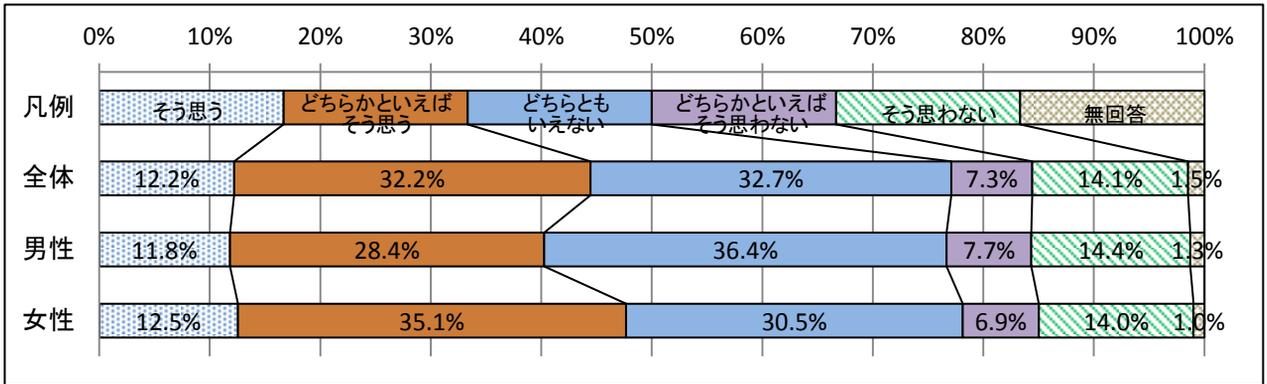
◆ 妻や子どもを養うのは、男性の責任と思うかについて性別で見ると、全体では「どちらかといえばそう思う」が40.0%と最も高く、次いで「そう思う」(27.1%)、「どちらともいえない」(22.2%)の順となっている。

◆ 男女別で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計割合は、男性79.2%、女性58.2%となっている。また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計割合は、男性6.4%女性11.8%となっている。

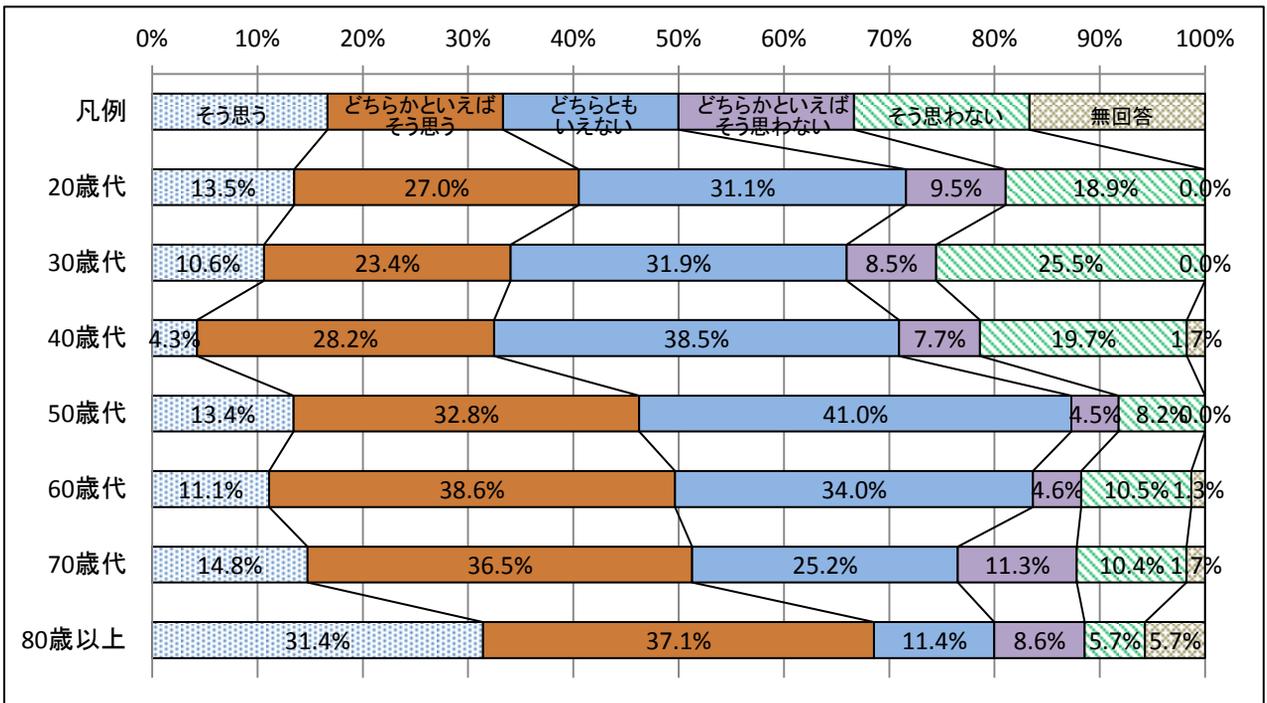
◆ 年代別で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計割合が最も高い年代は、60歳代(73.8%)で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計割合が最も高い年代は、80歳以上(17.2%)となっている。

## ② 女性は結婚したら自分自身のことより、家族を中心に考えるべきである

《性別件数:無回答 18件除く》



《年代別件数: 無回答16件除く》



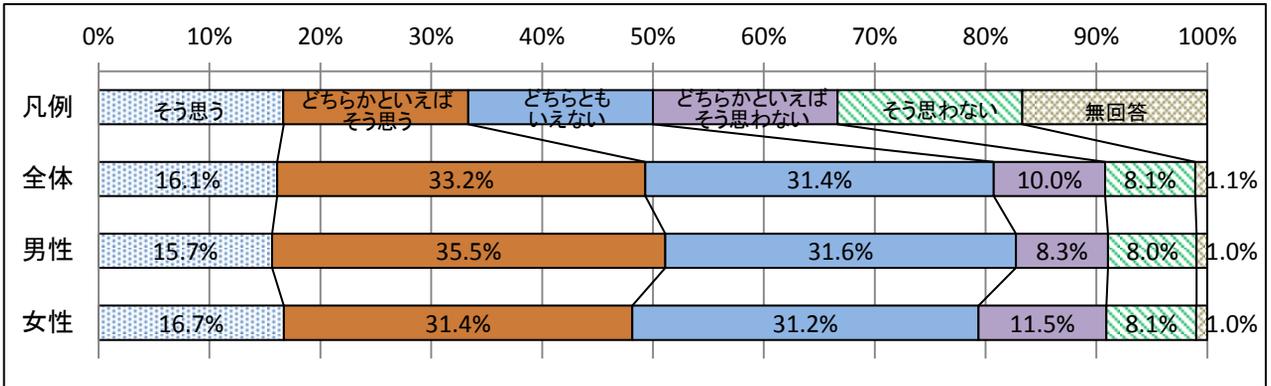
◆ 女性は結婚したら自分自身のことより、家族を中心に考えるべきかについて性別で見ると、全体では「どちらともいえない」が32.7%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(32.2%)、「そう思わない」(14.1%)の順となっている。

◆ 男女別で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計割合は、男性40.2%、女性47.6%となっている。また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計割合は、男性22.1%、女性20.9%となっている。

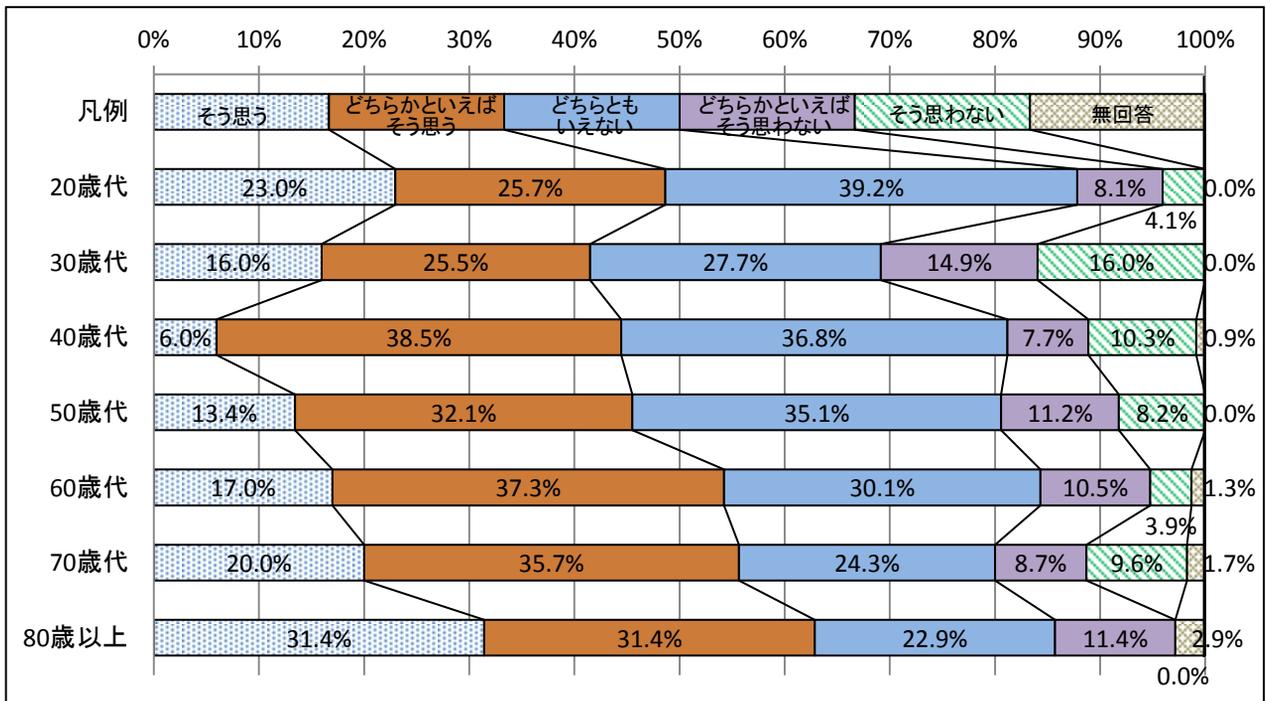
◆ 年代別で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計割合が最も高い年代は、80歳以上(68.5%)で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計割合が最も高い年代は、30歳代(34.0%)となっている。

### ③ 女性は仕事を持つのは良いが、家事、育児もきちんとすべきである

《性別件数:無回答 18件除く》



《年代別件数: 無回答16件除く》



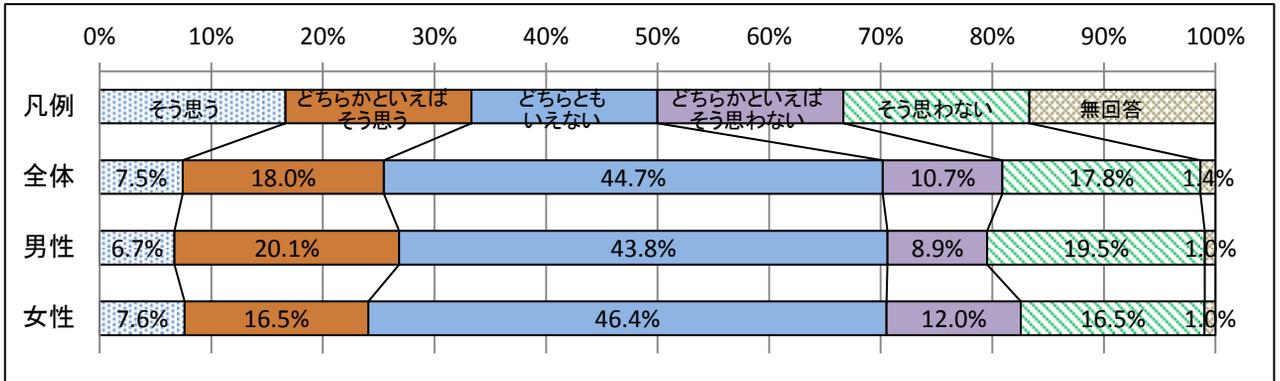
◆ 女性は仕事を持つのは良いが、家事、育児もきちんとすべきかについて性別で見ると全体では「どちらかといえばそう思う」が33.2%と最も高く、次いで「どちらともいえない」(31.4%)、「そう思う」(16.1%)の順となっている。

◆ 男女別で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計割合は、男性51.2%、女性48.1%となっている。また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計割合は、男性16.3%、女性19.6%となっている。

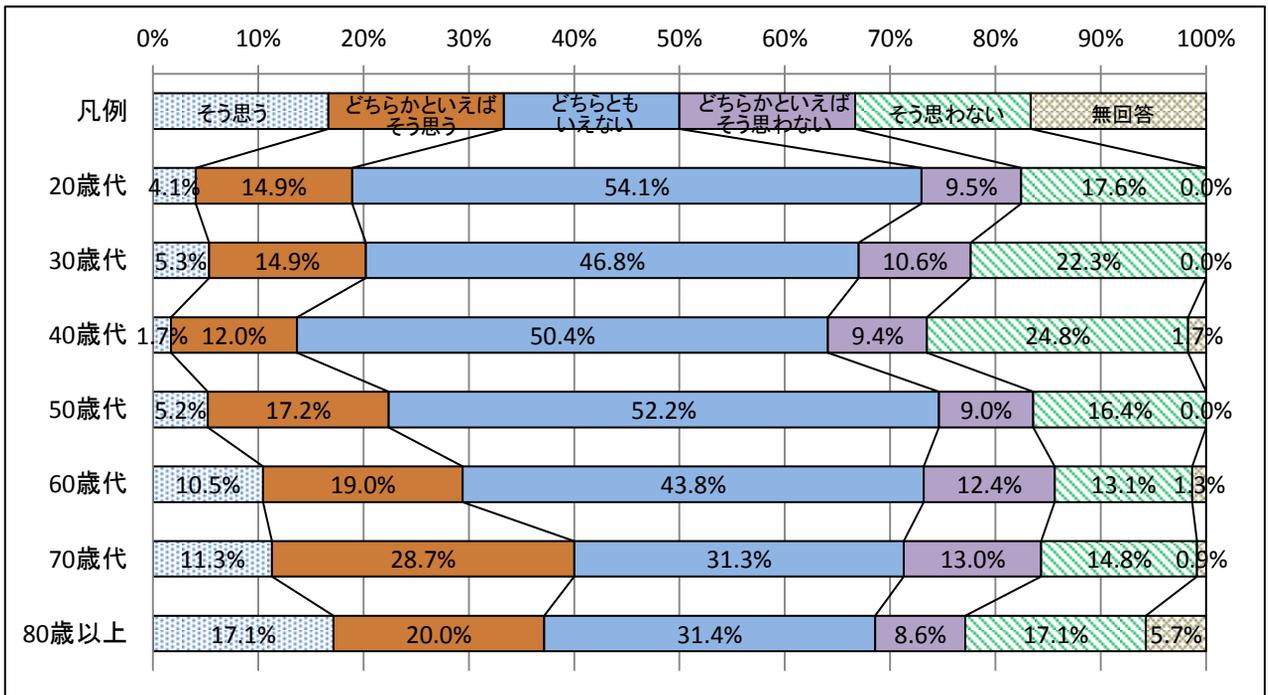
◆ 年代別で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計割合が最も高い年代は、80歳以上(62.8%)で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計割合が最も高い年代は、30歳代(30.9%)となっている。

#### ④ 男性の方が女性より、管理職として素質がある

《性別件数:無回答 18件除く》



《年代別件数: 無回答16件除く》



◆ 男性の方が女性より、管理職として素質があるかについて性別でみると、全体では「どちらともいえない」が44.7%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(18.0%)、「そう思わない」(17.8%)の順となっている。

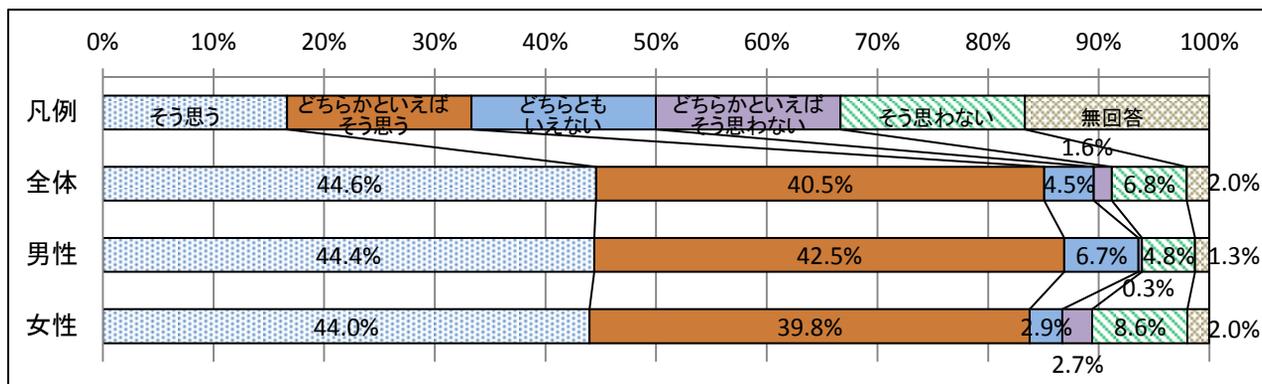
◆ 男女別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計割合は、男性26.8%、女性24.1%となっている。また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計割合は、男性28.4%、女性28.5%となっている。

◆ 年代別でみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計割合が最も高い年代は、70歳代(40.0%)で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計割合が最も高い年代は、40歳代(34.2%)となっている。

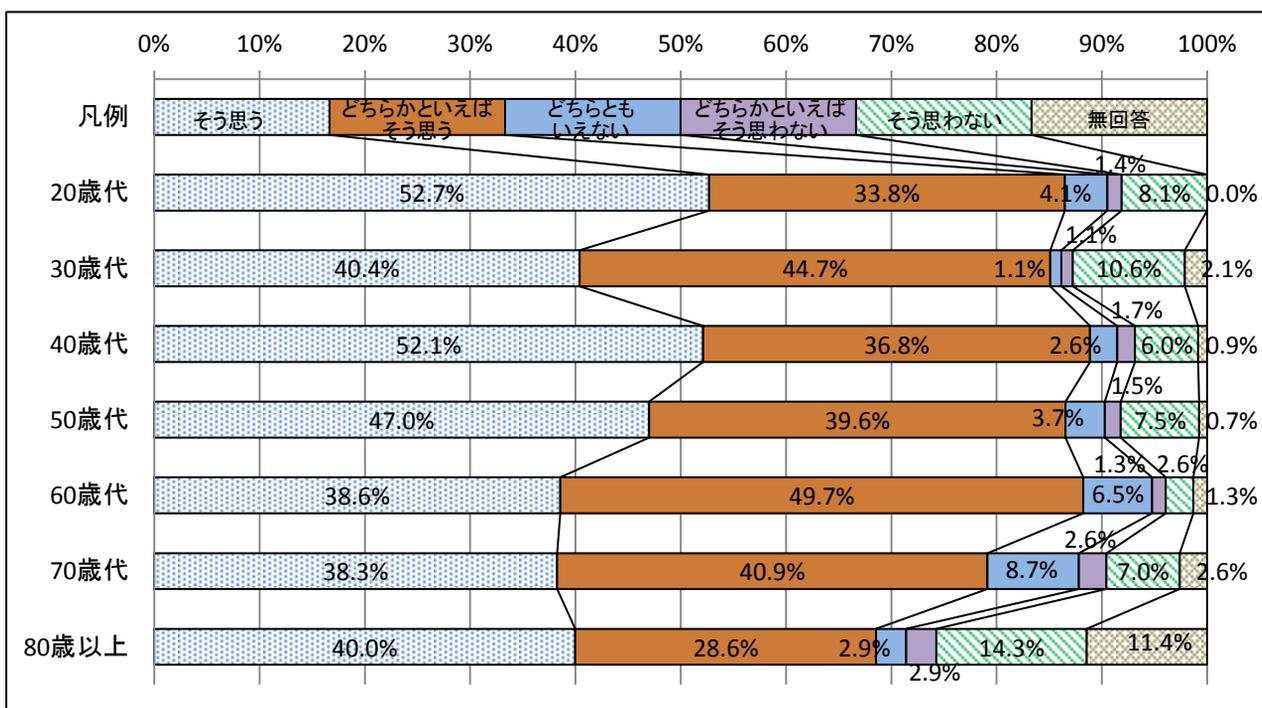
【問5】 それでは、あなたは女性が、議会議員や地域活動の役員になって、政策企画立案や方針決定の場に女性の意見が反映されるようになればいいと思いますか。

次の1～5の中から、あなたの考えに最も近い番号を1つだけ選んでください。

《性別件数：無回答 18件除く》



《年代別件数： 無回答16件除く》



◆ 女性が、議会議員や地域活動の役員になって、政策企画立案や方針決定の場に女性の意見が反映されるようになればいいかについて、全体では「そう思う」が44.6%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(40.5%)、「そう思わない」(6.8%)の順となっている。

◆ 男女別で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計割合は、男性86.9%、女性83.8%となっている。また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計割合は、男性5.1%、女性11.3%となっている。

◆ 年代別で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計割合が最も高い年代は、40歳代(88.9%)で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計割合が最も高い年代は、80歳以上(17.2%)となっている。

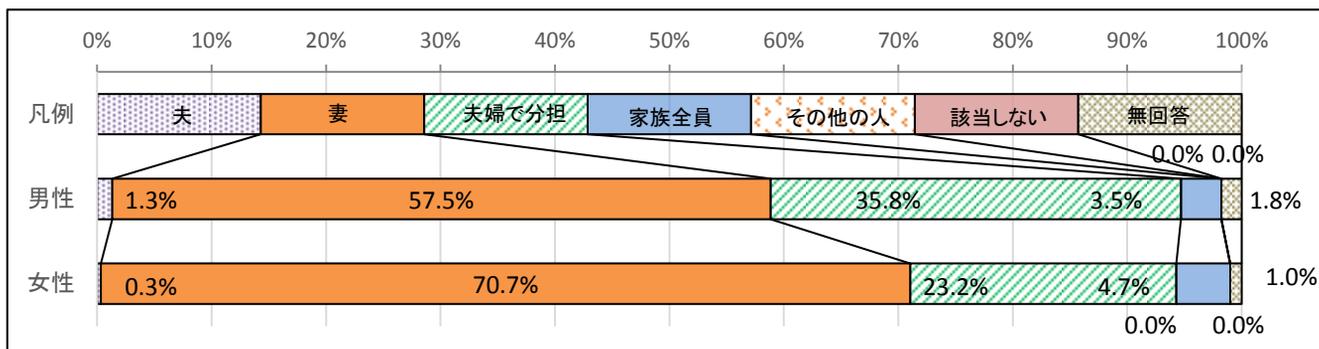
《現在結婚している方におたずねします。それ以外の方は問7へおすすみください。》

【問6】 あなたの家庭では次のことを主に誰が行っていますか。①～④の項目について、右欄の1～6のうちあてはまる番号を1つずつ選んでください。

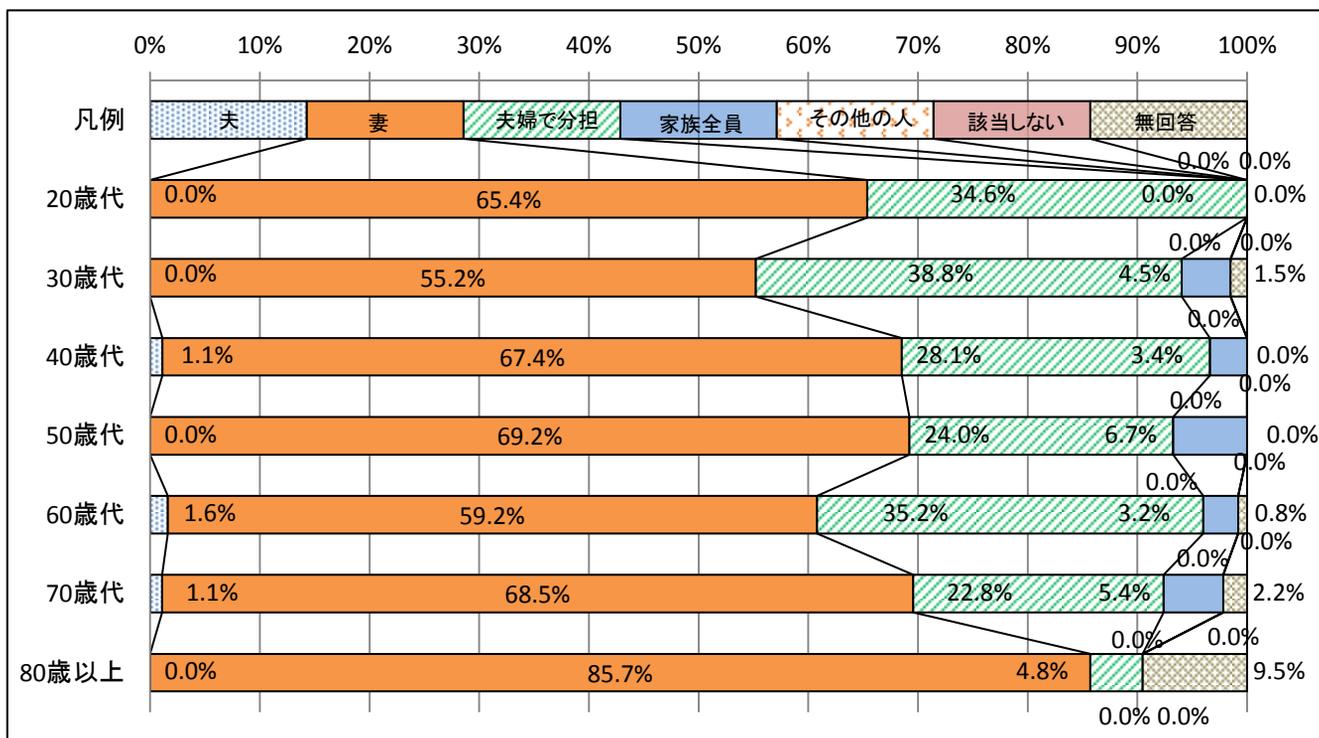
育児・子育てと介護・看護については、現在はなくても、これまで経験があればそれをもとに選んでください。該当しない場合は、「6」を選んでください。

① 家事

《性別件数：無回答 18件除く》



《年代別件数： 無回答16件除く》

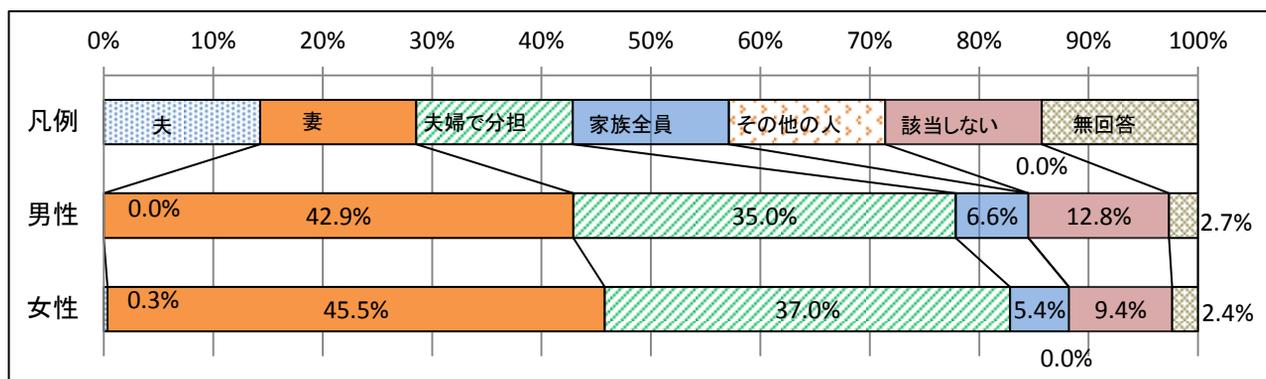


◆ 家事を主に誰が行っているかについて男女別で見ると、男女とも「妻」が最も高く、次いで「夫婦で分担」、「家族全員」の順となっている。また、「妻」と回答した女性の割合は、男性に比べて13.2ポイント高くなっているが、「夫婦で分担」と回答した女性の割合は、男性に比べて12.6ポイント低くなっている。

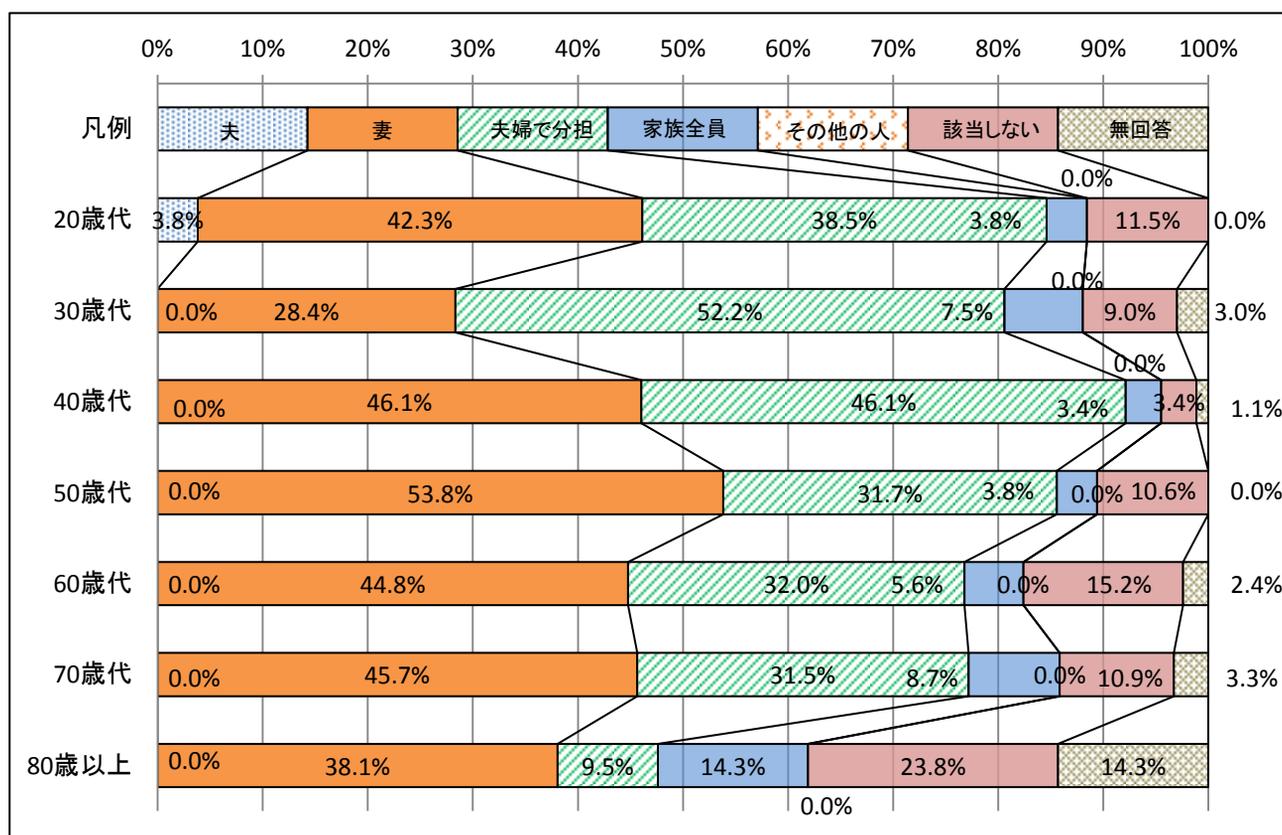
◆ 年代別で見ると、全ての年代で「妻」と回答した割合が最も高く、特に80歳以上では、8割をこえている。

## ② 育児・子育て

《性別件数:無回答 18件除く》



《年代別件数: 無回答16件除く》

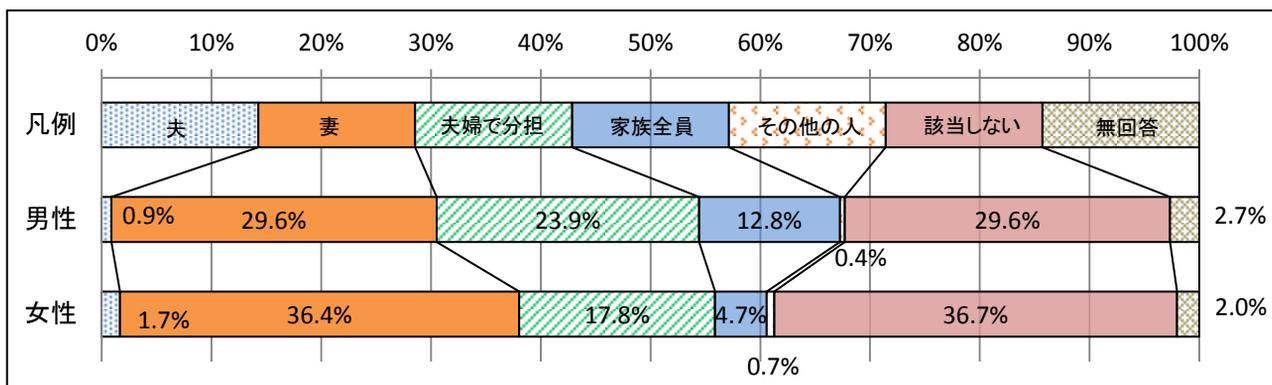


◆ 育児・子育てを主に誰が行っているかについて男女別で見ると、男女とも「妻」が最も高く、次いで「夫婦で分担」、「該当しない」の順となっている。また、「妻」と回答した女性の割合は2.6ポイント、「夫婦で分担」と回答した女性の割合は2.0ポイント、男性に比べて高くなっている。

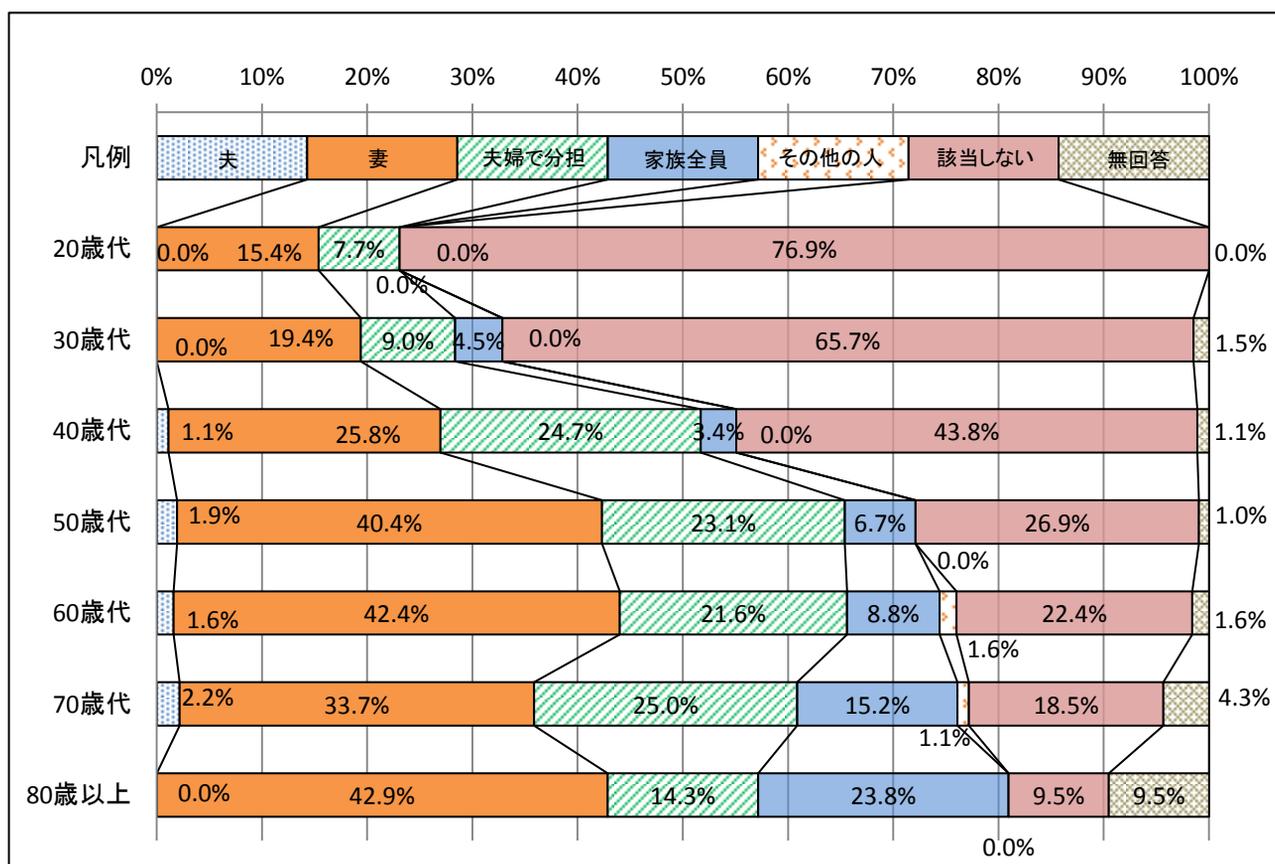
◆ 年代別で見ると、20歳代、50歳代～80歳以上は「妻」、30歳代は「夫婦で分担」と回答した割合が最も高かった。一方、40歳代では、「妻」と「夫婦で分担」が同割合で最も高かった。

### ③ 介護・看護

《性別件数:無回答 18件除く》



《年代別件数: 無回答16件除く》

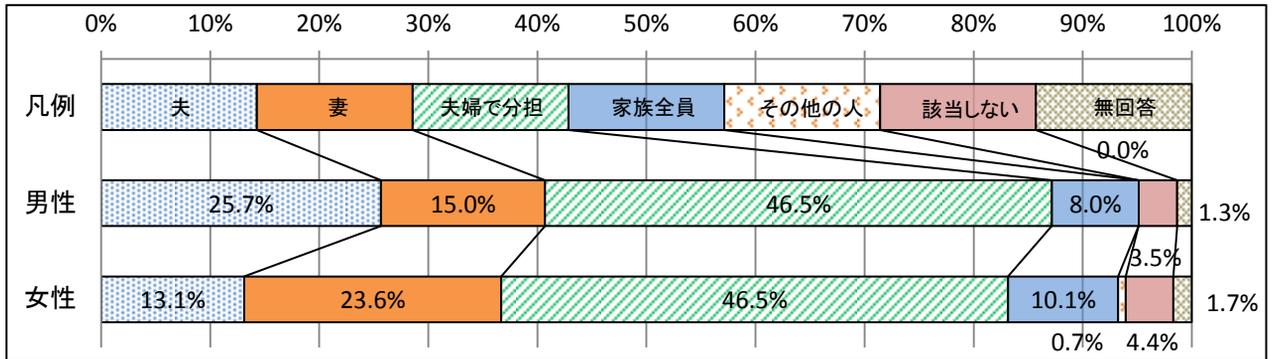


◆ 介護・看護を主に誰が行っているかについて男女別でみると、男性は「妻」, 「該当しない」が29.6%と同割合で最も高く、次いで「夫婦で分担」(23.9%), 「家族全員」(12.8%)の順となっている。女性は「該当しない」が36.7%と最も高く、次いで「妻」(36.4%), 「夫婦で分担」(17.8%)の順となっている。また、「妻」と回答した女性の割合は、男性に比べて6.8ポイント高くなっている。

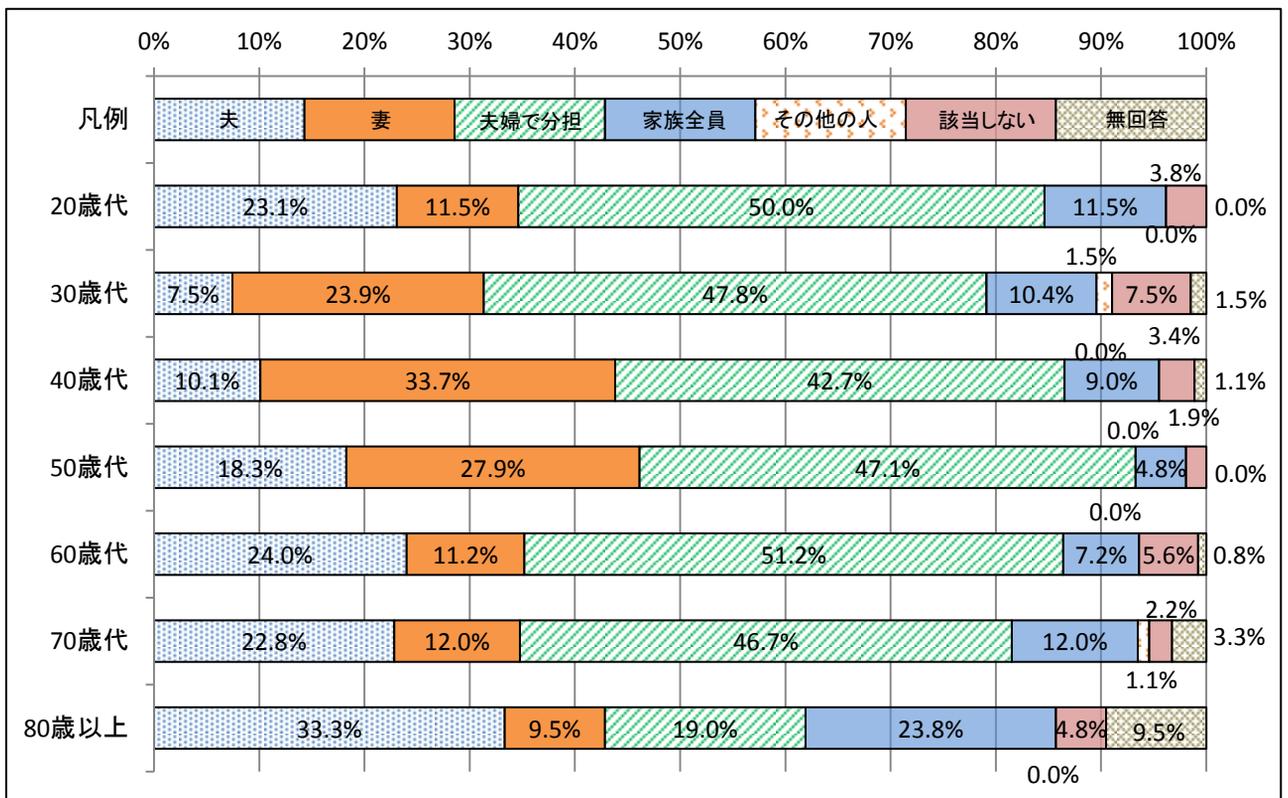
◆ 年代別でみると、20歳代～40歳代は「該当しない」、50歳代～80歳以上は「妻」と回答した割合が最も高かった。

#### ④ 地域活動への参加

《性別件数:無回答 18件除く》



《年代別件数: 無回答16件除く》



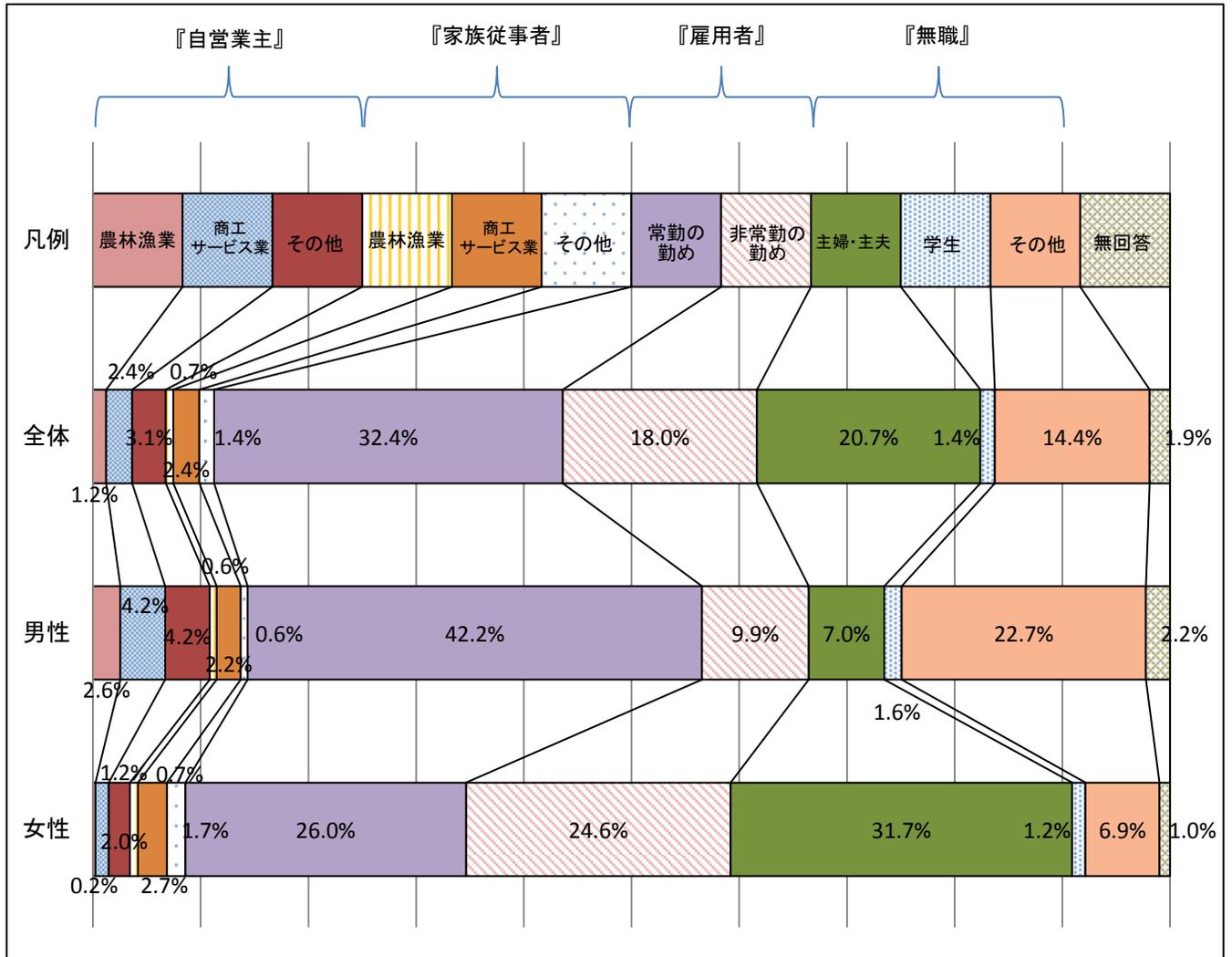
◆ 地域活動への参加を主に誰が行っているかについて男女別で見ると、男女とも「夫婦で分担」が46.5%と最も高かった。また、「夫」と回答した女性の割合は13.1%となっており、男性の25.7%に比べて12.6ポイント低くなっているが、「妻」と回答した女性の割合は23.6%となっており、男性の15.0%に比べて8.6ポイント高くなっている。

◆ 年代別で見ると、70歳代までは「夫婦で分担」、80歳以上は「夫」と回答した割合が最も高かった。また、「妻」と回答した割合が最も高かったのは40歳代(33.7%)となっている。

【問7】 あなたのご職業を次の1～11の中から1つだけ選んでください。

《性別件数:無回答 18件除く》

	農林業 (自営業主)		商工サービス (自営業主)		その他 (自営業主)		農林業 (家族従事者)		商工サービス (家族従事者)		その他 (家族従事者)		常勤の勤め (社員・職員等)		非常勤の勤め (パート・アルバイト・臨時職員・嘱託等)		主婦・主夫		学生		その他の 無職		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	9	1.2%	18	2.4%	23	3.1%	5	0.7%	18	2.4%	10	1.4%	239	32.4%	133	18.0%	153	20.7%	10	1.4%	106	14.4%	14	1.9%
男性	8	2.6%	13	4.2%	13	4.2%	2	0.6%	7	2.2%	2	0.6%	132	42.2%	31	9.9%	22	7.0%	5	1.6%	71	22.7%	7	2.2%
女性	1	0.2%	5	1.2%	8	2.0%	3	0.7%	11	2.7%	7	1.7%	106	26.0%	100	24.6%	129	31.7%	5	1.2%	28	6.9%	4	1.0%



《年代別件数： 無回答16件除く》

	農林業 (自営業主)		商工サービ ス (自営業主)		その他 (自営業主)		農林業 (家族従事 者)		商工サービ ス (家族従事 者)		その他 (家族従事 者)		常勤の勤め (社員・職員 等)		非常勤の勤 め (パート・ア ルバイト・臨 時職員・嘱 託等)		主婦・主夫		学生		その他の 無職		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	1	1.4%	37	50.0%	10	13.5%	11	14.9%	10	13.5%	4	5.4%	0	0.0%
30歳代	0	0.0%	1	1.1%	1	1.1%	0	0.0%	3	3.2%	0	0.0%	54	57.4%	25	26.6%	8	8.5%	0	0.0%	2	2.1%	0	0.0%
40歳代	0	0.0%	4	3.4%	6	5.1%	0	0.0%	3	2.6%	1	0.9%	61	52.1%	25	21.4%	11	9.4%	0	0.0%	6	5.1%	0	0.0%
50歳代	0	0.0%	3	2.2%	5	3.7%	1	0.7%	4	3.0%	4	3.0%	63	47.0%	29	21.6%	20	14.9%	0	0.0%	3	2.2%	2	1.5%
60歳代	3	2.0%	4	2.6%	8	5.2%	1	0.7%	6	3.9%	1	0.7%	21	13.7%	32	20.9%	44	28.8%	0	0.0%	29	19.0%	4	2.6%
70歳代	3	2.6%	6	5.2%	2	1.7%	1	0.9%	1	0.9%	2	1.7%	1	0.9%	9	7.8%	46	40.0%	0	0.0%	40	34.8%	4	3.5%
80歳以上	3	8.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.9%	1	2.9%	0	0.0%	1	2.9%	1	2.9%	11	31.4%	0	0.0%	15	42.9%	2	5.7%

◆ 職業について性別でみると、全体では『雇用者』(50.4%)と回答した割合が最も高く、次いで『無職』(36.5%)、『自営業主』(6.7%)、『家族従事者』(4.5%)の順となっている。詳細にみると、『雇用者』の「常勤の勤め」(32.4%)と回答した割合が最も高く、次いで『無職』の「主婦・主夫」(20.7%)、『雇用者』の「非常勤の勤め」(18.0%)の順となっている。

◆ また、「常勤の勤め(社員・職員等)」に就いている人の割合は女性で26.0%、男性で42.2%と男性の方が16.2ポイント高くなっている。一方、「非常勤の勤め(パート・アルバイト・臨時職員・嘱託等)」に就いている人の割合は男性で9.9%、女性で24.6%と女性の方が14.7ポイント高くなっている。また、「その他の無職」は女性で6.9%、男性で22.7%と男性の方が15.8ポイント高くなっている。

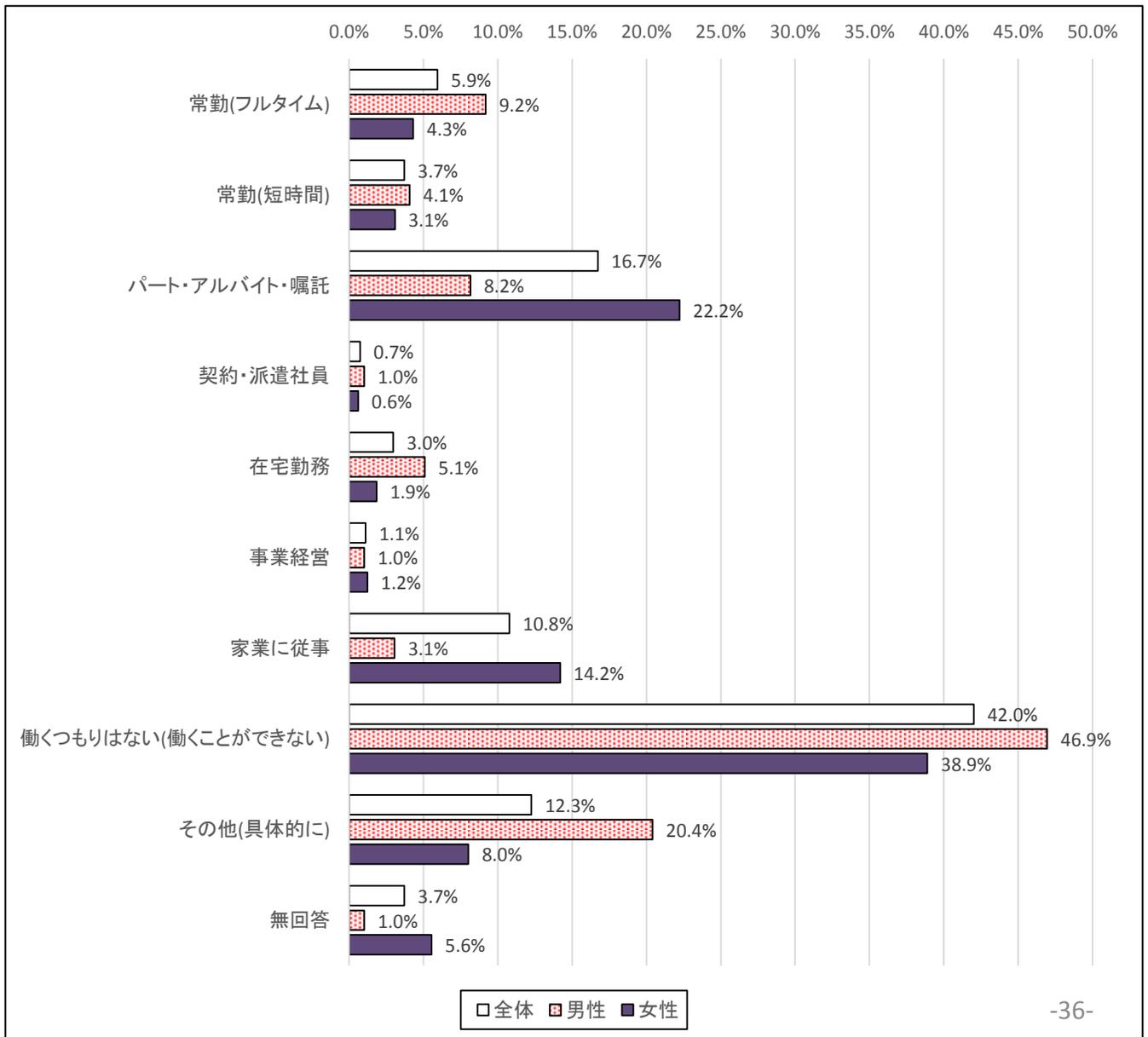
◆ 年代別にみると、20歳代～50歳代では「常勤の勤め(社員・職員等)」と回答した人の割合が最も高く、4割をこえている。60歳代～70歳代では「主婦・主夫」、80歳以上では「その他の無職」と回答した人の割合が最も高い。

《問7で無職「9」～「11」と答えた方へおたずねします。》

【問8】 あなたはどのような形で働きたいですか。次の1～9の中から1つだけ選んでください。

《性別件数：無回答 18件除く》

	合計		常勤(フルタイム)		常勤(短時間)		パート・アルバイト・嘱託		契約・派遣社員		在宅勤務		事業経営		家業に従事		働くつもりはない(働くことができない)		その他(具体的に)		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	269	100.0%	16	5.9%	10	3.7%	45	16.7%	2	0.7%	8	3.0%	3	1.1%	29	10.8%	113	42.0%	33	12.3%	10	3.7%
男性	98	100.0%	9	9.2%	4	4.1%	8	8.2%	1	1.0%	5	5.1%	1	1.0%	3	3.1%	46	46.9%	20	20.4%	1	1.0%
女性	162	100.0%	7	4.3%	5	3.1%	36	22.2%	1	0.6%	3	1.9%	2	1.2%	23	14.2%	63	38.9%	13	8.0%	9	5.6%



《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		常勤 (フルタイム)		常勤 (短時間)		パート・アル バイト・嘱託		契約・派遣 社員		在宅勤務		事業経営		家業に従事		働くつもりは ない (働くことが できない)		その他 (具体的に)		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	25	100.0%	11	44.0%	1	4.0%	7	28.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	12.0%	1	4.0%	2	8.0%	0	0.0%
30歳代	10	100.0%	1	10.0%	0	0.0%	6	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	1	10.0%	1	10.0%	0	0.0%
40歳代	17	100.0%	1	5.9%	1	5.9%	7	41.2%	0	0.0%	3	17.6%	2	11.8%	0	0.0%	2	11.8%	1	5.9%	0	0.0%
50歳代	23	100.0%	1	4.3%	1	4.3%	8	34.8%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	8.7%	8	34.8%	0	0.0%	2	8.7%
60歳代	73	100.0%	1	1.4%	2	2.7%	13	17.8%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	7	9.6%	40	54.8%	6	8.2%	3	4.1%
70歳代	86	100.0%	1	1.2%	4	4.7%	4	4.7%	1	1.2%	4	4.7%	0	0.0%	8	9.3%	42	48.8%	18	20.9%	4	4.7%
80歳以上	26	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	23.1%	14	53.8%	5	19.2%	1	3.8%

◆ どのような形で働きたいかを性別でみると、全体では「働くつもりはない(働くことができない)」(42.0%)が最も高く、次いで「パート・アルバイト・嘱託」(16.7%)となっていて、「契約社員、派遣社員」(0.7%)が最も低くなっている。

◆ 男女ともに「働くつもりはない(働くことができない)」が最も高くなっている。また、男女の回答の差が最も大きいのは「パート・アルバイト・嘱託」で、女性の回答割合が男性を14.0ポイント上回っている。

◆ 年代別にみると、「常勤(フルタイム)＋常勤(短時間)」を希望する割合は、20歳代～50歳代で多くなっている。

◆ その他の年代では、20歳代「常勤(フルタイム)」(44.0%)、30歳代「パート・アルバイト・嘱託」(60.0%)、40歳代「パート・アルバイト・嘱託」(41.2%)、50歳代「働くつもりはない(働くことができない)」「パート・アルバイト・嘱託」(34.8%)と回答した割合が最も高かった。

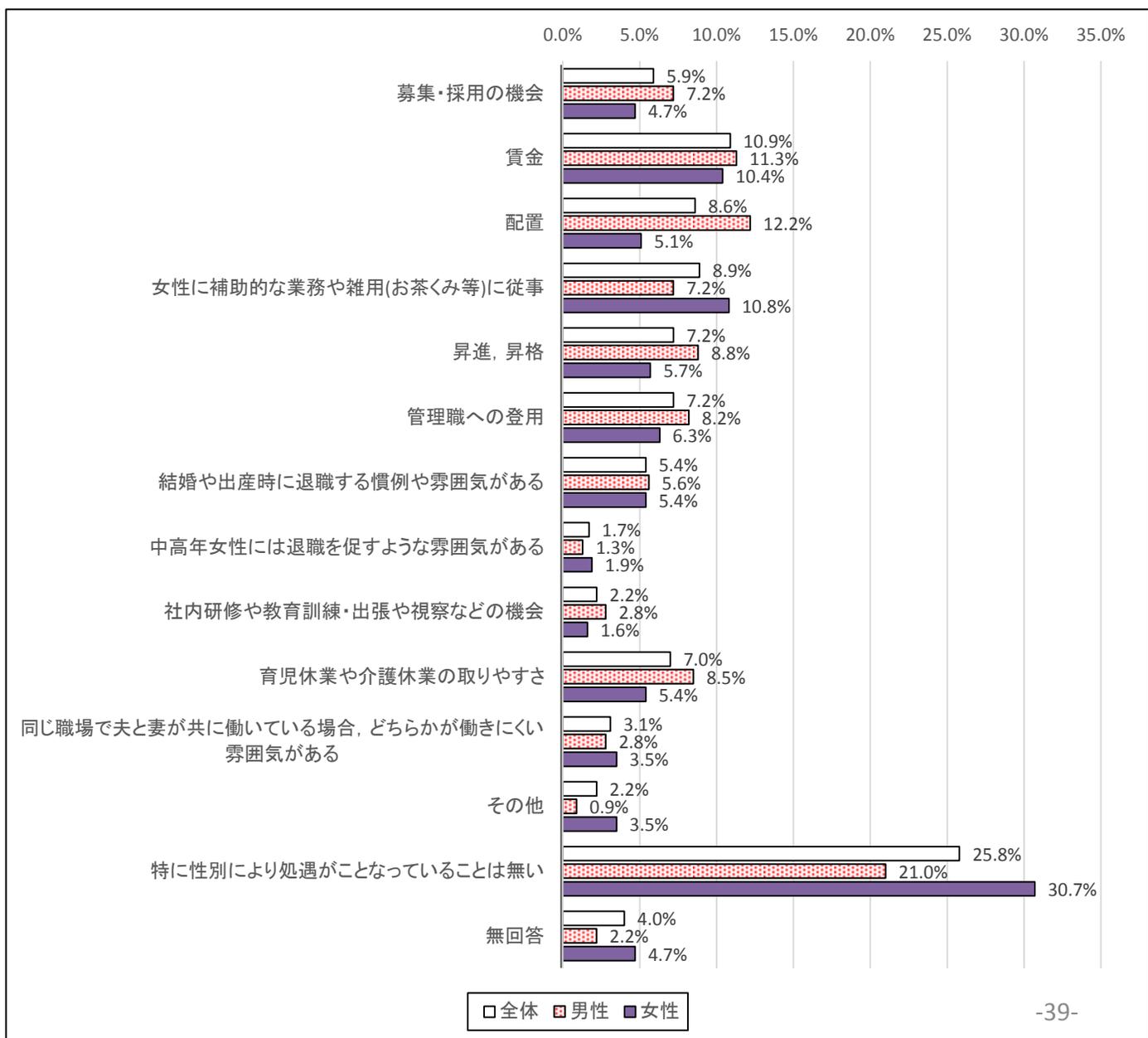
## 《その他(主な意見)》

- ・ シルバー時代の生きがいとして、多少利益を楽しめる様な地域ぐるみの仕事をしたい。
- ・ 免許が無いので身動きが限られる。
- ・ 年齢
- ・ 定年になり、老後は趣味を楽しんでいる。
- ・ 年金の生活、農業
- ・ 定年退職後であり、地区役員と趣味と運動をしている。
- ・ 病気のため、体が自由に動けない
- ・ 働きたいが、年76歳です。
- ・ 83歳の高齢にて自宅周辺の土手払い等に1人で頑張っています。
- ・ 定年退職後、地域活動しているので現在は仕事をしながらの地域活動は無理なので、働く意志はありません。
- ・ 身体の状態に応じた仕事をしていく。田畑・山仕事(間伐)
- ・ 糖尿病・脳梗塞のため、体の自由がきかない為
- ・ 働きたいけど働けない。右手が上がらず仕事にならない。手に力が入らない。
- ・ 会社の関係者に関わる人数の差によって、差別される部分がある。
- ・ 後期高齢の為、家事の他、菜園作り等して、少しでも豊かな生活をしたい
- ・ 必要とされる場所で必要とされる時間で働きたい。
- ・ 身体障害である。
- ・ 高齢、健康のために収入は目的でない
- ・ 年金生活、宗教活動
- ・ 病気療養中の為働けない

《問7で雇用者「7」または「8」と答えた方へおたずねします。》

【問9】 あなたの職場では、性別によって処遇や待遇が異なりますか。次の1～13の中からいくつか選んでください。

	合計		募集・採用の機会		賃金		配置		女性に補助的な業務や雑用(お茶くみ等)に従事		昇進, 昇格		管理職への登用		結婚や出産時に退職する慣例や雰囲気がある		中高年女性には退職を促すような雰囲気がある		社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会		育児休業や介護休業の取りやすさ		同じ職場で夫と妻が共に働いている場合、どちらかが働きにくい雰囲気がある		その他		特に性別により処遇がことなっていることは無い		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	643	100.0%	38	5.9%	70	10.9%	55	8.6%	57	8.9%	46	7.2%	46	7.2%	35	5.4%	11	1.7%	14	2.2%	45	7.0%	20	3.1%	14	2.2%	166	25.8%	26	4.0%
男性	319	100.0%	23	7.2%	36	11.3%	39	12.2%	23	7.2%	28	8.8%	26	8.2%	18	5.6%	4	1.3%	9	2.8%	27	8.5%	9	2.8%	3	0.9%	67	21.0%	7	2.2%
女性	315	100.0%	15	4.7%	33	10.4%	16	5.1%	34	10.8%	18	5.7%	20	6.3%	17	5.4%	6	1.9%	5	1.6%	17	5.4%	11	3.5%	11	3.5%	97	30.7%	15	4.7%



◆ 職場での性別による処遇の格差についてみると、全体では回答の割合が高い順に「特に性別により処遇が異なっていることはない」(25.8%)、次いで「賃金」(10.9%)、「女性に補助的な業務や雑用(お茶くみ等)に従事」(8.9%)、「配置」(8.6%)、「昇進、昇格」「管理職への登用」(7.2%)、「育児休業や介護休暇の取りやすさ」(7.0%)、「募集・採用の機会」(5.9%)の順となっている。

◆ 男女別にみると、男女ともに、「特に性別により処遇が異なっていることはない」とする人の割合が最も高く、女性で30.7%、男性で21.0%と、女性の方が男性を9.7ポイント上回っている。次いで女性では「女性に補助的な業務や雑用(お茶くみ等)に従事」(10.8%)、「賃金」(10.4%)、男性では「配置」(12.2%)、「賃金」(11.3%)の順となっている。また、「配置」と回答した割合は、女性で5.1%、男性で12.2%と、男性の方が女性を7.1ポイント上回っている。

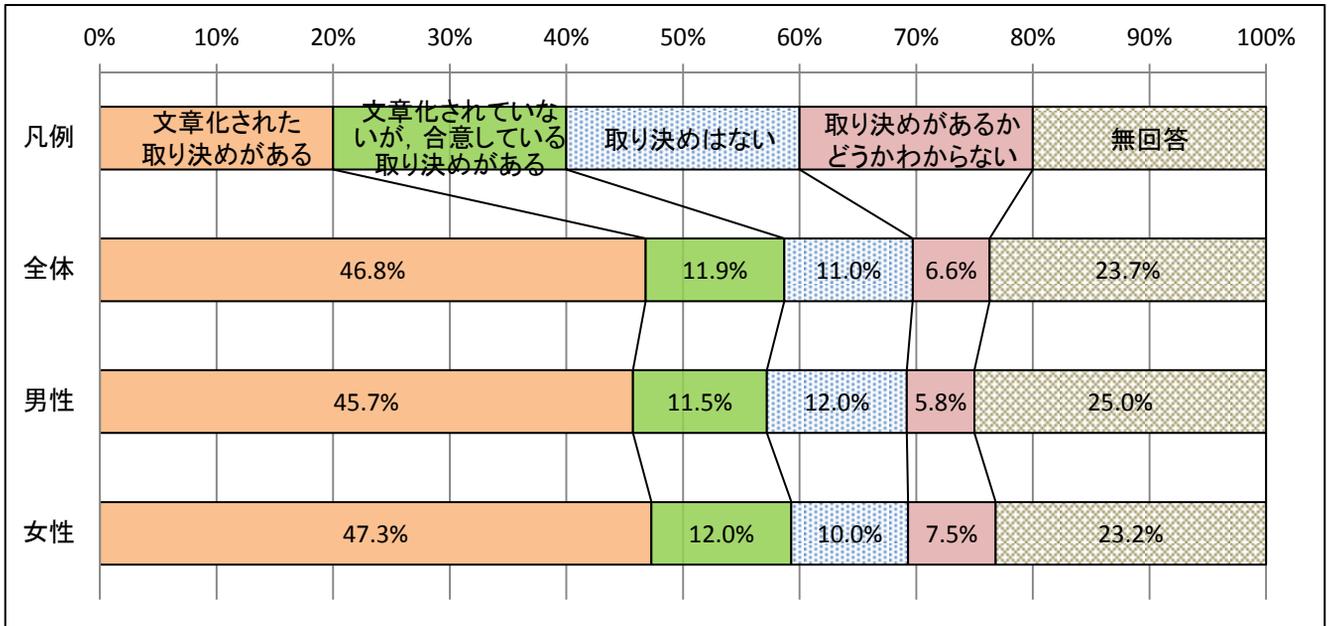
### 《その他(主な意見)》

- ・ 女性が少ない
- ・ 女がほとんどの職場である
- ・ 経営者以外に男性がいません
- ・ 正社員と臨時職員との差がある！
- ・ 特にひどい。男性優位
- ・ 人手が足りなくて困っている。若い人が少ない
- ・ 祝日に出勤しても時給が変わらない
- ・ アルバイトなので分かりません
- ・ 女性だけの職場
- ・ わからない

《問7で雇用者「1」～「8」自営業主・家族従事者・雇用者と答えた方へおたずねします。》

【問10】 あなたの職場では、働く時間、給料、休業日や休暇、仕事の分担などについての  
 取り決め(会社の就業規則、農業の家族経営協定などに類するもの)がありますか。  
 次の1～4の中から1つだけ選んでください。

《性別件数:無回答 18件除く》



《年代別件数: 無回答16件除く》

	合計		文章化された取り決めがある		文章化されていないが、合意している取り決めがある		取り決めはない		取り決めがあるかどうか分からない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	49	100.0%	22	44.9%	4	8.2%	4	8.2%	4	8.2%	15	30.6%
30歳代	84	100.0%	42	50.0%	11	13.1%	6	7.1%	8	9.5%	17	20.2%
40歳代	100	100.0%	47	47.0%	11	11.0%	7	7.0%	6	6.0%	29	29.0%
50歳代	109	100.0%	63	57.8%	11	10.1%	5	4.6%	8	7.3%	22	20.2%
60歳代	76	100.0%	26	34.2%	12	15.8%	15	19.7%	2	2.6%	21	27.6%
70歳代	25	100.0%	8	32.0%	3	12.0%	9	36.0%	1	4.0%	4	16.0%
80歳以上	7	100.0%	2	28.6%	1	14.3%	3	42.9%	1	14.3%	0	0.0%

◆ 働く上での取り決めの有無について性別でみると、全体では、「文章化された取り決めがある」の割合が最も高く(46.8%)、次いで、「無回答」(23.7%)、「文章化されていないが、合意している取り決めがある」(11.9%)、「取り決めはない」(11.0%)、「取り決めがあるかどうか分からない」(6.6%)の順になっている。

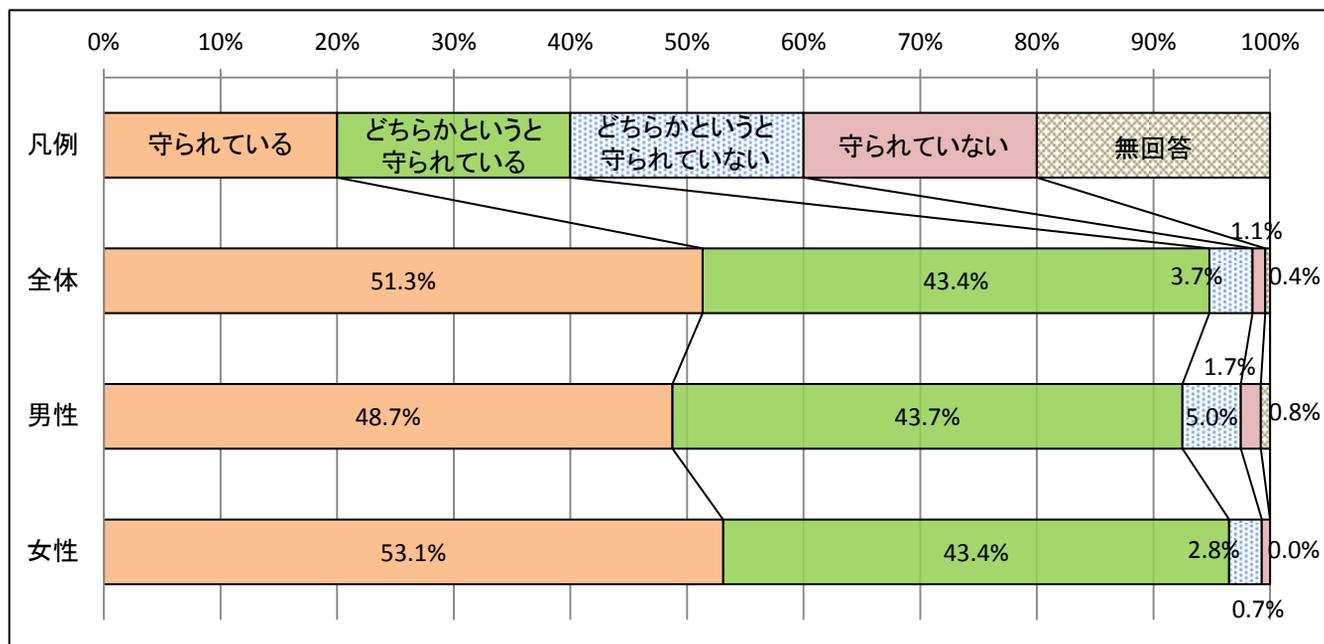
◆ 男女別では、「取り決めはない」と「無回答」以外の項目で、男性より女性の回答の割合が高くなっている。

◆ 年代別にみると、「文章化された取り決めがある」と回答した割合が最も高いのは50歳代(57.8%)で、次いで、30歳代(50.0%)、40歳代(47.0%)、20歳代(44.9%)の順になっている。 -41-

《問10で「1」、「2」を選んだ方におたずねします。それ以外の方は問12へおすすみください。》

【問11】 その取り決めは守られていますか。次の1～4の中から1つだけ選んでください。

《性別件数：無回答 18件除く》



《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		守られている		どちらかというを守られている		どちらかというを守られていない		守られていない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	26	100.0%	13	50.0%	12	46.2%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%
30歳代	53	100.0%	24	45.3%	27	50.9%	2	3.8%	0	0.0%	0	0.0%
40歳代	58	100.0%	32	55.2%	23	39.7%	2	3.4%	1	1.7%	0	0.0%
50歳代	74	100.0%	39	52.7%	30	40.5%	4	5.4%	1	1.4%	0	0.0%
60歳代	38	100.0%	19	50.0%	17	44.7%	1	2.6%	0	0.0%	1	2.6%
70歳代	11	100.0%	5	45.5%	6	54.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
80歳以上	3	100.0%	2	66.7%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%

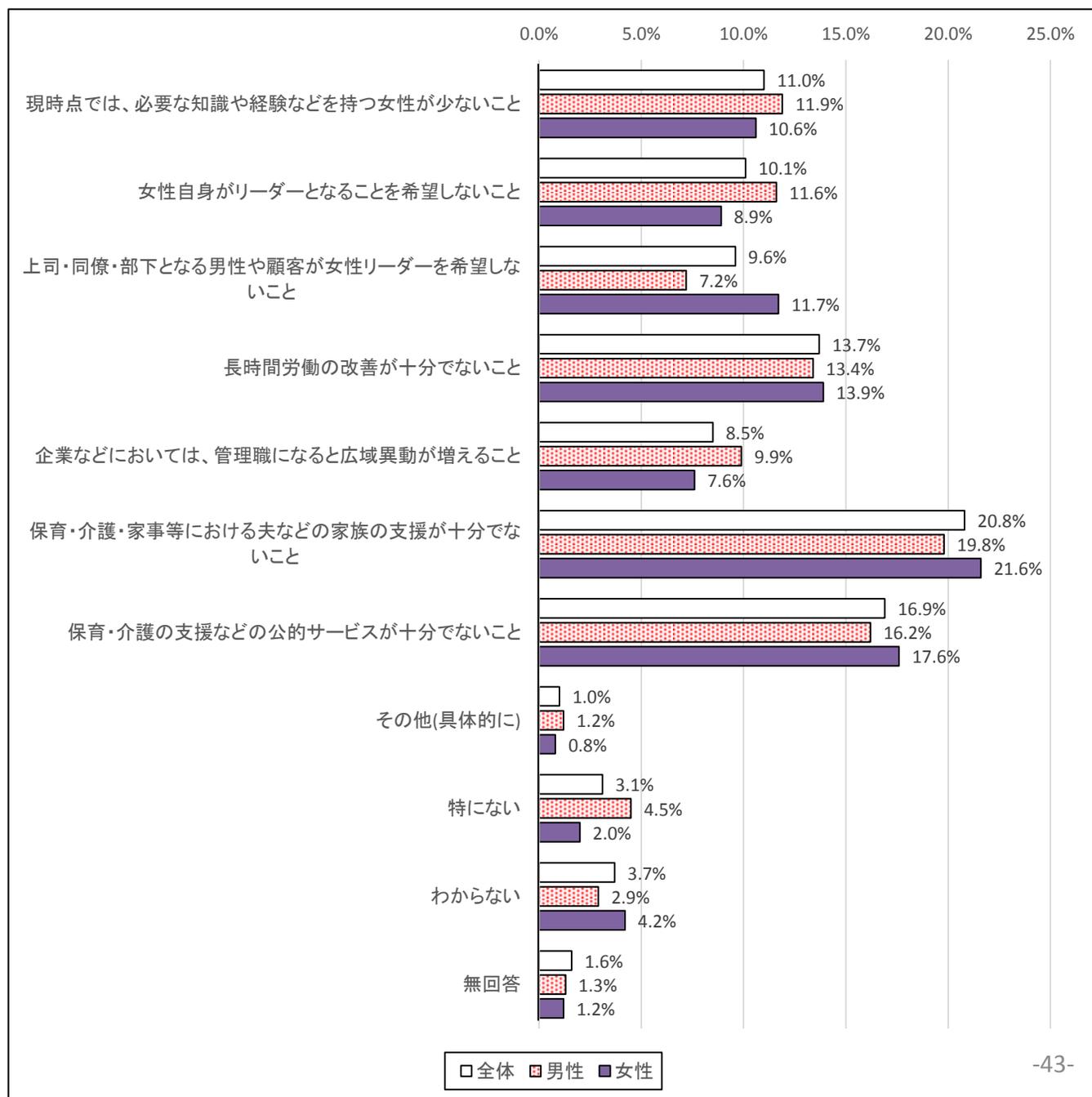
◆ 取り決めが守られているかどうかを性別でみると、全体では、「守られている」(51.3%)、「どちらかというを守られている」(43.4%)、「どちらかというを守られていない」(3.7%)、「守られていない」(1.1%)の順となっている。また、「守られている」(51.3%)、「どちらかというを守られている」(43.4%)を合わせると、9割をこえている。

◆ 男女別では、「守られている」とする人の割合は女性の方が4.4ポイント高く、「守られていない」とする人の割合は男性の方が1.0ポイント高い。

◆ 年代別にみると、20歳代～50歳代の中では「守られている」とする人の割合が最も高いのは、40歳代(55.2%)、最も低いのは30歳代(45.3%)となっており、9.9ポイントの差がある。一方、「守られていない」とする人の割合が最も高いのは、20歳代(3.8%)である。

【問12】 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは何だと思いますか。次の1～10の中からいくつでも選んでください。

	合計		現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと		女性自身がリーダーとなることを希望しないこと		上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと		長時間労働の改善が十分でないこと		企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること		保育・介護・家事等における夫などの家族の支援が十分でないこと		保育・介護の支援などの公的サービスが十分でないこと		その他(具体的に)		特にない		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	1,825	100.0%	201	11.0%	184	10.1%	176	9.6%	250	13.7%	156	8.5%	379	20.8%	308	16.9%	18	1.0%	56	3.1%	68	3.7%	29	1.6%
男性	751	100.0%	89	11.9%	87	11.6%	54	7.2%	101	13.4%	74	9.9%	149	19.8%	122	16.2%	9	1.2%	34	4.5%	22	2.9%	10	1.3%
女性	1,038	100.0%	110	10.6%	92	8.9%	121	11.7%	144	13.9%	79	7.6%	224	21.6%	183	17.6%	8	0.8%	21	2.0%	44	4.2%	12	1.2%



◆ 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものについてみると、全体では、「保育・介護・家事等における夫などの家族の支援が十分でないこと」(20.8%)、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分でないこと」(16.9%)、「長時間労働の改善が十分でないこと」(13.7%)、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」(11.0%)の順となっている。

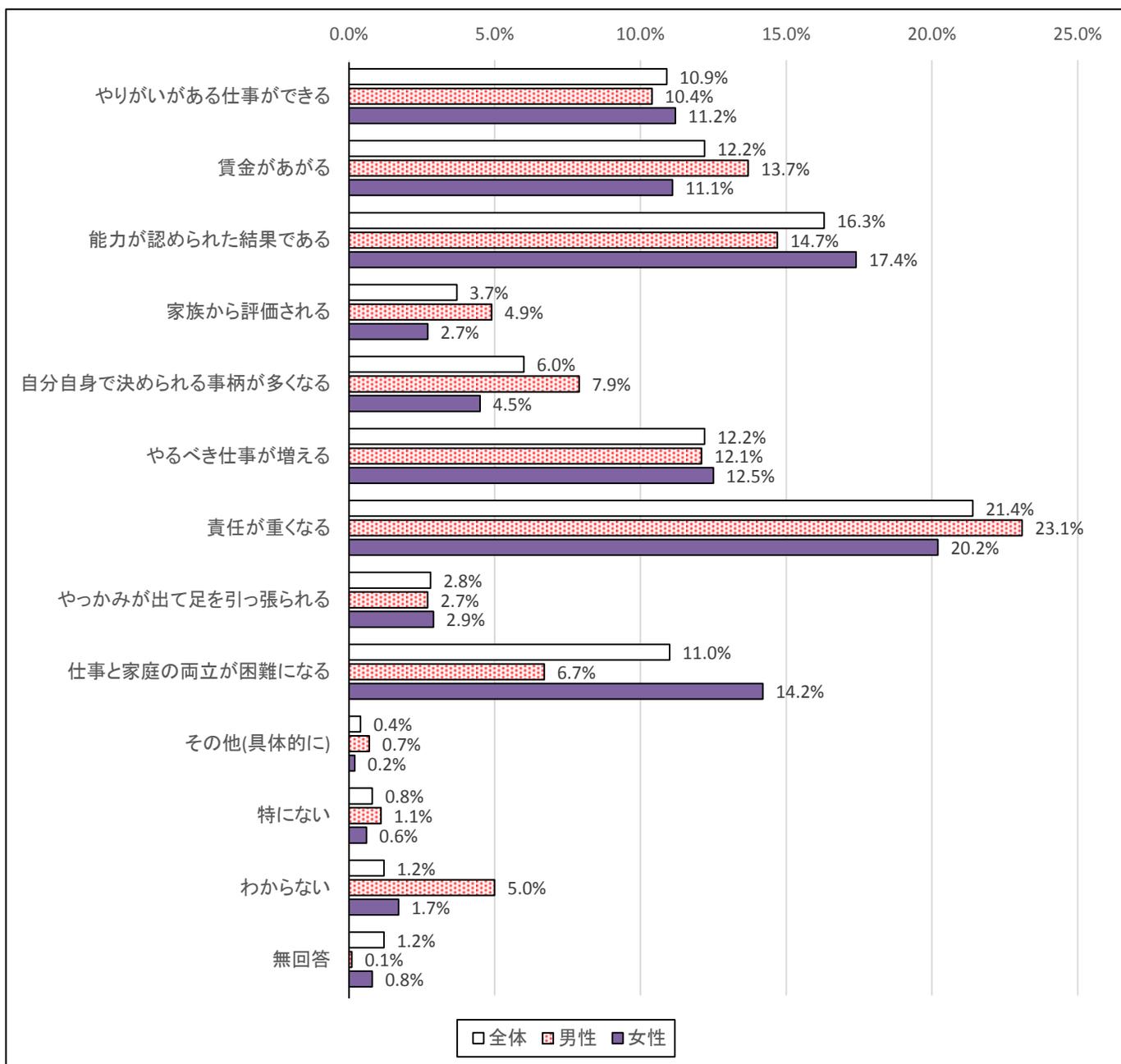
◆ 男女別にみると、男女ともに、「保育・介護・家事等における夫などの家族の支援が十分でないこと」とする人の割合が最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分でないこと」、「長時間労働の改善が十分でないこと」の順となっている。また、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」と回答した割合は、女性で11.7%、男性で7.2%と、女性の方が男性を4.5ポイント上回っている。一方、「女性自身がリーダーとなることを希望しないこと」と回答した割合は、女性で8.9%、男性で11.6%と、男性の方が女性を2.7ポイント上回っている。

## 《その他(主な意見)》

- ・ 自分自身の事だけで、他人の事まで気が回らないのでは？
- ・ 男性と比べて感情的になりやすい傾向が一般的にあるが、それは男性でもある人がいるので、リーダーとしての素質があれば、性差はあまり関係ないと思っている。
- ・ 古い考え方を持つリーダー
- ・ 子育てとの両立が難しい。預けて働くにしても預かる施設・時間に限りがある。夫・家族が協力的な家庭でないと、女性リーダーとしての力があっても、負担が大きすぎる。休む暇がない。
- ・ 周囲の偏見
- ・ 夫の育児休業制度の拡充が必要である。
- ・ 主婦の働き方は家庭中心、金銭目的である人が多いと思われる
- ・ 女性管理職に対する女性の温かい支援も必要
- ・ 国民・地域意識
- ・ 男女平等を主張する内容がおかしい。元々男と女は異なる
- ・ 環境が整っていないと思います
- ・ 「リーダーは男性」という身も蓋もない固定観念
- ・ 小池百合子さんのように、クリーンな感じで有言実行してくれる方！男より女の方が柔軟性があり、もっと協力して女性の意見を。男は女を見下すな！
- ・ 男性は仕事中心出来るが、女性は両方。家・仕事がんばらないとならない(無理では…)
- ・ 増えなくても良い

【問13】 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。  
次の1～12の中からいくつでも選んでください。

	合計		やりがいがある仕事ができる		賃金があがる		能力が認められた結果である		家族から評価される		自分自身で決められる事柄が多くなる		やるべき仕事が増える		責任が重くなる		やっかみが出て足を引っ張られる		仕事と家庭の両立が困難になる		その他(具体的に)		特にない		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	2,633	100.0%	286	10.9%	321	12.2%	428	16.3%	98	3.7%	159	6.0%	322	12.2%	563	21.4%	73	2.8%	289	11.0%	10	0.4%	22	0.8%	31	1.2%	31	1.2%
男性	1,074	100.0%	112	10.4%	147	13.7%	158	14.7%	53	4.9%	85	7.9%	130	12.1%	248	23.1%	29	2.7%	72	6.7%	7	0.7%	12	1.1%	6	5.0%	1	0.1%
女性	1,508	100.0%	169	11.2%	168	11.1%	262	17.4%	41	2.7%	68	4.5%	189	12.5%	305	20.2%	43	2.9%	214	14.2%	3	0.2%	9	0.6%	25	1.7%	12	0.8%



◆ 管理職以上への昇進に対するイメージについてみると、全体では、「責任が重くなる」(21.4%)と回答した割合が最も高く、次いで「能力が認められた結果である」(16.3%)、「賃金が上がる」「やるべき仕事が増える」(12.2%)、「仕事と家庭の両立が困難になる」(11.0%)の順となっている。

◆ 男女別でみると、女性は、「仕事と家庭の両立が困難になる」と回答した割合が男性より7.5ポイント高く、次いで「能力が認められた結果である」(2.7ポイント)、「やりがいがある仕事ができる」(0.8ポイント)の順となっている。一方、男性は、「自分自身で決められる事柄が多くなる」(3.4ポイント)、「わからない」(3.3ポイント)、「責任が重くなる」(2.9ポイント)、「賃金が上がる」(2.6ポイント)などの項目で、女性の回答割合を上回っている。

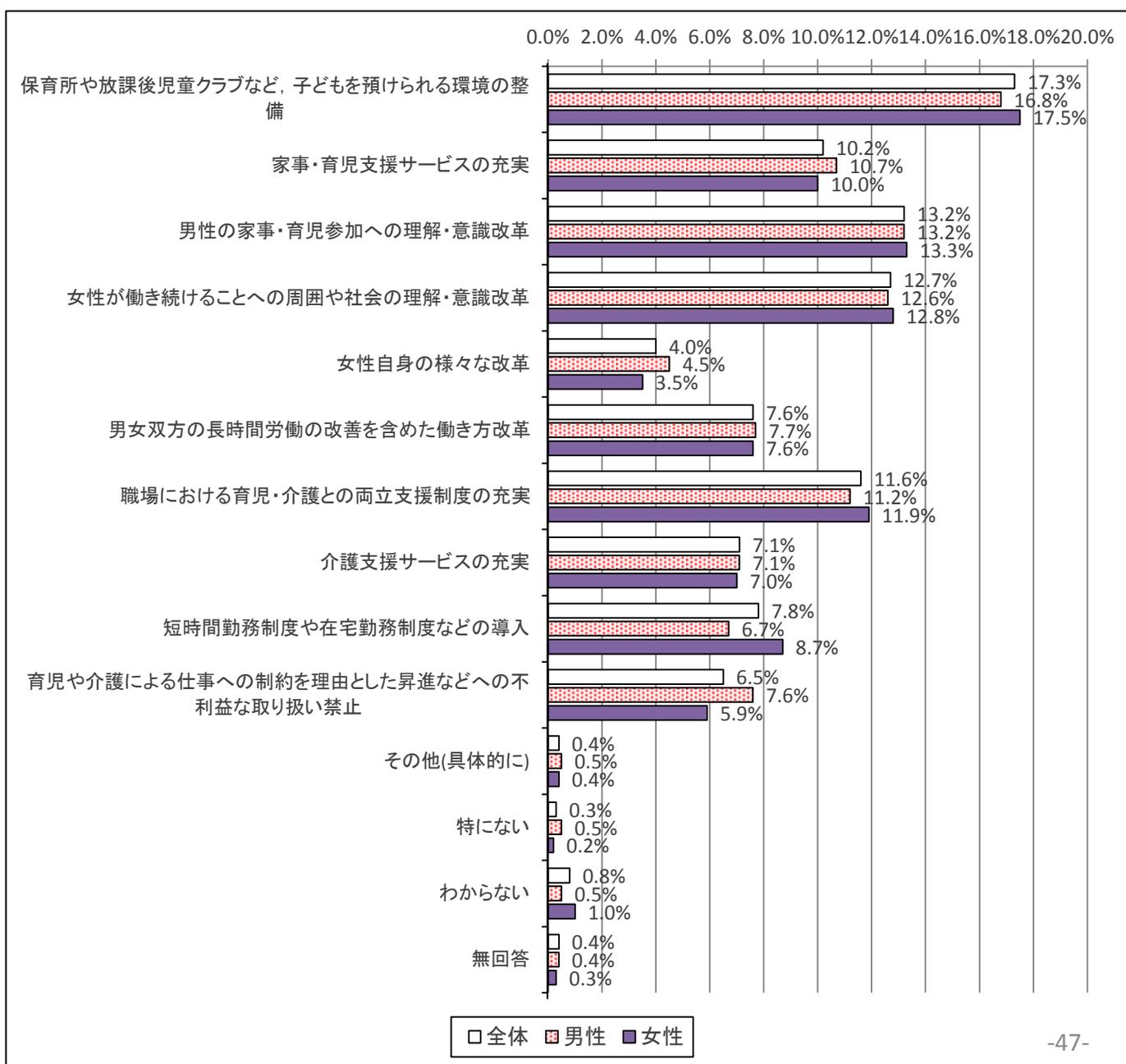
### 《その他(主な意見)》

- ・ 結果が見返って来ない。(特にお金)
- ・ 年上とのつきあいが悪くなる!
- ・ 今の立場がやりがいがある。
- ・ 自己の資質向上のための研修が増える
- ・ 接待行事が増える
- ・ 自分の時間が少なくなり、ワークライフバランスに支障をきたす
- ・ 本人の判断(責任範囲等)
- ・ 地域行事の参加が難しくなることも考えられる
- ・ 1人自営業の為、経営上のトータル・バランスの維持は、自己責任に於いて、常に図っております。が、たまには、トータル・アンバランスになって困る場合もあります。
- ・ 自分で自信を持って楽しくする

【問14】 あなたは、働き続けることを希望する女性が、出産後も離職せずに、同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。次の1～13の中からいくつでも選んでください。

《性別件数：無回答 18件除く》

	合計		保育所や放課後児童クラブなど子どもを預けられる環境の整備		家事・育児支援サービスの充実		男性の家事・育児参加への理解・意識改革		女性が働き続けることへの周囲や社会の理解・意識改革		女性自身の様々な改革		男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革		職場における育児・介護との両立支援制度の充実		介護支援サービスの充実		短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入		育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取り扱い禁止		その他(具体的に)		特にない		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	3,468	100.0%	599	17.3%	354	10.2%	457	13.2%	439	12.7%	139	4.0%	265	7.6%	403	11.6%	245	7.1%	272	7.8%	226	6.5%	14	0.4%	12	0.3%	28	0.8%	15	0.4%
男性	1,473	100.0%	248	16.8%	157	10.7%	194	13.2%	186	12.6%	67	4.5%	113	7.7%	165	11.2%	104	7.1%	98	6.7%	112	7.6%	7	0.5%	8	0.5%	8	0.5%	6	0.4%
女性	1,929	100.0%	338	17.5%	192	10.0%	256	13.3%	247	12.8%	68	3.5%	146	7.6%	230	11.9%	135	7.0%	167	8.7%	114	5.9%	7	0.4%	4	0.2%	20	1.0%	5	0.3%



◆ 女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことについて性別で見ると、全体では、「保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(17.3%)と回答した割合が最も高く、次いで「男性の家事・育児参画への理解・意識改革」(13.2%)、「女性が働き続けることへの周囲や社会の理解・意識改革」(12.7%)、「職場における育児・介護との両立家事・育児支援制度の充実」(11.6%)の順となっている。

◆ 男女別で比較した場合、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」では、女性の回答した割合が男性より2.0ポイント高く、「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取り扱い禁止」では、男性の回答した割合が女性より1.7ポイント高くなっている。

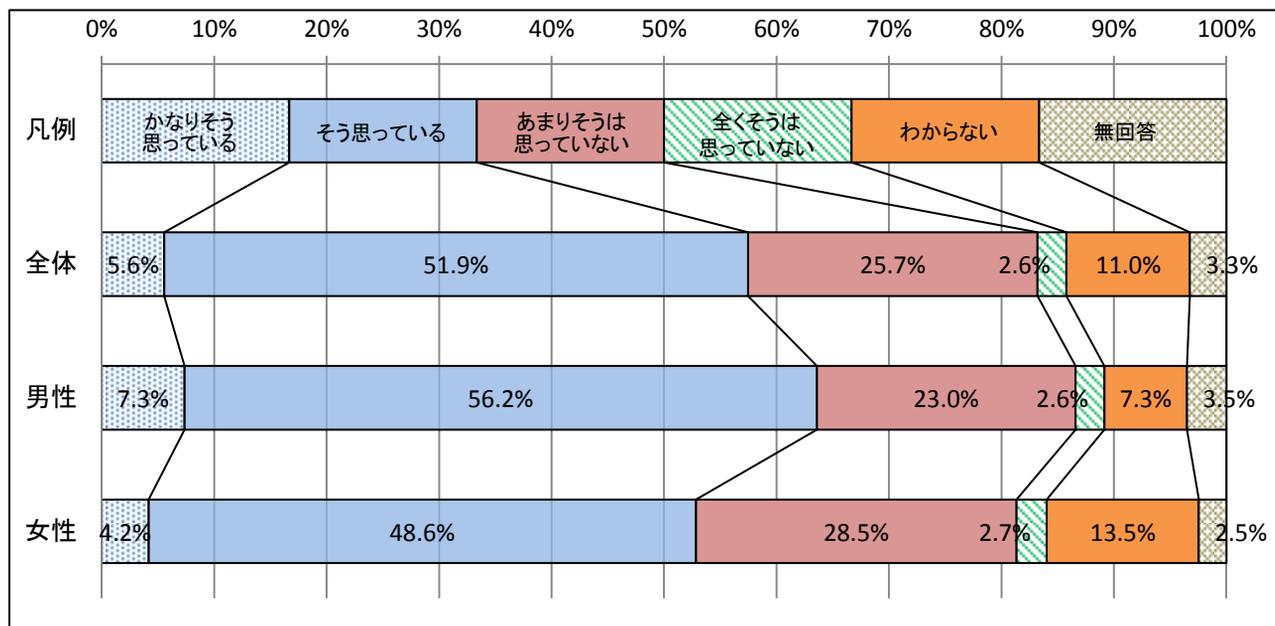
### 《その他(主な意見)》

- ・ 3才頃まで母親が直接育児をすべきと考えている
- ・ 保育制度の充実を推し進めるより、会社全体が男性も育児に参加できる体制(育休など)を徹底的に整えるべき！！
- ・ 小規模の企業が多く、女子の従業員が少なく出産・育児休暇がとれる状況にない
- ・ 主婦として、地域の一人間として、職業人としての自覚と謙虚な姿勢
- ・ 休むことにより職場の職員に負担をかけないように人事配置をする
- ・ 適齢期はある
- ・ 賃金が低い(近辺に比べ)
- ・ 職場の労務改革が不可欠です
- ・ 会社の経営状況
- ・ 行政が主体となって、働く機会・場所をもっと増やす
- ・ 退職すべき
- ・ 夫婦で話し合う、心がけ

【問15】 あなたは、日ごろ、何か地域のために役立ちたいと思いますか。

次の1～5の中から1つだけ選んでください。

《性別件数：無回答 18件除く》



《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		かなりそう思っている		そう思っている		あまりそうは思っていない		全くそうは思っていない		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	2	2.7%	31	41.9%	27	36.5%	3	4.1%	11	14.9%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	6	6.4%	35	37.2%	39	41.5%	3	3.2%	11	11.7%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	6	5.1%	55	47.0%	38	32.5%	3	2.6%	11	9.4%	4	3.4%
50歳代	134	100.0%	5	3.7%	67	50.0%	39	29.1%	3	2.2%	16	11.9%	4	3.0%
60歳代	153	100.0%	10	6.5%	96	62.7%	28	18.3%	2	1.3%	14	9.2%	3	2.0%
70歳代	115	100.0%	8	7.0%	73	63.5%	15	13.0%	3	2.6%	9	7.8%	7	6.1%
80歳以上	35	100.0%	3	8.6%	19	54.3%	2	5.7%	2	5.7%	6	17.1%	3	8.6%

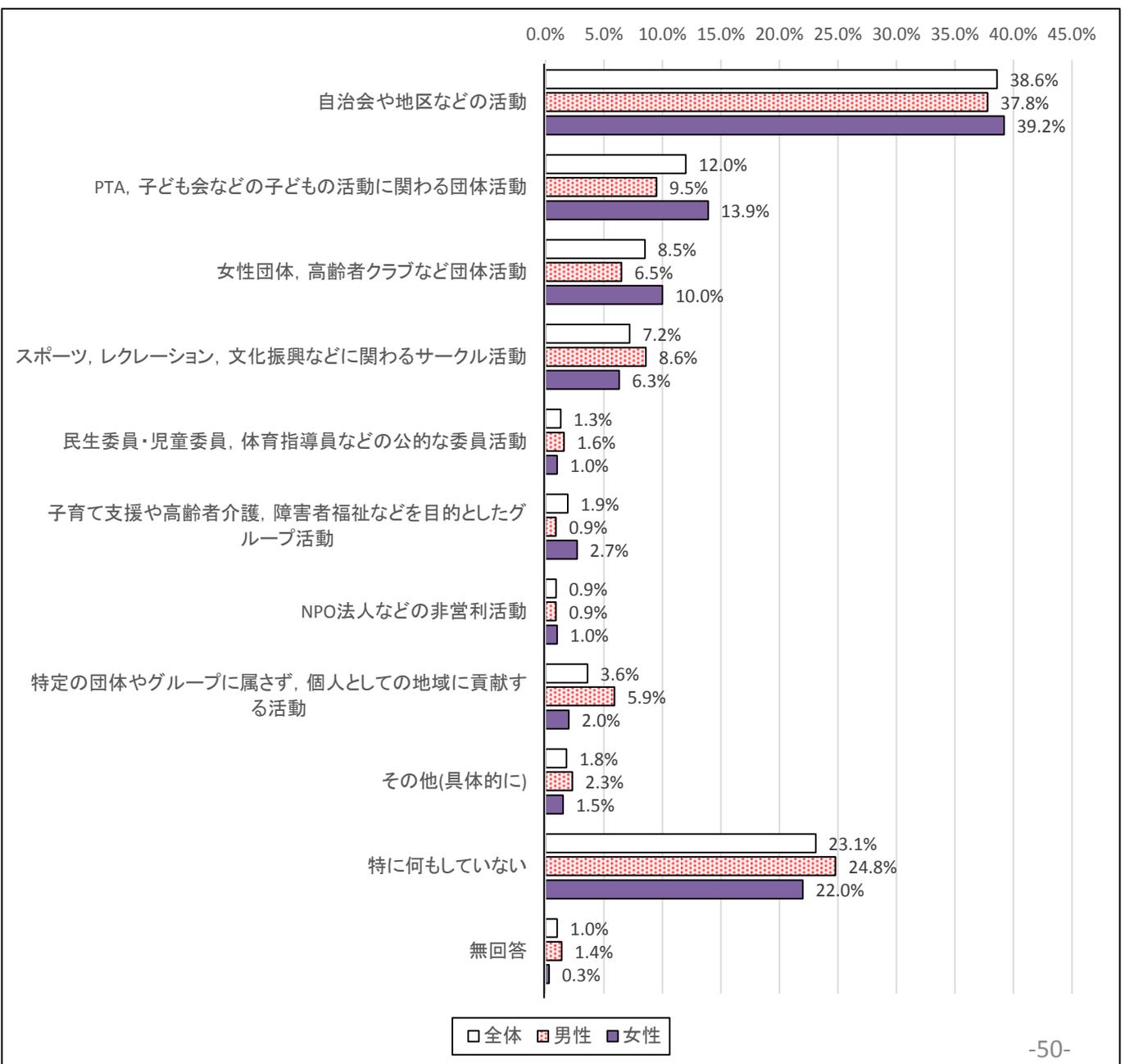
◆ 性別で見ると、全体では、「そう思っている」(51.9%)、「あまりそうは思っていない」(25.7%)、「わからない」(11.0%)、「かなりそう思っている」(5.6%)、「全くそうは思っていない」(2.6%)となっている。

◆ 男女別では、「かなりそう思っている」とした人の割合は男性が女性を3.1ポイント上回っている。一方、女性では「思わない」とする人の割合が31.2%（「あまりそうは思っていない」28.5%+「全くそうは思っていない」2.7%）で、男性の25.6%を5.6ポイント上回っている。

◆ 年代別にみると、30歳代では「あまりそうは思っていない」、それ以外の年代では「そう思っている」とする人の割合が最も高くなっている。また、「かなりそう思っている」とする人の割合が最も高いのは80歳以上(8.6%)、次いで70歳代(7.0%)となっている。

【問16】 あなたは、現在、次のような地域活動に参加していますか。  
 次の1～10の中からいくつでも選んでください。

	合計		自治会や地区などの活動		PTA、子ども会などの子どもの活動に関わる団体活動		女性団体、高齢者クラブなど団体活動		スポーツレクレーション、文化振興などに関わるサークル活動		民生委員・児童委員、体育指導員などの公的な委員活動		子育て支援や高齢者介護、障害者福祉などを目的としたグループ活動		NPO法人などの非営利活動		特定の団体やグループに属さず、個人としての地域に貢献する活動		その他(具体的に)		特に何もしていない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	1,064	100.0%	411	38.6%	128	12.0%	90	8.5%	77	7.2%	14	1.3%	20	1.9%	10	0.9%	38	3.6%	19	1.8%	246	23.1%	11	1.0%
男性	444	100.0%	168	37.8%	42	9.5%	29	6.5%	38	8.6%	7	1.6%	4	0.9%	4	0.9%	26	5.9%	10	2.3%	110	24.8%	6	1.4%
女性	599	100.0%	235	39.2%	83	13.9%	60	10.0%	38	6.3%	6	1.0%	16	2.7%	6	1.0%	12	2.0%	9	1.5%	132	22.0%	2	0.3%



◆ 実際にどのような地域活動に関わっているかについてみると、全体では「自治会や地区などの活動」(38.6%)が最も高く、次いで、「特に何もしていない」(23.1%)、「PTA,子ども会などの子どもの活動に関わる団体活動」(12.0%)となっている。

◆ 男女別では、男女ともに「自治会や地区などの活動」が最も高い。一方、最も低いのは、女性では「民生委員・児童委員、体育指導員などの公的な委員活動」「NPO法人などの非営利活動」(1.0%)、男性では「子育て支援や高齢者介護、障害者福祉などを目的としたグループ活動」「NPO法人などの非営利活動」(0.9%)となっている。

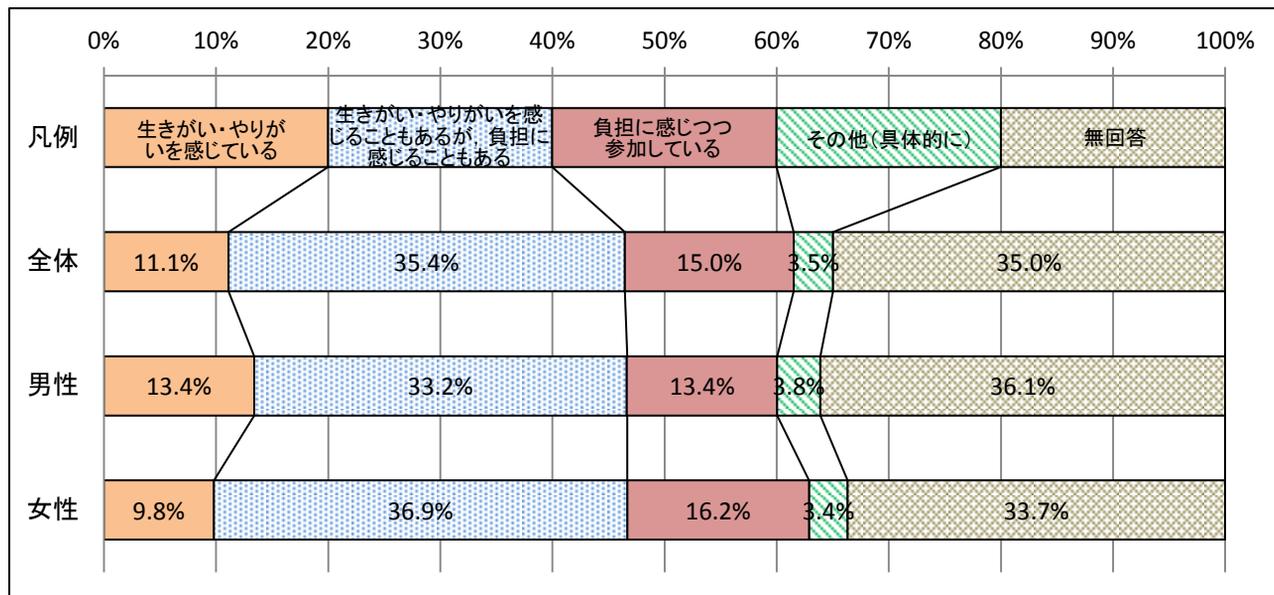
### 《その他(主な意見)》

- ・ 世界ユニセフ協会会員、通算数十年
- ・ 介護中で出来ない
- ・ 足が動かなくて、外出が出来ない。介護を受けている。元気な時は、色々活動していた。80歳まで。
- ・ 仕事が忙しいので出来ない！
- ・ 母の介護の為、活動があまり出来ない。
- ・ 学童の登下校見守り。子供110番の家
- ・ 施設が参加する地域の活動
- ・ 会社で地域貢献活動に参加する機会があるので、そこで参加しています。
- ・ 自主的に近くの神社のそうじをしている
- ・ 清掃作業
- ・ 活動はしていたが、体が動かなくなった
- ・ 宗教活動
- ・ 何かやりたいが、今は身体的に出来ない状態だ。
- ・ たまーに参加
- ・ 現状として、生計を立てて収入を得ながら非常に苦しい生活の為、参加したいと思っても無理な事の方が多い。体力的問題も発生する為
- ・ 地域の清掃活動(草刈り)

《問16で「1～9」を選んだ方におたずねします。》

【問17】 参加しているお気持ちについて、次の1～4の中から1つだけ選んでください。

《性別件数：無回答 18件除く》



《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		生きがい・やりがいを感じている		生きがい・やりがいを感じることもあるが、負担に感じることもある		負担に感じつつ参加している		その他(具体的に)		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	4	5.4%	14	18.9%	5	6.8%	5	6.8%	46	62.2%
30歳代	94	100.0%	6	6.4%	23	24.5%	25	26.6%	3	3.2%	37	39.4%
40歳代	117	100.0%	8	6.8%	54	46.2%	20	17.1%	4	3.4%	31	26.5%
50歳代	134	100.0%	10	7.5%	50	37.3%	29	21.6%	4	3.0%	41	30.6%
60歳代	153	100.0%	20	13.1%	60	39.2%	23	15.0%	3	2.0%	47	30.7%
70歳代	115	100.0%	26	22.6%	44	38.3%	6	5.2%	4	3.5%	35	30.4%
80歳以上	35	100.0%	7	20.0%	10	28.6%	1	2.9%	3	8.6%	14	40.0%

◆ 性別で見ると、全体では、回答の割合が高い順に「生きがい・やりがいを感じることもあるが、負担に感じることもある」(35.4%)、「無回答」(35.0%)、「負担に感じつつ参加している」(15.0%)となっている。

◆ 男女別では、男性は「無回答」(36.1%)、女性は「生きがい・やりがいを感じることもあるが、負担に感じることもある」(36.9%)が、最も高い回答の割合となっている。また女性では「負担に感じつつ参加している」(16.2%)が、「生きがい・やりがいを感じて参加している」(9.8%)を6.4ポイント上回り、男性では「生きがい・やりがいを感じて参加している」と「負担に感じつつ参加している」が同じ割合(13.4%)となっている。

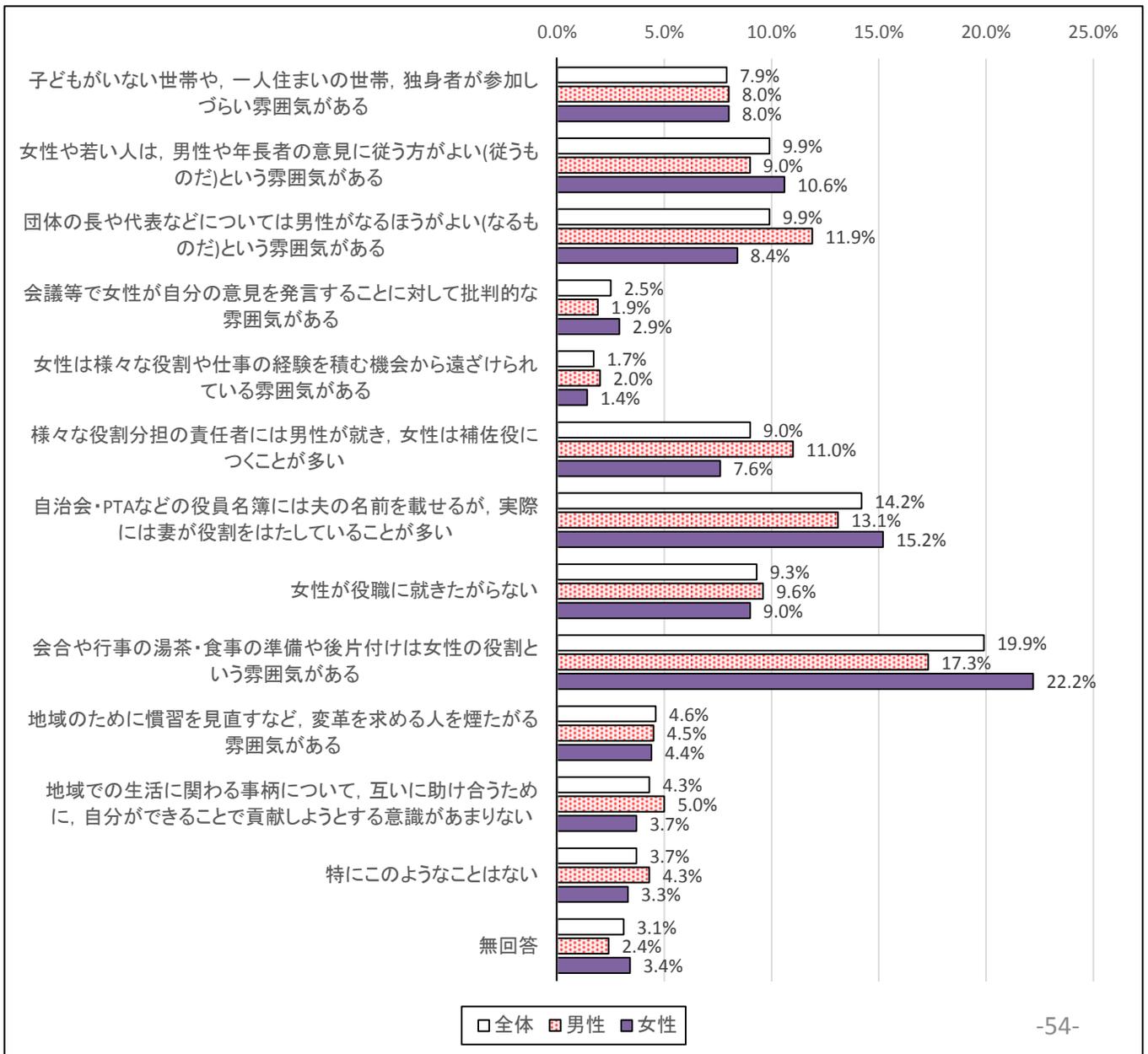
◆ 年代別にみると、40歳代～70歳代で、「生きがい・やりがいを感じることもあるが、負担に感じることもある」と回答する割合は3割をこえ、特に40歳代では4割をこえている。

## 《その他(主な意見)》

- ・ 多くのことを学べる
- ・ 病気のため、他の人の仕事についていけない
- ・ 参加が当然
- ・ 楽しさ☆
- ・ 話し相手になったりし、自分にもプラスになる。
- ・ リハビリ・病院以外は、ほとんど家にいる。送迎してもらおう。
- ・ 当たり前だと思って参加している
- ・ 楽しい
- ・ 子どもの為に参加している。参加しないといけない。
- ・ やるべきことだと思っている
- ・ 通院治療中の為断ったが、自分に決められていた。出来ないことを再度言うと、何の病気でこの病院で治療しているかと言われた。
- ・ 生きがい・やりがいということではなく、当然やるべきこととして参加している。参加する事は楽しいことである。
- ・ 自分の身体が動かなくなった為
- ・ 子供の成長や地域での活動を見るため
- ・ 父親が高齢のため
- ・ 自治会の活動に対して、責任を持って参加出来る時は参加している
- ・ 高齢者クラブ等の活動には進んで参加する
- ・ これ迄仕事ひとすじで無頓着であったため
- ・ 連絡があれば参加。生きがい。負担の気持ちは無い
- ・ 義務として

【問18】 地域の活動で、次のような雰囲気や慣習がありますか。  
次の1～12の中からいくつでも選んでください。

	合計		子どもがいない世帯や、一人住まいの世帯、独身者が参加しづらい雰囲気がある		女性や若い人は、男性や年長者の意見に従う方がよい(従うものだ)という雰囲気がある		団体の長や代表などについては男性がなるほうがよい(なるものだ)という雰囲気がある		会議等で女性が自分の意見を発言することに対して批判的な雰囲気がある		女性は様々な役割や仕事の経験を積む機会から遠ざけられている雰囲気がある		様々な役割分担の責任者には男性が就き、女性は補佐役につくことが多い		自治会・PTAなどの役員名簿には夫の名前を載せるが、実際には妻が役割をはたしていることが多い		女性が役職に就きたがらない		会合や行事の湯茶・食事の準備や後片付けは女性の役割という雰囲気がある		地域のために慣習を見直すなど、変革を求める人を煙たがる雰囲気がある		地域での生活に関わる事柄について、互いに助け合うために、自分ができるところで貢献しようとする意識があまりない		特にこのようなことはない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	1,901	100.0%	150	7.9%	188	9.9%	189	9.9%	47	2.5%	32	1.7%	172	9.0%	270	14.2%	177	9.3%	378	19.9%	87	4.6%	82	4.3%	71	3.7%	58	3.1%
男性	840	100.0%	67	8.0%	76	9.0%	100	11.9%	16	1.9%	17	2.0%	92	11.0%	110	13.1%	81	9.6%	145	17.3%	38	4.5%	42	5.0%	36	4.3%	20	2.4%
女性	1,012	100.0%	81	8.0%	107	10.6%	85	8.4%	29	2.9%	14	1.4%	77	7.6%	154	15.2%	91	9.0%	225	22.2%	45	4.4%	37	3.7%	33	3.3%	34	3.4%



◆ 地域の雰囲気や慣習についてみると、全体では、「会合や行事の湯茶・食事の準備や後片付けは女性の役割という雰囲気がある」(19.9%)が最も高く、次いで「自治会・PTAなどの役員名簿には夫の名前を載せるが、実際には妻が役割をはたしていることが多い」(14.2%)、「女性や若い人は、男性や年長者の意見に従う方がよい(従うものだ)という雰囲気がある」「団体の長や代表などについては男性になるほうがよい(なるものだ)という雰囲気がある」(9.9%)の順になっている。

◆ 男女別でみると、男女ともに「会合や行事の湯茶・食事の準備や後片付けは女性の役割という雰囲気がある」が最も高いが、女性(22.2%)の回答の割合は、男性(17.3%)より4.9ポイント上回っている。また、「団体の長や代表などには男性になるほうがよい(なるものだ)という雰囲気がある」と回答した割合は、男性(11.9%)が、女性(8.4%)を3.5ポイント上回っている。

【問19】あなたが地域における活動に参加するなかで感じている、活動のやりがいや苦勞していることなどがありましたら教えてください。

地域における活動のやりがいや苦勞していることについて聞いたところ、回答件数は127件で、その内訳は「活動のやりがい」が15件、「やりがいはあるが苦勞もある」が5件、「苦勞していること」が54件、「その他」が53件だった。

また、その内容は、「活動のやりがい」については、「人とのつながり・ふれあい、仲間づくり」(7件)、「地域貢献・社会貢献」(3件)、「参加者が喜ぶ姿」(2件)といったことがあげられている。

「苦勞していること」については、「参加者の減少・固定化」(16件)、「仕事との両立が困難」(9件)、「高齢化の影響」(8件)、「時間の確保が困難」(5件)、「慣習の押しつけ」(5件)といったことがあげられている。

### 【活動のやりがい(15件)】

#### ■ 人とのつながり・ふれあい、仲間づくり(7件)

- 地域の皆様と活動することで元気になり、色々な知恵をいただけます。気配りや配慮、技術的なことが出来ているのかと思います。(女性, 60歳代)
- 自治会の小さな役や子ども会活動に参加していますが、顔を合わせる回数が増えるごとに地域の方々との親しくなり、負担に思っていたことが楽しく思えたりする時があります。日頃からコミュニケーションをとることが必要とわかっていながらもなかなかできないので、こういった活動も負担にならない程度に参加するのも良いかと思います。(女性, 40歳代)
- いろんな人との会話をして、情報を仕入れることがある。(男性, 40歳代)
- たくさんの地域の人と会って、参加してよかったと思っている。(男性, 20歳代)
- 近所の高齢の方や若い方と接する事が少ないので、地域活動を通してふれあう機会が出来るので良い。逆にADLが低下した高齢の方は、地域への参加が困難で、回覧板でさえまわさなくなっているのが気になります。(女性, 30歳代)
- 婦人部などで、お料理などの手伝いをさせていただくことが多いのですが、いろいろな年代の人がいて教わることも多いし、近所の人とも仲良くなれていいと思います。(女性, 50歳代)
- 広く人を知り、絆が深まったこと。情報を得ることが多く、自分が豊かになる。(男性, 70歳代)

#### ■ 地域貢献・社会貢献(3件)

- 今まで働いていたので地域に役立つなら参加したいのですが、ひとりではどう参加していけばと考えている最中。知り合いのグループホームにボランティアを考えています。(女性, 50歳代)
- 自分をよくする、地域をよくする、家庭をよくする、ための社会教育団体に属しており、公共施設の清掃等で地域に貢献できることが生きがいになっている。(女性, 60歳代)
- 民生・児童委員の活動で、地域の方々から頼りにされている事も多く、やりがいを感じています。また、高齢化社会が進む中、自治会活動も消極的になって、いつも同じ顔ぶれで行って運営されている点が、少し心配になります。(無回答)

## ■ 子どもとのふれあいや子どもが喜ぶこと(1件)

- 子ども達の成長を感じられる時に、やりがいを感じます。(男性, 50歳代)

## ■ 参加者が喜ぶ姿(2件)

- 私は陶芸教室を指導しているが、非常にやりがいがあると思っている。何故ならば、皆さん(生徒)が大変喜んでくれている。生徒さんとは交流があり、たまにお逢いすると懐かしんで下さる。その時その時に、唯一生懸命指導したのが報われていると感じている。今は80歳をこえ、多少体力が落ちているので少し苦労しているが、唯、有難く地域振興課の方々に感謝している次第です。(男性, 80歳以上)
- 活動を通して地域の人達の声や考えに耳を傾け、自分なりに対応した上で、期待に添う事が出来た時に、やりがいと喜びを感じる。(男性, 20歳代)

## ■ その他(2件)

- 自分ができる範囲で参加しているため、苦労とは感じていない。活動している方のアピールなど、どんなことをされているかの内容を知りたい。(女性, 40歳代)
- 己の意思でボランティアやサークル活動をしているので、あまり苦労をしているとは思わない。(男性, 70歳代)

## [やりがいはあるが苦労もある:5件]

- 子供が小・中学校までは、色々参加させていただける機会がありましたが、現在子供が成人し、ほぼ参加する事がなくなりました。正直、参加すると楽しいのも確かですが、苦にもなる事も多かったです。特に、市民運動会のマ스ゲームは、本当に苦でしかありません。毎年役員が仕方なく参加しているように感じます。マ스ゲームを続けていけない意味がわかりません。練習の時、参加している様子を見て下さい。仕事で疲れて、家事で疲れて、その後好きでもない事をやらされる身になって下さい。何故、婦人部だけがあるのでしょうか。男性部もお作りになられては。男性部のマ스ゲームで踊りをされてはいかがですか？以前婦人会が解散となり、ホツとしている矢先、婦人部と名称を変えて、強制的に入れているのもいかがなものかと。行政もこのようなアンケートをして、いかにも努力されるかのように見せているだけに感じているのは、私だけでしょうか？このような事を言わせて頂ける場を作って下さったことには、感謝申し上げます(はあと)お疲れ様です。(女性, 50歳代)
- 1.空き家が多い。全世帯中15.9%が空き家で、古くて有効活用ができない。2.人口の減。特に子供が少ない。全世帯中子どものいる世帯は4.3%。3.高齢者クラブ・いきいきサロン・筋ちゃん広場の出席率が良く活動の応援のやりがいがあります。(男性, 70歳代)
- 地域の人顔や名前を覚えていけるのは、うれしい。地域・学校等活動が多く、家族との時間がとれない。(女性, 40歳代)

- みんなでとりくんだ活動で、助け合ってなしとげた後の満足感(花だん花植え・サロン(学習含む)・清掃など)それぞれの活動に対して、私は関係ないという態度で参加されない方への取り組みに苦勞する。(男性, 70歳代)
- 何の行事であれ、参加すればいろいろな知り合いとも会え、新しく知り合いとなる方もあり、行って良かったと思うが、出かけるまでは「せっかくの休みが…」と思ってしまうことも多い。(男性, 30歳代)

## [苦勞していること:54件]

### ■ 参加者の減少・固定化(16件)

#### 【主な意見】

- 地域で会長さんなどが、懸命に参加されるよう色々なことで、工夫されても、皆さんが出会えないので、もっと協力する気持ちを持つような話などしてほしい。(女性, 70歳代)
- 個人中心で組織の中に入らず、活動しない人が多くなっている。(男性, 70歳代)
- 一人ひとりが自分の生活でいっぱいである。(男性, 50歳代)
- 参加人数が少ない。自分自身も参加したいが、仕事や家庭、家族の用事が多く参加できないのが現状であります。(男性, 50歳代)
- 地域の活動について、参加する人が決まっている。まず一つでも参加すると次回も参加したいとか、他の活動への意欲がわいてくると思います。活動に消極的な人には、いっしょに参加しませんかと声をかけることも必要と思われます。(男性, 70歳代)
- 高齢化や地域活動意識の低下により、参加者が少なくなってきたこと。(男性, 50歳代)
- 同じ人ばかりが出てくる傾向があります。参加を面倒くさいと思う人が多いのでは？人集めには苦勞すると思います。興味のあることには参加したいと思います。(男性, 20歳代)
- 地域運動会などで、前もって決められている種目が個人ごとに連絡できていますが、実際、当日参加できない方などいて、人を集めるのが大変そうに感じます。(女性, 30歳代)
- 清掃作業等に参加が少ない。何かメリットが必要です。(男性, 50歳代)
- 参加する人と参加しない人が、はっきりと分かれている。(男性, 40歳代)

### ■ 仕事との両立困難(9件)

#### 【主な意見】

- 実際、多数参加していると思われない現状であり、地域の伝統行事等に対しても、手伝ったりするより、見学参加になってしまう為、周囲の捉え方を考えるとすれば、全く参加協力していないという見方であると思います。生活の為の収入を得なければならず、自活していく為の理解はあるとは思いますが、親も亡くなっており、子供もいない結婚もしていない1人での生活に対して、周囲でグループ活動をしている方々の話などには入れないです。(女性, 40歳代)

- 働きながら地域の活動に参加することは(特にパートの場合)時間的制約があるため厳しい。(女性, 50歳代)
- 仕事や子育てで忙しくあまり参加できない。(女性, 30歳代)
- 夫婦ともに、土・日・祝日が休みとならない勤務であるので、一斉掃除等の際に出勤が重なると、実際は言われていないかもしれないが「協力しない」と思われているのではないかと感じてしまう。(男性, 30歳代)
- 土・日・休日の勤務があるので、基本的には地域の活動に参加できないことが多い。(男性, 40歳代)

### ■ 高齢化の影響(8件)

#### 【主な意見】

- 八十路を迎えると体力的に意欲はあっても積極的活動は困難になる。(男性, 80歳以上)
- 高齢化が進み、草払いの人手不足が心配である。(男性, 50歳代)
- 年とった人が増えてきて(若い人よりも)若い人は仕事をしなければならないので。地域の活動等、お年寄が、多くて不活発だと思う。(女性, 60歳代)
- 特に高齢者が多くなると、役割が何度もまわってきてしまい、負担に感じる。(女性, 40歳代)

### ■ 時間の確保困難(5件)

#### 【主な意見】

- 趣味として自主的に参加している活動と重なることが多く、地域活動が重荷になる事がある。(女性, 70歳代)
- 新年式をやめてほしい。育成会・女性部・PTA活動・学校行事に参加しているが、行事も多く、休みの日にゆっくり休む暇がない。(女性, 40歳代)
- 地域・学校(PTA)等の出席が多すぎる！人口の少なさに、1人1人の負担がありすぎる。役職から抜ける事ができない。子育て家庭は会合の度、時間を削り調整しないと参加できない状況。(女性, 30歳代)

### ■ 役員の負担感(3件)

- 役職を受けて今後の仕事の内容が心配である。(男性, 60歳代)
- 地域活動やPTA活動など、忙しさや仕事を理由に参加しようとならない人が近年特に増えているように思う。役員や係任せの雰囲気があり、特に女性は役職を男性に押し付ける傾向が強いように思う。役員選出は、どの団体や活動においても苦勞する。(男性, 50歳代)
- リーダーになる方がおられたら頼りたいと考えている。(男性, 60歳代)

### ■ 子育てとの両立困難(2件)

- 小さい子どもがいる間は、地域の活動までするのは難しい。何のために仕事を辞めて専業主婦になったのか分からない。女性ばかり参加してる。ヒマだと思われてる？夜出るのはムリ、土日祝、休みなわけではない。地域活動、そんなに必要？(女性, 20歳代)
- PTAの参加, 役員をしなければならない。(女性, 30歳代)

### ■ 慣習の押しつけ(5件)

- 共働きのためほとんど参加できない。参加する意味も別に感じられない。自由参加にして欲しい。(女性, 30歳代)
- 人の集りや団体のなかでの活動があまり好きではなく、一人でコツコツと自分の趣味をするのが好みです。でも、地域の運動会, その他地域でしないといけないそうじ等必ず出席しています。そうじ等は苦になりませんが運動会などはとても苦になります。本当は出たくありません。(女性, 60歳代)
- 地域の清掃が多すぎる。(女性, 20歳代)
- 慣例に流され行われている行事がある。自治会役員(特に町内会長)の出席会議が多く、サラリーマンの参加は困難。(男性, 50歳代)
- 昔ながらの考えの方が多い。(男性, 50歳代)

### ■ 過疎化の影響(3件)

- 居住人口が少ないこと。少子高齢化の年齢構成である。(男性, 70歳代)
- 自分らの集落は限界集落で集落の色々な奉仕作業で人員を集めるのが困難で参加した人がすごく苦勞しています。(男性, 60歳代)
- 私の自治会は高齢化率が高い, と自治会長さんが話していたのが気になりますが, 実際, 地域活動に参加しても高齢者が多く, 若者といってもまもなく60歳代という人がほとんどです。皆さんと話しをすると, 後継者がいない, 人口が減少するなど暗い話ばかりですが, 最後はくよくよせず, 前向きにという話でまとまります。地域振興対策がいろいろと計画され進められていますが, とにかく前向きに頑張るしかないと思います。(女性, 70歳代)

### ■ 排他的風土(3件)

- 在住者と転入者との格差, これらの対応の考え方の差をなくす努力が必要だ。今後とも根気強く周知活動が必要だと考えます。(男性, 70歳代)
- 他人の噂話等が多くて仲間にはいりづらい。あまりにも他人のウワサばかりが多い様な感じでなじめない。(女性, 70歳代)
- 地元で古くからの役員が強過ぎて, 転入者との格差別がひどい!(男性, 60歳代)

## [その他(53件)]

### 【主な意見】

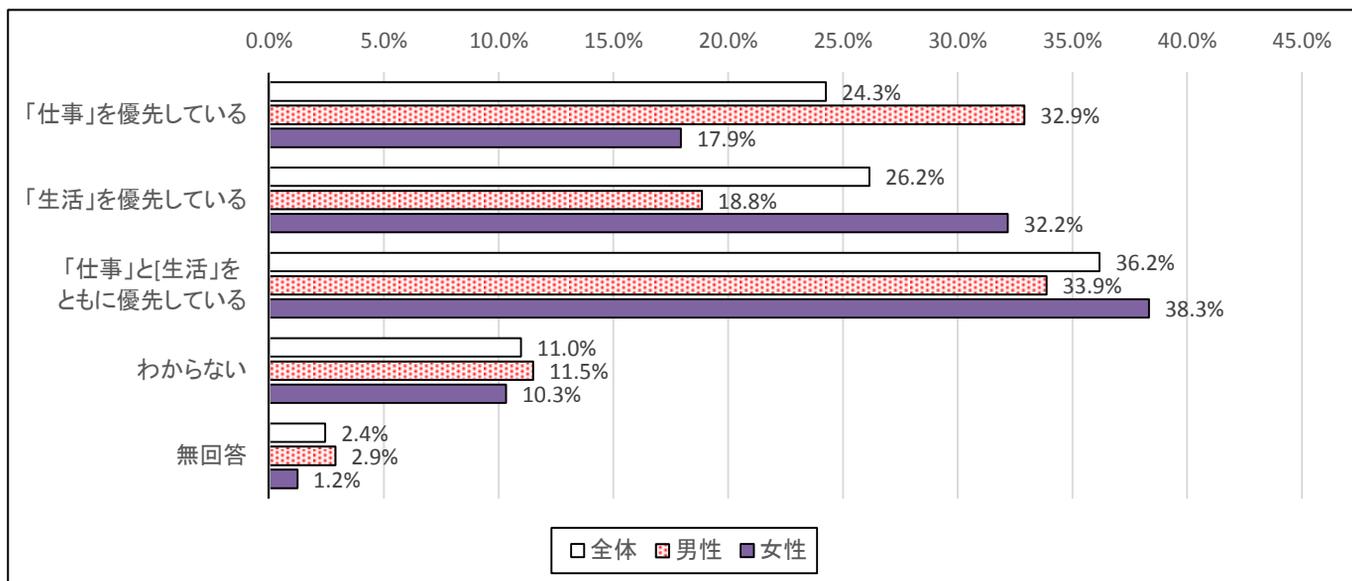
- 見守りで一番感じているのが、夫婦二人世帯で妻が入院した時、夫が食事を始め何も出来ないという相談事例が何度かあり、非常に困ったことがあったので、男女の役割分担について社会通念を含め早急に見直す必要があるのではないかと。(男性, 60歳代)
- 個(自分)と全体(社会)の調和を図るのに、合理的なシステム思想が構築されれば、もっと住みよい社会になると思います。(男性, 60歳代)
- ①自分で責任を取りたがらない人が多いように思う(決断を遅らせている)②批判だけする人が多い。(男性, 70歳代)
- 地域における活動に参加する機会がない。(男性, 20歳代)
- 地域活動に参加するにあたり、準備するものなどがあるが、その活動に対して具体的に何を準備してくれるのか詳細に書いていない。一度経験をしないとわからないような内容にしている。(男性, 30歳代)
- 祭り等、行事が行われることには賛成みたいだが、それまでの準備等に協力的ではない。女性の方が協力的だが、男性に言われて(決められて)している感じがする。(女性, 40歳代)
- 地域の役など“したがる人”こんたんがあるようだ。そんな人が多すぎ。(無回答)
- 団地に生活しておりますが、周りの方々も引越して来られた方ばかりなのでご近所さんとのつながりが薄いような気がします。年班という役が回った時だけ地域の行事に参加して、終わるとなかなか参加しなくなります。いつもいつもメンバーが入れ替わり、地域で知らない方の方が多いという状態です。それぞれの公民館をフル回転させて、交流の場にするといいと思います。1人暮らしの方とかが毎日気軽に行ける場所が一つは欲しいですね～(女性, 50歳代)
- 連絡が無いので参加したくても参加できない。(男性, 30歳代)
- 年配の方たちは、時間があるため話し合いが長い。いい大人が足を引っ張り合ってる。年配の女性を役員にしたりするのが、かわいそう。(要望です…畑や庭で、草を燃やしたりしてる人がいる。注意しにくい。市役所の人から注意してもらいたい)(女性, 20歳代)
- 女性リーダーが、単年度で交代するシステムを自分達で構築しているため、有効な活動が進まない。また、年度によって取り組む姿勢が違って来る。(男性, 60歳代)
- 自治会活動では、役員のみが一生懸命であり、その他は「取りあえず顔を出せば」などの気分が多々見受けられる。ただ女性は、近年になり積極的な方が増え、意見も言うことができる様になった事は良い事だと感じている。(男性, 60歳代)
- 個人情報保護、プライバシーの侵害の問題により、身近な人と接するときでも、どの位の事まで話していいのか気をつかう。近い将来、班の配りものをする人が限られることを不安に思う。(男性, 60歳代)
- 人間関係(女性, 60歳代)

- 地域行事などが行われている時に、係わる人間が、その時の公民館の係をしている人が多く、住民全体で行事をしている実感が無い。行事が、係の人の為にあるような感じになっている。(女性, 50歳代)
- 道路の草払い作業が地域によって時間差がありすぎる。(1日がかりの地域や2~3時間でおわる地域もある)高齢者が多く危険も伴うので見直して欲しい。(男性, 40歳代)
- 自治会の1つの役職に就くと上部団体に次々に入るようになり自分の時間が少なくなる。(男性, 70歳代)
- 何かというと酒を飲むのが大嫌い。酒を飲むための活動という気がする。鹿児島県の最悪の習慣と思う。私の地域では集りがあると必ず酒が出ます。昼間でもお構いなしです。うんざりします。地域の大事なお金が酒代に消えていきます。せめて、年に1.2回しか飲む機会が無いと良いのにとおもいます。鹿児島は男も女も飲酒について甘すぎます。アルコール依存症の人もいます。(女性, 60歳代)
- 地域が広すぎて、活動の日に集まりがよくないと感じる。もう少し細かく分けたコミュニティーにしてはどうか。(男性, 40歳代)
- どんな活動をしているのか知らない。(女性, 20歳代)
- 各々の考え方のずれ、宗教等、活動参加に関係ないと思う。(女性, 60歳代)
- 他人ごとと思ひ、協力する気もちになるまで、エンジンのかかりが悪い。(女性, 50歳代)
- 1.子ども育成中の両親は、仕事と子どもの部活のフォローに忙しくて、地区の活動には参加したがない。2.シルバー世代の人は、キャラクターが強くてまとめづらい。3.地区の中間世代(50~60代)の参加意欲が無い。4.子ども達とシルバー世代の交流がうまくいっている。(男性, 70歳代)
- 自分の主義・主張を言い張って、他人の言うことを聞く耳がないという態度の人が目立つように思う。(男性, 60歳代)
- 母が認知症で、母の傍を離れられない為、地域の活動に貢献したい気持ちは大いにありますが、活動するためには介護施設に預けないと出来ないし、今リハビリに週2回通わせて居ますが、活動するためには、預ける回数が増えて経済的に苦しくなる為、あまり参加出来ません。(男性, 60歳代)
- 障害児がいるため、参加するのはいつも父親まかせ。私は子どもの世話をしている。父親が出張などの時は、地域の活動には参加できない。(女性, 50歳代)
- 活動の中で、あらゆる事について苦言・文句ばかり言う人がいて、ウンザリする事が多い。(男性, 60歳代)
- 上から目線の人が多い(男性, 70歳代)
- 活動には、何も参加していない(女性, 70歳代)

- 婦人部の活動において強制的加入, 役員がまわってきて, 年配の方の意見には逆らえない雰囲気があり, 若い人からは不満の声が多い。若い人の定住が少ない原因でもあるように思います。(女性, 50歳代)
- 地域住民の色々な面での協力, 活動をまとめるのが難しい。(男性, 60歳代)
- 地域の活動に参加しているというより, その活動を行う為の準備, 後片付け, 接待等がメインになり, 参加する意味が分からなくなるし, しんどい。(女性, 30歳代)
- 私は, 地区の活動は出来ません。圧迫骨折をしていたり, 手が痺れています。あるくのが庭ぐらいです。あとタクシーです。(80歳以上)
- 私は音楽などで参加させてもらう機会があるのですが, よい音でやりたいという思いと, 準備された機材の性能などで, なかなか思った通りにはいきません。その中で出来る事はしています。「ただやりました。やっています」の形ではなくて, 「よいものを作る」ために, その分野の知識のある人が企画に参加する事がいいなあと思います。(男性, 40歳代)
- 地域で何か役に立てることがあればと思い, 自治会・婦人部に入りましたが, 義務的に参加する行事が多く, 少しがっかりしました。もっと近所の方と触れ合えると思っていましたが, 行事の参加割り当てばかりで, 来年は婦人部はやめようと思っています。(女性, 60歳代)
- もっと多くの方に参加してもらいたいです。(男性, 40歳代)

【問20】 あなたの「仕事」と「生活」(家庭や地域活動や学習・趣味・付き合い等の個人の活動)のかかり方についておたずねします。次の1～4の近い番号を1つだけ選んでください。

《性別件数:無回答 18件除く》



《年代別件数: 無回答16件除く》

	合計		「仕事」を優先している		「生活」を優先している		「仕事」と「生活」をともに優先している		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	24	32.4%	19	25.7%	25	33.8%	6	8.1%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	19	20.2%	23	24.5%	48	51.1%	4	4.3%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	35	29.9%	26	22.2%	47	40.2%	9	7.7%	0	0.0%
50歳代	134	100.0%	46	34.3%	29	21.6%	48	35.8%	10	7.5%	1	0.7%
60歳代	153	100.0%	33	21.6%	50	32.7%	55	35.9%	12	7.8%	3	2.0%
70歳代	115	100.0%	17	14.8%	35	30.4%	32	27.8%	22	19.1%	9	7.8%
80歳以上	35	100.0%	3	8.6%	9	25.7%	7	20.0%	15	42.9%	1	2.9%

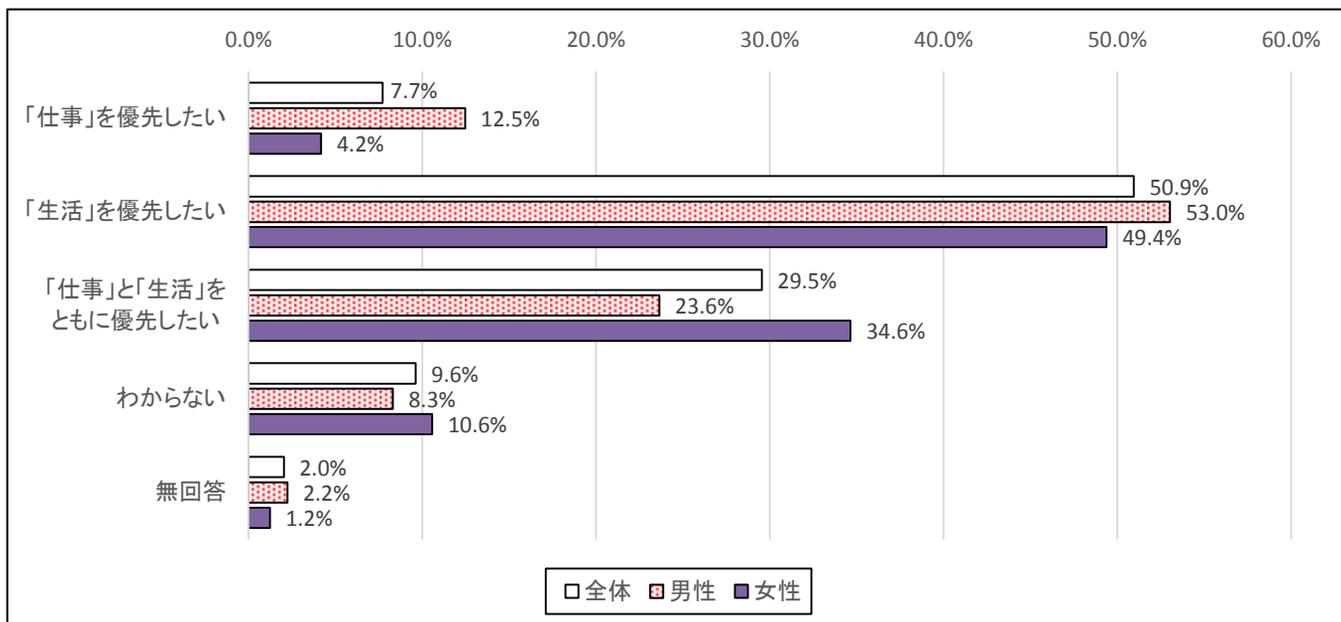
◆ 「仕事」、「生活」(家庭・地域活動・学習・趣味・付き合い等個人の活動)についてのかかり方を性別でみると、全体では、「『仕事』と『生活』をともに優先している」(36.2%)、「『生活』を優先している」(26.2%)、「『仕事』を優先している」(24.3%)の順になっている。

◆ 男女別では、男女とも「『仕事』と『生活』をともに優先している」が、最も高い回答の割合となっている。また、女性では「『生活』を優先している」(32.2%)が男性より13.4ポイント上回り、男性では、「『仕事』を優先している」(32.9%)が女性より15.0ポイント上回っている。

◆ 年代別にみると、20歳代～60歳代で、「『仕事』と『生活』をともに優先している」と回答する割合が最も高く、特に30歳代では5割、40歳代では4割をこえている。

【問21】 あなたの「仕事」と「生活」(家庭、地域活動、学習・趣味・付き合い等個人の活動)について、あなたの希望するかかわり方を次の1～4の中から、1つだけ選んでください。

《性別件数:無回答 18件除く》



《年代別件数: 無回答16件除く》

	合計		「仕事」を優先したい		「生活」を優先したい		「仕事」と「生活」をともに優先したい		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	2	2.7%	25	33.8%	44	59.5%	3	4.1%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	3	3.2%	28	29.8%	60	63.8%	3	3.2%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	9	7.7%	34	29.1%	66	56.4%	8	6.8%	0	0.0%
50歳代	134	100.0%	18	13.4%	32	23.9%	71	53.0%	12	9.0%	1	0.7%
60歳代	153	100.0%	13	8.5%	53	34.6%	75	49.0%	9	5.9%	2	1.3%
70歳代	115	100.0%	11	9.6%	34	29.6%	42	36.5%	20	17.4%	8	7.0%
80歳以上	35	100.0%	1	2.9%	9	25.7%	10	28.6%	14	40.0%	1	2.9%

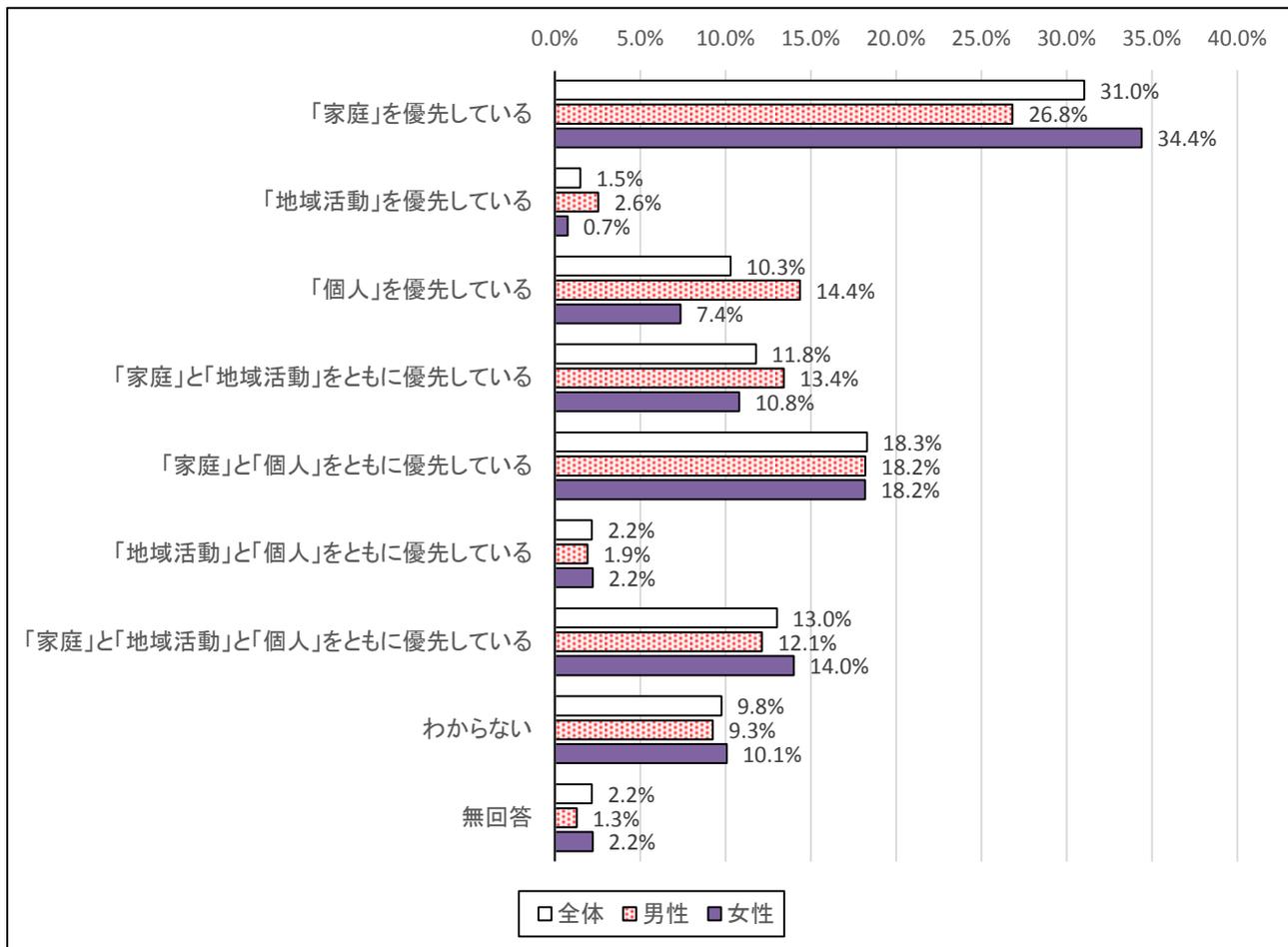
◆ 「仕事」、「生活」(家庭・地域活動・学習・趣味・付き合い等個人の活動)についての希望するかかわり方を性別でみると、全体では、「『生活』を優先したい」(50.9%)、「『仕事』と『生活』をともに優先したい」(29.5%)、「わからない」(9.6%)、「『仕事』を優先したい」(7.7%)の順になっている。

◆ 男女別では、男女ともに「『生活』を優先したい」が最も高い回答の割合となっていて、特に男性の割合は、女性より3.6ポイント上回っている。また、「『仕事』を優先したい」と回答した男性の割合は12.5%で、女性より8.3ポイント上回っているが、「『仕事』と『生活』をともに優先したい」と回答した男性の割合は23.6%で、女性より11.0ポイント低くなっている。

◆ 年代別にみると、20歳代～70歳代で、「『仕事』と『生活』をともに優先したい」と回答する割合が最も高く、特に30歳代では6割、20歳代と40歳代～50歳代では5割をこえている。

【問22】 あなたの生活の中での、「家庭」と「地域活動」と「個人(学習・趣味・付き合い等)」のかかり方についておたずねします。次の1～8の中で、近い番号を1つだけ選んでください。

《性別件数:無回答 18件除く》



《年代別件数： 無回答16件除く》

	合計		「家庭」を優先している		「地域活動」を優先している		「個人」を優先している		「家庭」と「地域活動」をともに優先している		「家庭」と「個人」をともに優先している		「地域活動」と「個人」をともに優先している		「家庭」と「地域活動」と「個人」をともに優先している		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	19	25.7%	0	0.0%	23	31.1%	2	2.7%	16	21.6%	1	1.4%	3	4.1%	10	13.5%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	36	38.3%	1	1.1%	10	10.6%	6	6.4%	27	28.7%	0	0.0%	5	5.3%	9	9.6%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	43	36.8%	2	1.7%	8	6.8%	13	11.1%	30	25.6%	0	0.0%	9	7.7%	12	10.3%	0	0.0%
50歳代	134	100.0%	44	32.8%	1	0.7%	13	9.7%	17	12.7%	26	19.4%	2	1.5%	17	12.7%	14	10.4%	0	0.0%
60歳代	153	100.0%	47	30.7%	4	2.6%	13	8.5%	24	15.7%	21	13.7%	5	3.3%	26	17.0%	9	5.9%	4	2.6%
70歳代	115	100.0%	20	17.4%	2	1.7%	7	6.1%	19	16.5%	10	8.7%	7	6.1%	30	26.1%	14	12.2%	6	5.2%
80歳以上	35	100.0%	15	42.9%	1	2.9%	1	2.9%	5	14.3%	2	5.7%	1	2.9%	5	14.3%	2	5.7%	3	8.6%

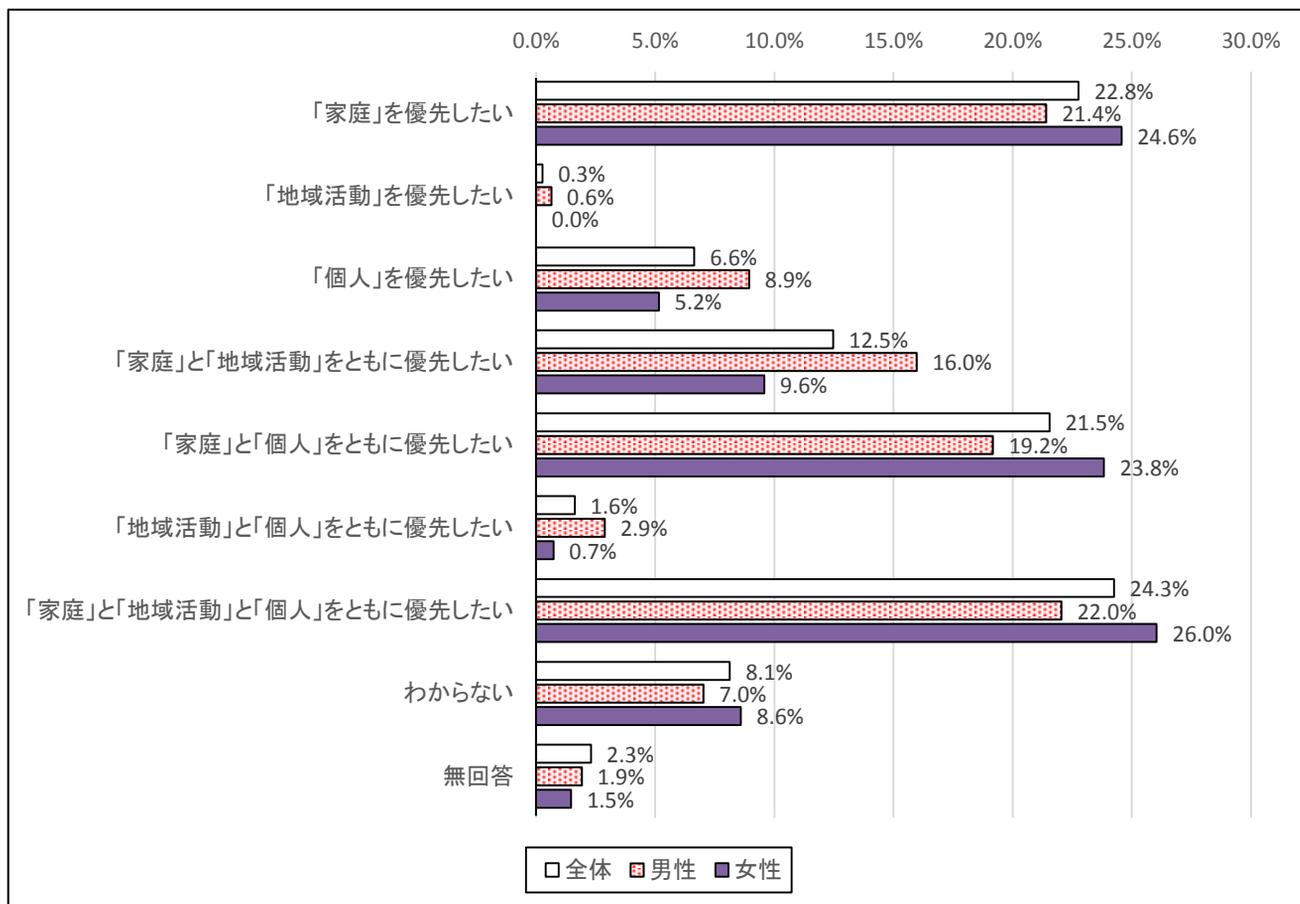
◆ 「家庭」, 「地域活動」, 「個人」(学習・趣味・付き合い等)のかかわり方について性別でみると、全体では、「『家庭』を優先している」(31.0%), 「『家庭』と『個人』をともに優先している」(18.3%), 「『家庭』と『地域活動』と『個人』をともに優先している」(13.0%), 「『家庭』と『地域活動』をともに優先している」(11.8%), 「『個人』を優先している」(10.3%)の順になっている。

◆ 男女別では、男女ともに、「『家庭』を優先している」が最も高い回答割合となっているが、特に女性の割合は34.4%となっていて、男性より7.6ポイント上回っている。次いで「『家庭』と『個人』をともに優先している」(18.2%)になっている。また「『個人』を優先している」と回答した男性の割合は14.4%で、女性より7.0ポイント上回っている。

◆ 年代別にみると、「『家庭』を優先している」とした人の割合が最も高いのは80歳以上(42.9%), 次いで、30歳代(38.3%), 40歳代(36.8%)となっている。また「『家庭』と『個人』をともに優先している」とした人の割合が最も高いのは、30歳代(28.7%), 次いで40歳代(25.6%)となっている。一方、「『家庭』と『地域活動』をともに優先している」とした人の割合が最も高いのは70歳代(16.5%), 次いで60歳代(15.7%)となっている。

【問23】 あなたの生活の中での、「家庭」と「地域活動」と「個人(学習・趣味・付き合い等)」のかかり方について、あなたの希望するかかり方をおたずねします。次の1～8の中で、近い番号を1つだけ選んでください。

《性別件数:無回答 18件除く》



《年代別件数: 無回答16件除く》

	合計		「家庭」を優先したい		「地域活動」を優先したい		「個人」を優先したい		「家庭」と「地域活動」ともに優先したい		「家庭」と「個人」ともに優先したい		「地域活動」と「個人」ともに優先したい		「家庭」と「地域活動」と「個人」ともに優先したい		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	74	100.0%	15	20.3%	0	0.0%	10	13.5%	2	2.7%	24	32.4%	1	1.4%	17	23.0%	5	6.8%	0	0.0%
30歳代	94	100.0%	32	34.0%	0	0.0%	3	3.2%	5	5.3%	33	35.1%	1	1.1%	11	11.7%	9	9.6%	0	0.0%
40歳代	117	100.0%	33	28.2%	0	0.0%	6	5.1%	9	7.7%	29	24.8%	0	0.0%	27	23.1%	13	11.1%	0	0.0%
50歳代	134	100.0%	28	20.9%	0	0.0%	11	8.2%	14	10.4%	30	22.4%	1	0.7%	36	26.9%	14	10.4%	0	0.0%
60歳代	153	100.0%	31	20.3%	1	0.7%	13	8.5%	25	16.3%	30	19.6%	2	1.3%	42	27.5%	6	3.9%	3	2.0%
70歳代	115	100.0%	17	14.8%	0	0.0%	6	5.2%	27	23.5%	10	8.7%	6	5.2%	35	30.4%	8	7.0%	6	5.2%
80歳以上	35	100.0%	10	28.6%	1	2.9%	0	0.0%	7	20.0%	2	5.7%	1	2.9%	8	22.9%	2	5.7%	4	11.4%

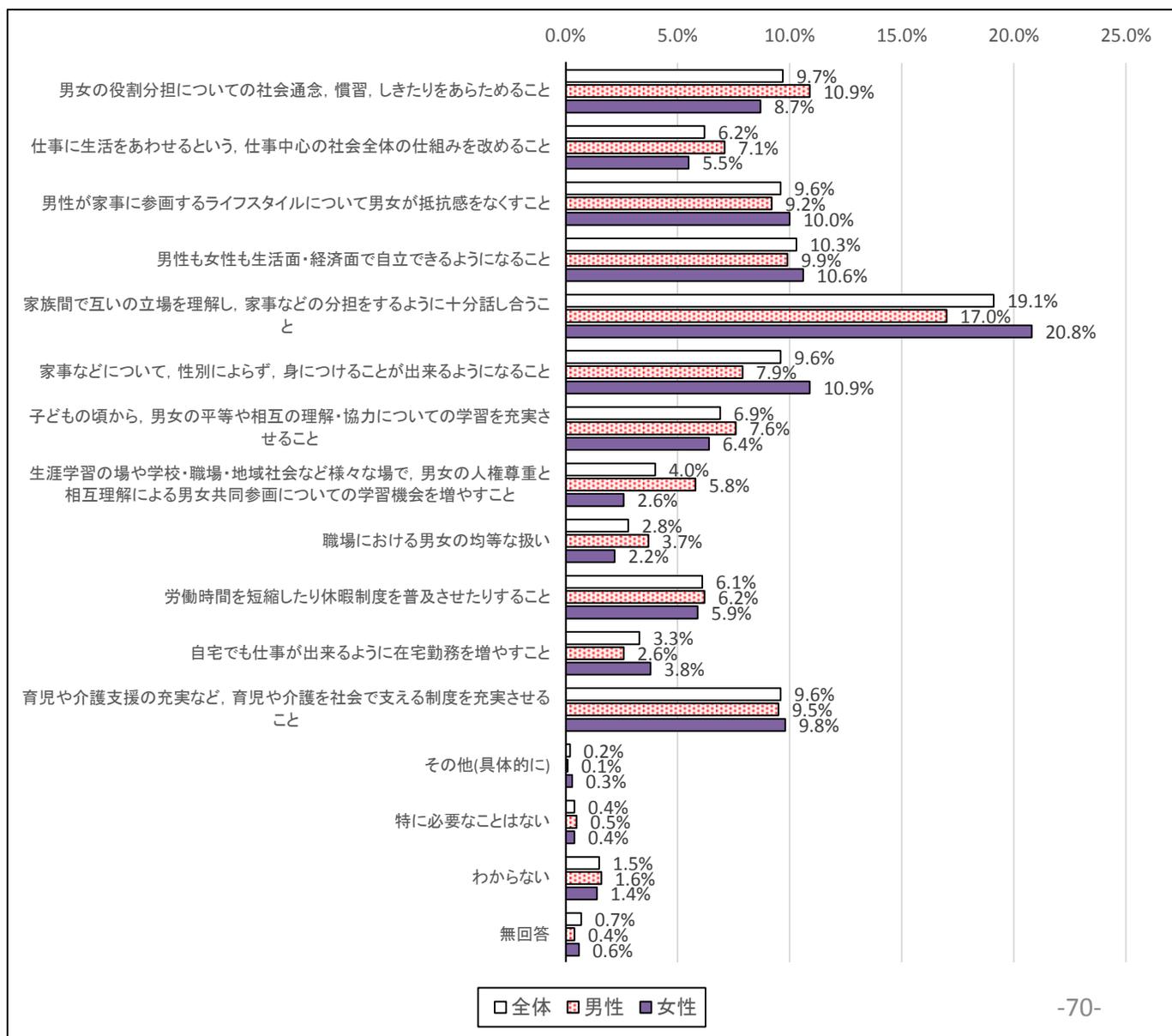
◆ 「家庭」、「地域活動」、「個人」(学習・趣味・付き合い等)の希望するかわり方について性別で見ると、全体では、「『家庭』と『地域活動』と『個人』をともに優先したい」(24.3%)、「『家庭』を優先したい」(22.8%)、「『家庭』と『個人』をともに優先したい」(21.5%)、「『家庭』と『地域活動』をともに優先したい」(12.5%)の順になっている。

◆ 男女別では、男女ともに「『家庭』と『地域活動』と『個人』をともに優先したい」が最も高い回答の割合となっていて、特に女性の割合は、男性より4.0ポイント上回っている。次いで「『家庭』を優先したい」、「『家庭』と『個人』をともに優先したい」の順になっている。また「『個人』を優先したい」と回答した男性の割合は8.9%で、女性より3.7ポイント上回っている。

◆ 年代別にみると、「『家庭』と『地域活動』と『個人』をともに優先したい」とした人の割合が最も高いのは70歳代(30.4%)、次いで60歳代(27.5%)となっている。一方「『家庭』を優先したい」とした人の割合が最も高いのは、30歳代(34.0%)、次いで80歳以上(28.6%)となっている。また「『家庭』と『個人』をともに優先したい」とした人の割合が最も高いのは、30歳代(35.1%)、次いで20歳代(32.4%)となっている。

【問24】 男性も女性も、家事・子育て・介護・地域活動・仕事等の取り組みに、自分の意志で積極的にかかわり、いきいきと暮らすことができるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の1～15の中から、特に必要と思われる事項の番号を3つ以内で選んでください。

合計	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりをあらためること		仕事に生活をあわせるとい、仕事中心の社会全体の仕組みを改めること		男性が家事に参画するライフスタイルについて男女が抵抗感をなくすこと		男性も女性も生活面・経済面で自立できるようになること		家族間で互いの立場を理解し、家事などの分担をするように十分話し合うこと		家事などについて、性別によらず、身につけることができるようになること		子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させること		生涯学習の場や学校・職場・地域社会など様々な場で、男女の人権尊重と相互理解による男女共同参画についての学習機会を増やすこと		職場における男女の均等な扱い		労働時間を短縮したり休暇制度を普及させたりすること		自宅でも仕事ができるように在宅勤務を増やすこと		育児や介護支援の充実など、育児や介護を社会で支える制度を充実させること		その他(具体的に)		特に必要なことはない		わからない		無回答			
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比				
全体	1,867	100.0%	181	9.7%	116	6.2%	180	9.6%	192	10.3%	356	19.1%	179	9.6%	128	6.9%	74	4.0%	53	2.8%	113	6.1%	61	3.3%	180	9.6%	4	0.2%	8	0.4%	28	1.5%	14	0.7%
男性	807	100.0%	88	10.9%	57	7.1%	74	9.2%	80	9.9%	137	17.0%	64	7.9%	61	7.6%	47	5.8%	30	3.7%	50	6.2%	21	2.6%	77	9.5%	1	0.1%	4	0.5%	13	1.6%	3	0.4%
女性	1,046	100.0%	91	8.7%	58	5.5%	105	10.0%	111	10.6%	218	20.8%	114	10.9%	67	6.4%	27	2.6%	23	2.2%	62	5.9%	40	3.8%	102	9.8%	3	0.3%	4	0.4%	15	1.4%	6	0.6%



◆ 男性も女性も、家事・子育て・介護・地域活動・仕事等の取り組みに、自分の意志で積極的にかかわり、いきいきと暮らすことができるようになるために必要なことについて性別でみると、全体では、「家族間で互いの立場を理解し、家事などの分担をするように十分話し合うこと」(19.1%)と回答した割合が最も高く、次いで「男性も女性も生活面・経済面で自立できるようになること」(10.3%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりをあらためること」(9.7%)という順となっている。

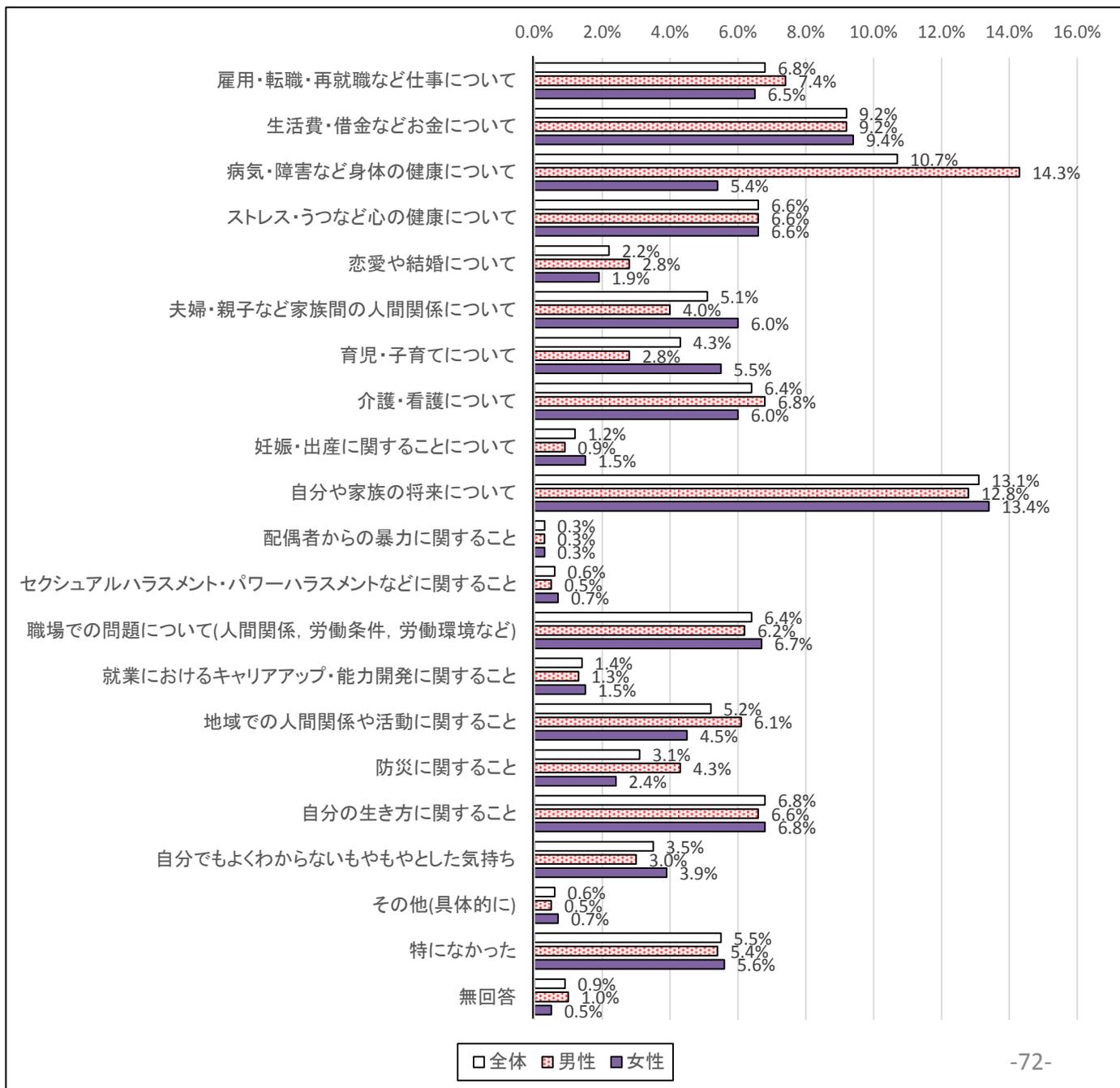
◆ 男女別では、女性は「家族間で互いの立場を理解し、家事などの分担をするように十分話し合うこと」と回答した割合が男性より3.8ポイント高く、その他に「家事などについて、性別によらず、身に付けることができるようになること」などでも高くなっている。一方、男性は、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりをあらためること」と回答した割合が女性より2.2ポイント高く、その他に「仕事に生活をあわせるという、仕事中心の社会全体の仕組みを改めること」などでも高くなっている。

### 《その他(主な意見)》

- ・ 子どもに、父母と一緒に家事をしている姿を見せ、女の子(女性)にも経済的に苦労しなくてもよいように、教養をつけてあげたい。
- ・ 法律上で時間を縮めても、時間外が増えるだけ。経営者の負担増。
- ・ 男・女できることと、できないことがあります。その中で平等をもうすこし考えるといいのでは。
- ・ 男性は仕事に集中、女性は家事・育児に集中すべき

【問25】 あなたはこの1年間の生活の中で、次のような不安や悩みがありましたか。  
 次の1～20の中からいくつでも選んでください。

	合計		雇用・転職・再就職など仕事について		生活費・借金などお金について		病気・障害など身体への健康について		ストレス・うつなど心の健康について		恋愛や結婚について		夫婦・親子など家族間の人間関係について		育児・子育てについて		介護・看護について		妊娠・出産に関することについて		自分や家族の将来について		配偶者からの暴力に関する事		セクシュアルハラスメント・パワーハラスメントなどに関する事		職場での問題について(人間関係, 労働条件, 労働環境など)		就業におけるキャリアアップ・能力開発に関する事		地域での人間関係や活動に関する事		防災に関する事		自分の生き方に関する事		自分でもよくわからないもやもやとした気持ち		その他(具体的に)		特になかった		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比		
全体	2,087	100.0%	142	6.8%	193	9.2%	224	10.7%	137	6.6%	46	2.2%	107	5.1%	89	4.3%	133	6.4%	26	1.2%	273	13.1%	7	0.3%	12	0.6%	134	6.4%	30	1.4%	109	5.2%	65	3.1%	142	6.8%	73	3.5%	13	0.6%	114	5.5%	18	0.9%
男性	870	100.0%	64	7.4%	80	9.2%	103	14.3%	57	6.6%	24	2.8%	35	4.0%	24	2.8%	59	6.8%	8	0.9%	111	12.8%	3	0.3%	4	0.5%	54	6.2%	11	1.3%	53	6.1%	37	4.3%	57	6.6%	26	3.0%	4	0.5%	47	5.4%	9	1.0%
女性	1,172	100.0%	76	6.5%	110	9.4%	113	5.4%	77	6.6%	22	1.9%	70	6.0%	65	5.5%	70	6.0%	18	1.5%	157	13.4%	3	0.3%	8	0.7%	78	6.7%	18	1.5%	53	4.5%	28	2.4%	80	6.8%	46	3.9%	8	0.7%	66	5.6%	6	0.5%



◆ この一年間の生活の中での不安や悩みについてみると、全体では、「自分や家族の将来について」(13.1%)が最も高く、次いで「病気・障害など身体の健康について」(10.7%),「生活費・借金などお金について」(9.2%)の順になっている。

◆ 男女別にみると、男性は「病気・障害など身体の健康について」(14.3%),女性は「自分や家族の将来について」(13.4%)が、最も高い回答の割合となっている。また女性では「夫婦・親子など家族間の人間関係について」(6.0%)が男性より2.0ポイント上回り、男性では、「病気・障害など身体の健康について」(14.3%)が女性より8.9ポイント上回っている。

## 《その他(主な意見)》

- ・ 集落の人々が、なかなか一つにまとまりにくいと思った
- ・ 妻がスポーツ施設の係の人の対応で、ここ数年悩んでいます。いまだに改善されておらず、残念です。市に電話しても、前に進んでいません。
- ・ 介護等の改正で負担が多くなること(個人負担)、年金の減少と、ヘルパーさんが週1回になること、1回は自己負担になるかも。
- ・ 息子、孫娘からの電話で心は晴れです。いずれ、息子の近くに行くので今荷物をすててます
- ・ 子供の結婚
- ・ 健康保険料等の負担増
- ・ 限られた少ない年金で、どう生活を充実・エンジョイ、親類縁者との交際や、健康でゆたかなありがたい生活を維持するか。地域に反社会的人類の集団が居る。ドロボー。しっかり戸締りしているのに、鍵を開けて留守と見たら生活空間をしらみつぶしに見回りに訪れ、いい物は知って盗んで行ってしまう。油断も隙もない。永い間のことである。警察に言っても、被害届も受理せず、ドロボーと言うより、盗賊と言う方があてはまると思う感じです。被害者としては、ガマンにガマンしています。
- ・ 子どもの将来(障害あり)・進学
- ・ 主人が病気したり入院したりで困った
- ・ 自分はストレスが多くて、いつもイライラな生活が多い。
- ・ 姉の死
- ・ 安倍内閣がこわい！ほんとにこわい！
- ・ 将来的に発生するかもしれない天災や人災に対する、一抹の不安はありますが、社会の良い面も見ながら、希望を持って生きるのが良いと思います。
- ・ 子供の事で
- ・ 生活に困るから泣いてがんばって来た。今はとても幸せ
- ・ 今色々活動して下さるが、今の子供達が結婚する様にしてほしい。結婚しないと、しっかりした人間は出来ない。人格はだめ。女の子は下手に出て、男を立てるような人間になってほしい。

《全員におたずねします。》

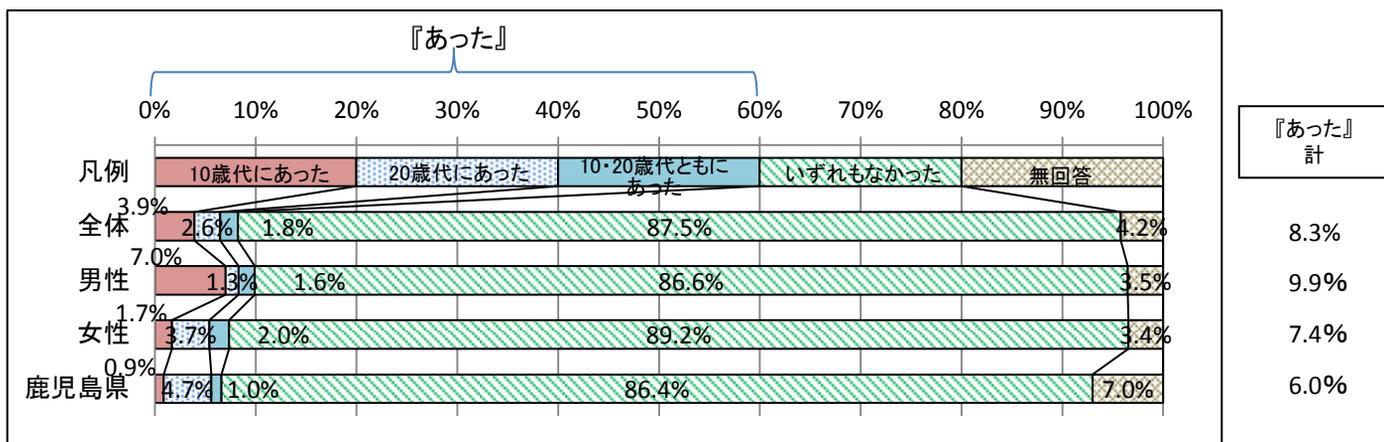
【問26】 あなたは、10歳代20歳代に、恋人や交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。次の①～③について、右欄の1～4の中からあてはまる番号を1つずつ選んでください。

① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

《性別件数：無回答 18件除く》

(平成28年度鹿児島県意識調査)

	合計		10歳代にあった		20歳代にあった		10・20歳代ともにあった		いずれもなかった		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	29	3.9%	19	2.6%	13	1.8%	646	87.5%	31	4.2%
男性	313	100.0%	22	7.0%	4	1.3%	5	1.6%	271	86.6%	11	3.5%
女性	407	100.0%	7	1.7%	15	3.7%	8	2.0%	363	89.2%	14	3.4%
鹿児島県	2,227	100.0%	21	0.9%	92	4.1%	23	1.0%	1,953	87.7%	138	6.2%

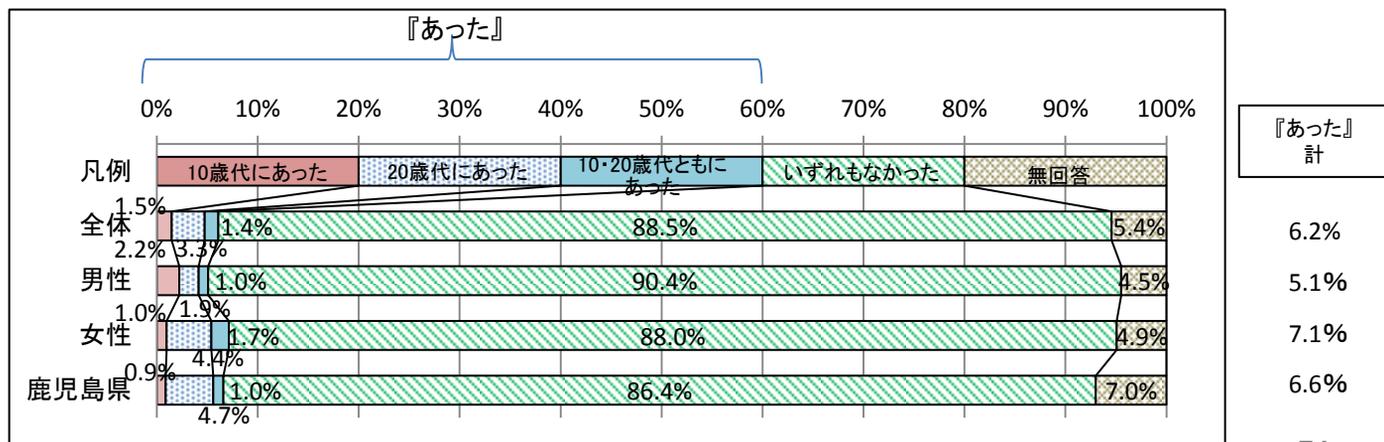


② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

《性別件数：無回答 18件除く》

(平成28年度鹿児島県意識調査)

	合計		10歳代にあった		20歳代にあった		10・20歳代ともにあった		いずれもなかった		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	11	1.5%	24	3.3%	10	1.4%	653	88.5%	40	5.4%
男性	313	100.0%	7	2.2%	6	1.9%	3	1.0%	283	90.4%	14	4.5%
女性	407	100.0%	4	1.0%	18	4.4%	7	1.7%	358	88.0%	20	4.9%
鹿児島県	2,227	100.0%	20	0.9%	105	4.7%	23	1.0%	1,924	86.4%	155	7.0%

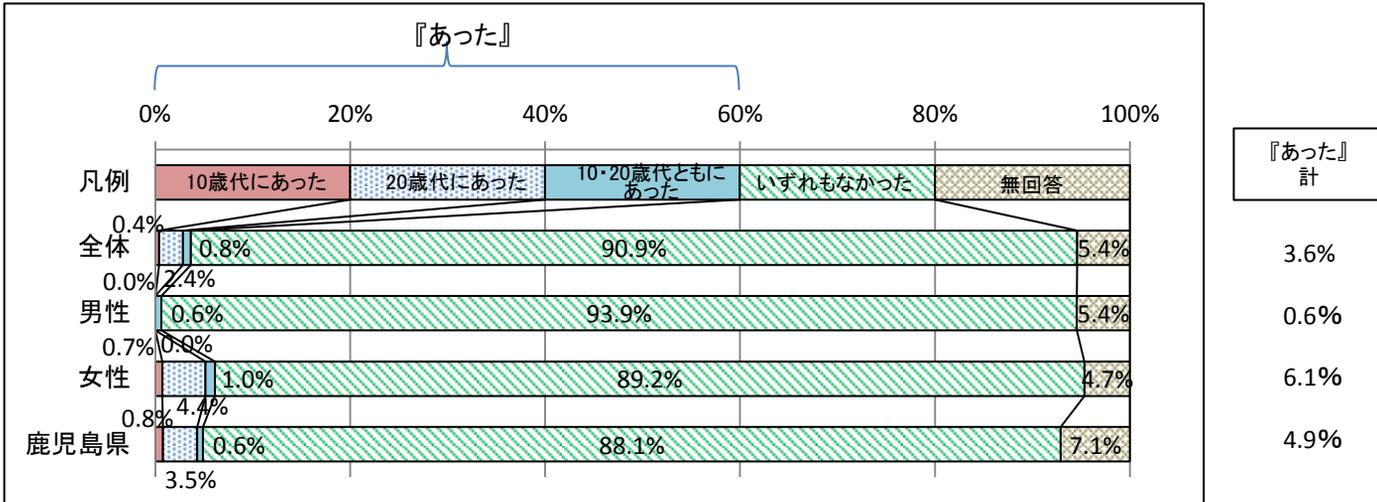


### ③ いやがっているのに性的な行為を強要された

《性別件数:無回答 18件除く》

(平成28年度鹿児島県意識調査)

	合計		10歳代にあった		20歳代にあった		10・20歳代とも あった		いずれもなかった		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	3	0.4%	18	2.4%	6	0.8%	671	90.9%	40	5.4%
男性	313	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%	294	93.9%	17	5.4%
女性	407	100.0%	3	0.7%	18	4.4%	4	1.0%	363	89.2%	19	4.7%
鹿児島県	2,227	100.0%	17	0.8%	77	3.5%	14	0.6%	1,961	88.1%	158	7.1%



◆ 10歳代又は20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験についてみると、全体では、「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「10・20歳代ともあった」を合わせた『あった』と回答した人の割合は、「身体に対する暴行」(8.3%)が最も高く、次いで「精神的な嫌がらせ・脅迫」(6.2%)、「性的な行為の強要」(3.6%)となっている。また、「身体に対する暴行」は「10歳代にあった」、「精神的な嫌がらせ・脅迫」と「性的な行為の強要」は「20歳代にあった」と回答した人の割合が高くなっている。

◆ 男女別では、「身体に対する暴行」(男性:9.9%, 女性:7.4%)は、男性の回答割合が、女性より2.5ポイント高くなっている。一方、「精神的な嫌がらせ・脅迫」(男性:5.1%, 女性:7.1%)では2.0ポイント、「性的な行為の強要」(男性:0.6%, 女性:6.1%)では5.5ポイント、女性の回答割合が男性より高くなっている。

◆ 鹿児島県調査と比較すると、「身体に対する暴行」は2.3ポイント鹿児島県調査より高くなっている。一方、「精神的な嫌がらせ・脅迫」は0.4ポイント、「性的な行為の強要」は1.3ポイント鹿児島県調査より低くなっている。

《これまで結婚したことのある方に、おたずねします。》

ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。

【問27】あなたは、これまでに配偶者から次のようなことをされたことがありますか。

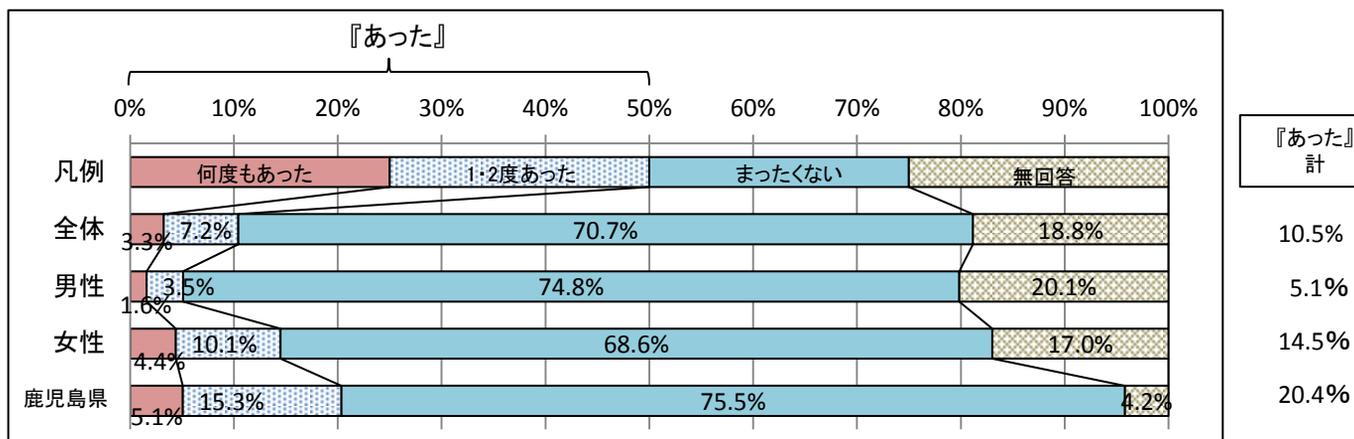
次の①～④のそれぞれについて、右欄の1～3の中からあてはまる番号を1つずつ選んでください。

① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

《性別件数：無回答 18件除く》

(平成28年度鹿児島県意識調査)

	合計		何度もあった		1・2度あった		まったくない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	24	3.3%	53	7.2%	522	70.7%	139	18.8%
男性	313	100.0%	5	1.6%	11	3.5%	234	74.8%	63	20.1%
女性	407	100.0%	18	4.4%	41	10.1%	279	68.6%	69	17.0%
鹿児島県	1,821	100.0%	92	5.1%	278	15.3%	1,375	75.5%	76	4.2%

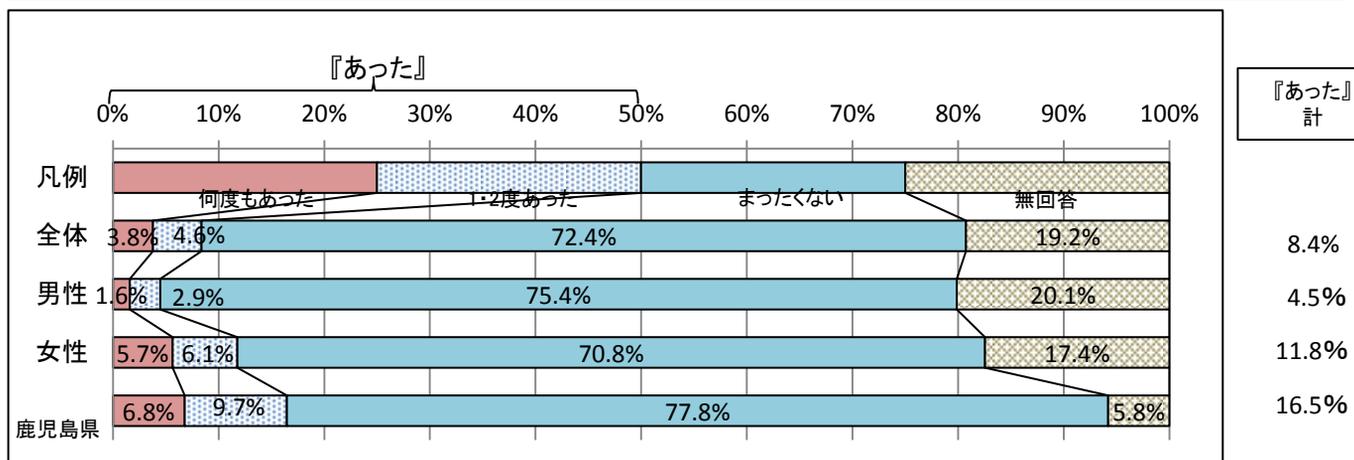


② 人格を否定するような暴言、交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

《性別件数：無回答 18件除く》

(平成28年度鹿児島県意識調査)

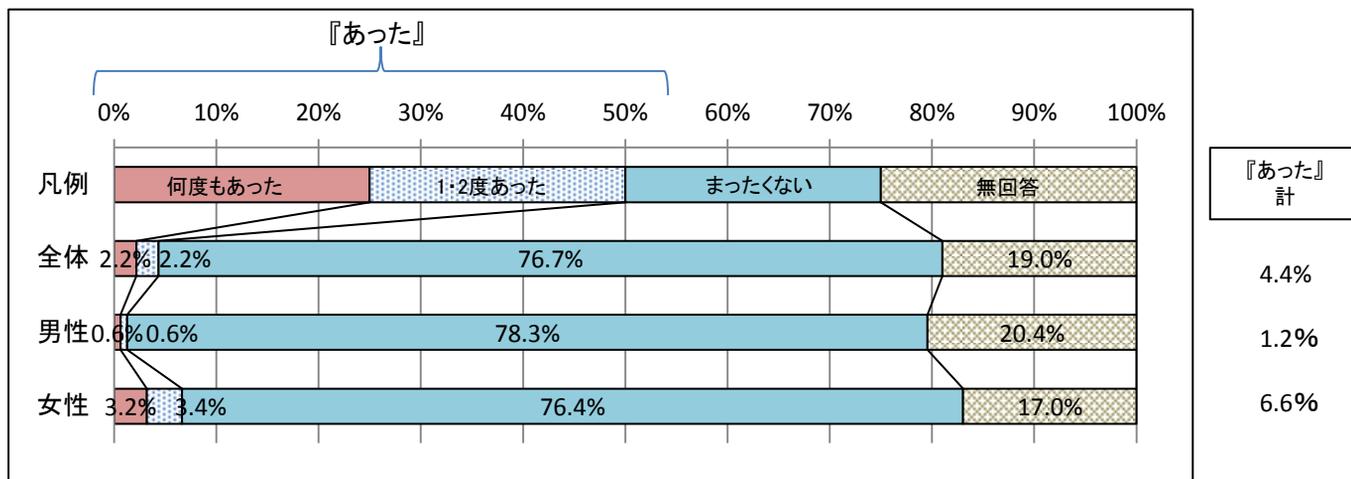
	合計		何どもあった		1・2度あった		まったくない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	28	3.8%	34	4.6%	534	72.4%	142	19.2%
男性	313	100.0%	5	1.6%	9	2.9%	236	75.4%	63	20.1%
女性	407	100.0%	23	5.7%	25	6.1%	288	70.8%	71	17.4%
鹿児島県	1,821	100.0%	124	6.8%	176	9.7%	1,416	77.8%	105	5.8%



### ③ 家庭に生活費を入れないなどの経済的な暴力を受けた

《性別件数:無回答 18件除く》

	合計		何度もあった		1・2度あった		まったくない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	16	2.2%	16	2.2%	566	76.7%	140	19.0%
男性	313	100.0%	2	0.6%	2	0.6%	245	78.3%	64	20.4%
女性	407	100.0%	13	3.2%	14	3.4%	311	76.4%	69	17.0%

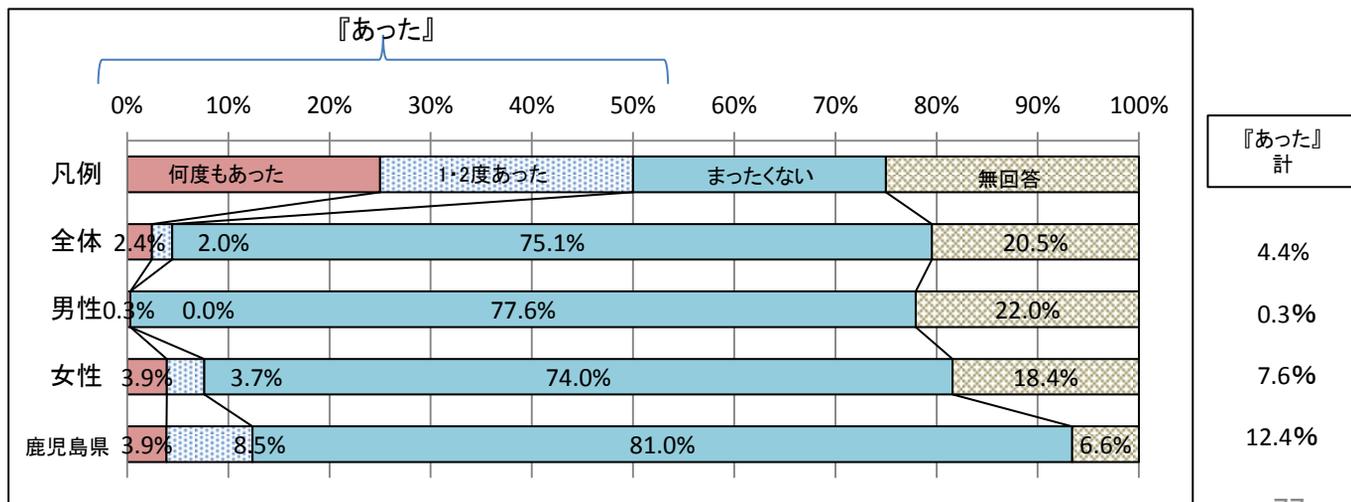


### ④ 嫌がっているのに性的な行為を強要された

《性別件数:無回答 18件除く》

(平成28年度鹿児島県意識調査)

	合計		何度もあった		1・2度あった		まったくない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	738	100.0%	18	2.4%	15	2.0%	554	75.1%	151	20.5%
男性	313	100.0%	1	0.3%	0	0.0%	243	77.6%	69	22.0%
女性	407	100.0%	16	3.9%	15	3.7%	301	74.0%	75	18.4%
鹿児島県	1,821	100.0%	71	3.9%	154	8.5%	1,475	81.0%	121	6.6%



◆ これまでに結婚(事実婚含む)したことがある人を対象に、配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験について聞いたところ、性別で見ると、全体では「何度もあった」、「1・2度あった」を合わせた『あった』と回答した人の割合は、「身体に対する暴行」(10.5%)が最も高く、次いで「精神的な嫌がらせ・脅迫」(8.4%)、「経済的な暴力」(4.4%)、「性的な行為の強要」(4.4%)となっている。

◆ 男女別では、「身体に対する暴行」(男性:5.1%, 女性:14.5%)、「精神的な嫌がらせ・脅迫」(男性:4.5%, 女性:11.8%)、「経済的な暴力」(男性:1.2%, 女性:6.6%)、「性的な行為の強要」(男性:0.3%, 女性:7.6%)となっており、いずれの暴力でも1割前後の女性が『あった』と回答しており、男性より高い割合となっている。特に、「身体に対する暴行」では9.4ポイント、「精神的な嫌がらせ・脅迫」と「性的な行為の強要」では7.3ポイント、女性の回答割合が男性より高くなっている。

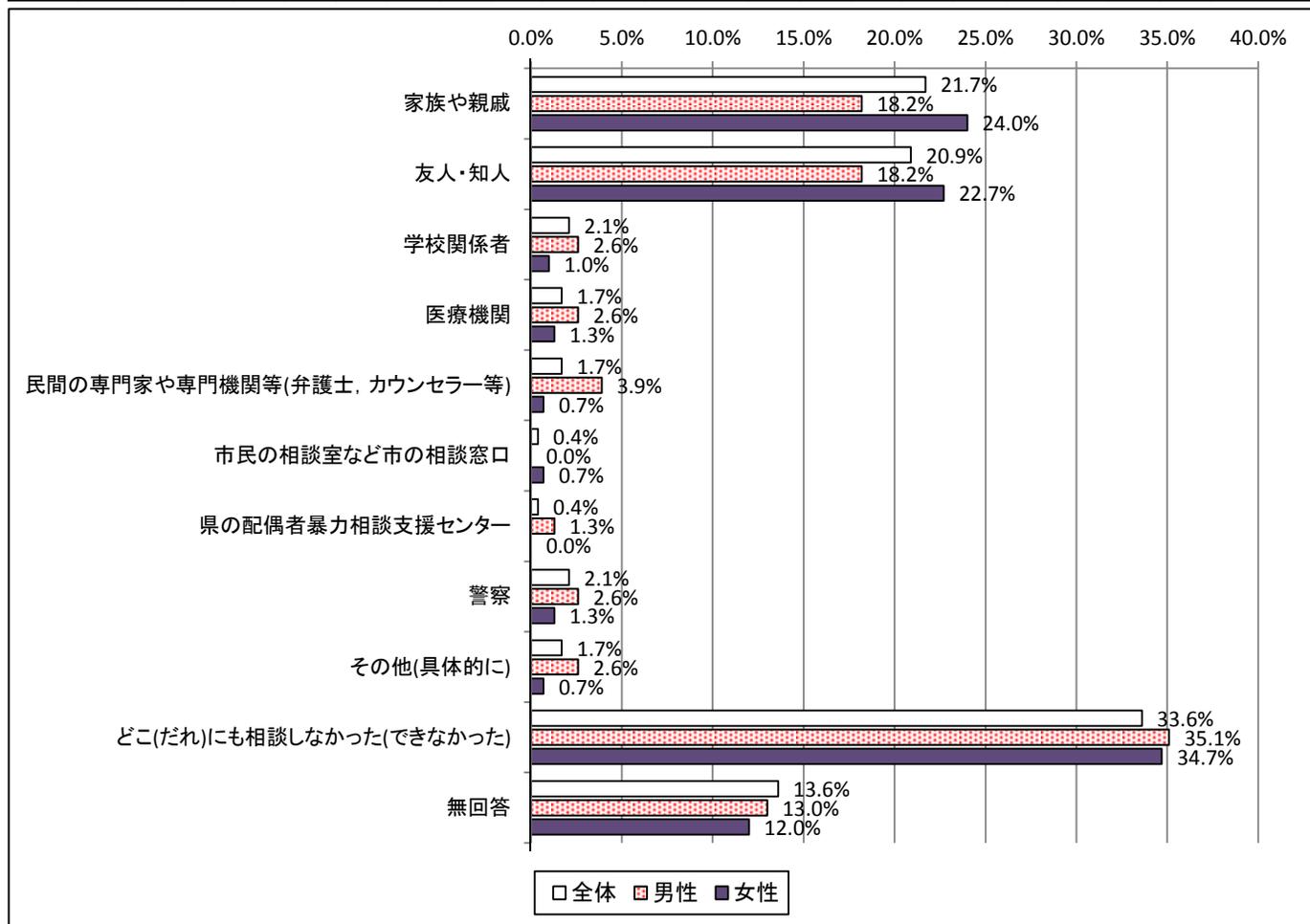
◆ 鹿児島県調査と比較すると、「身体に対する暴行」は9.9ポイント、「精神的な嫌がらせ・脅迫」は8.1ポイント、「性的な行為の強要」は8.0ポイント鹿児島県調査より低くなっている。

《問26で1～3, 問27で1または2を選んだ方におたずねします。》

【問28】 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。

次の1～10の中からいくつでも選んでください。

	合計		家族や親戚		友人・知人		学校関係者		医療機関		民間の専門家や専門機関等(弁護士、カウンセラー等)		市民の相談室など市の相談窓口		県の配偶者暴力相談支援センター		警察		その他(具体的に)		どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	235	100.0%	51	21.7%	49	20.9%	5	2.1%	4	1.7%	4	1.7%	1	0.4%	1	0.4%	5	2.1%	4	1.7%	79	33.6%	32	13.6%
男性	77	100.0%	14	18.2%	14	18.2%	2	2.6%	2	2.6%	3	3.9%	0	0.0%	1	1.3%	2	2.6%	2	2.6%	27	35.1%	10	13.0%
女性	150	100.0%	36	24.0%	34	22.7%	3	1.0%	0	1.3%	1	0.7%	1	0.7%	0	0.0%	2	1.3%	1	0.7%	52	34.7%	18	12.0%



◆ 暴力や嫌がらせ等についての相談先についてみると、全体では、「無回答」(73.7%)と回答した人の割合が最も高く、次いで「友人、知人」(17.4%)、「どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)」(10.2%)、「家族や親戚」(6.6%)の順となっている。

◆ 男女別では、女性は「家族や親戚」と回答した割合が男性より4.1ポイント高く、男性は「友人、知人」と回答した割合で10.0ポイント、「どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)」と回答した割合で、女性より3.8ポイント高くなっている。また、男性では「市民の相談室など市の相談窓口」、女性では「県の配偶者暴力相談支援センター」に相談した人はいなかった。

### 《その他(主な意見)》

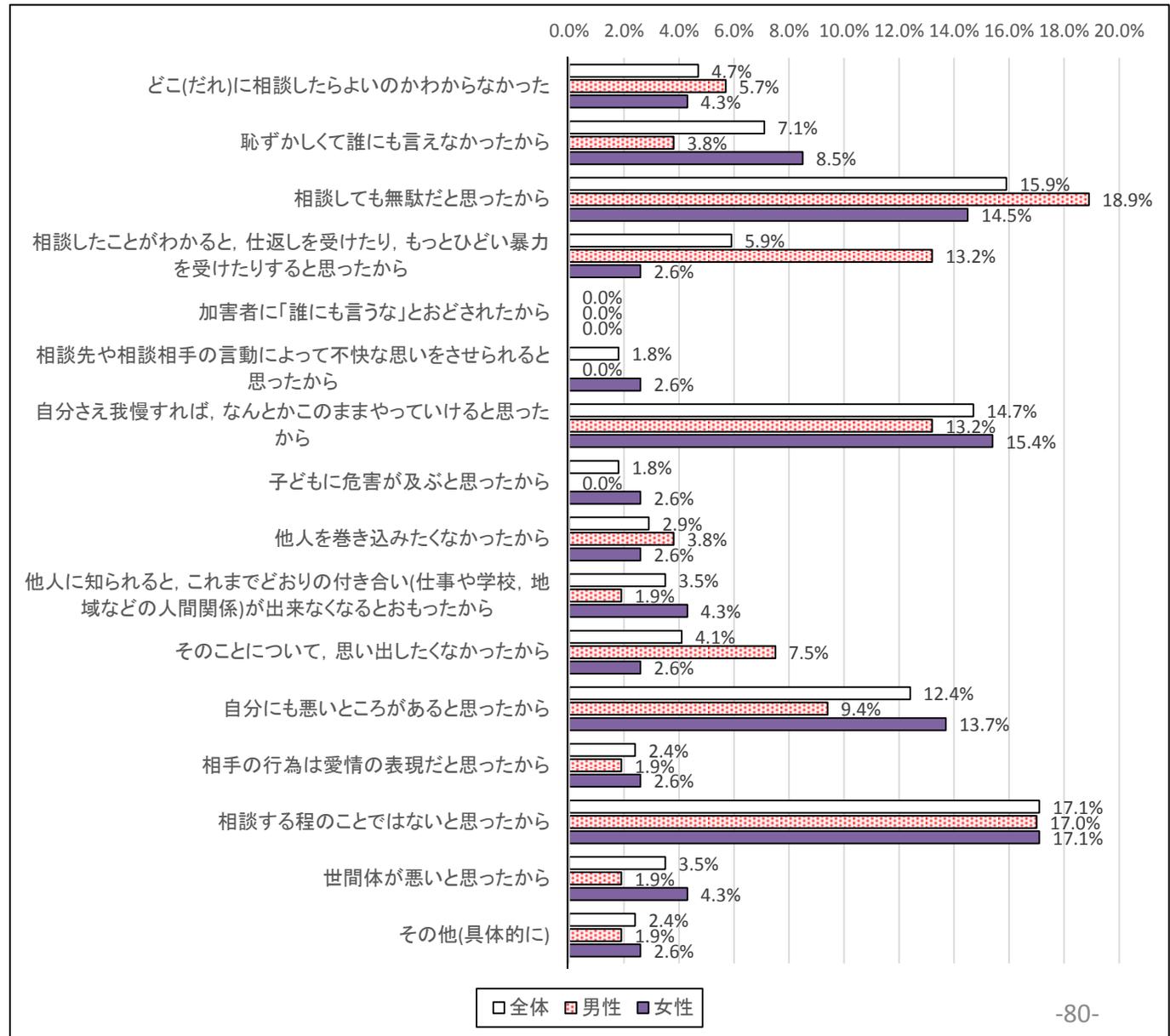
- ・ 相談するほどではなかった
- ・ 単なる夫婦喧嘩と考えている

《問28で10を選ばれた方におたずねします。》

【問29】 どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)のはなぜですか。

次の1~16の中からいくつでも選んでください。

	合計		どこ(だれ)に相談したらよいかわからなかった		恥ずかしくて誰にも言えなかったから		相談しても無駄だと思ったから		相談したことがわかって、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから		加害者に「誰にも言うな」とおどされたから		相談先や相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから		自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから		子どもに危害が及ぶと思ったから		他人を巻き込みたくなかったから		他人に知られると、これまでどおりの付き合い(仕事や学校、地域などの人間関係)が出来なくなるとおもったから		そのことについて、思い出したくなかったから		自分にも悪いところがあると思ったから		相手の行為は愛情の表現だと思ったから		相談する程のことではないと思ったから		世間体が悪いと思ったから		その他(具体的に)	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比		
全体	170	100.0%	8	4.7%	127	75.3%	27	15.9%	10	5.9%	0	0.0%	31	18.2%	25	14.7%	3	1.8%	52	30.6%	63	37.1%	74	43.5%	21	12.4%	4	2.4%	29	17.1%	6	3.5%	4	2.4%
男性	53	100.0%	3	5.7%	23	43.4%	10	18.9%	7	13.2%	0	0.0%	0	0.0%	7	13.2%	0	0.0%	23	43.4%	11	20.8%	47	88.5%	9	17.0%	1	1.9%	9	17.0%	1	1.9%	1	1.9%
女性	117	100.0%	5	4.3%	104	88.5%	17	14.5%	3	2.6%	0	0.0%	31	26.5%	18	15.4%	3	2.6%	29	24.8%	52	44.4%	63	53.8%	12	10.3%	3	2.6%	20	17.1%	5	4.3%	3	2.6%



◆ 暴力や嫌がらせ等を受けたとき相談しなかった(できなかった)理由についてみると、全体では「相談するほどのことではないと思ったから」(17.1%)と回答した割合が最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」(15.9%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっているとあったから」(14.7%)、「自分にも悪いところがあったから」(12.4%)、相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりするとおもったから」(5.9%)の順となっている。

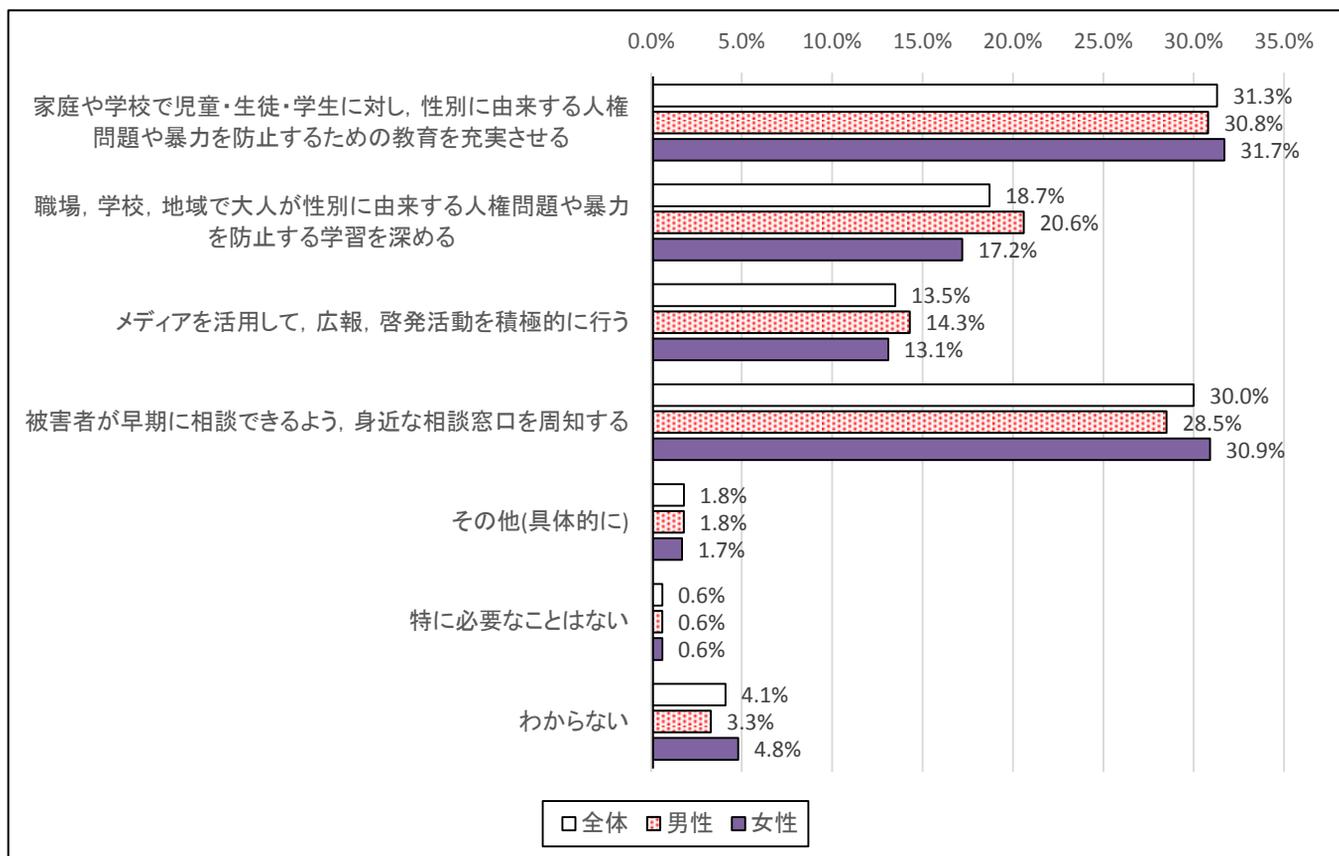
◆ 男女別でみると、女性は「相談するほどのことではないと思ったから」(17.1%)が最も高く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっているとあったから」、「相談しても無駄だと思ったから」、「自分にも悪いところがあったから」の順になっている。一方、男性は、「相談しても無駄だと思ったから」(18.9%)が最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっているとあったから」の順となっている。

#### 《その他(主な意見)》

- ・ 身内に相談すると心配させてしまう。
- ・ 家の恥になると思って
- ・ 相手が謝罪したから
- ・ 問27に深く考えずチェックした。取り立てて言うことは無い

【問30】あなたは、男女間における暴力を防止するためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。次の1～7の中からいくつでも選んでください。

	合計		家庭や学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を充実させる		職場、学校、地域で大人が性別に由来する人権問題や暴力を防止する学習を深める		メディアを活用して、広報、啓発活動を積極的に行う		被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を周知する		その他(具体的に)		特に必要なことはない		わからない	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	1,517	100.0%	475	31.3%	284	18.7%	205	13.5%	455	30.0%	27	1.8%	9	0.6%	62	4.1%
男性	659	100.0%	203	30.8%	136	20.6%	94	14.3%	188	28.5%	12	1.8%	4	0.6%	22	3.3%
女性	826	100.0%	262	31.7%	142	17.2%	108	13.1%	255	30.9%	14	1.7%	5	0.6%	40	4.8%



◆ 男女間における暴力を防止するために必要なことについて性別で見ると、全体では「家庭や学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を充実させる」(31.3%)と回答した割合が最も高く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を周知する」(30.0%)、「職場、学校、地域で大人が性別に由来する人権問題や暴力を防止するための学習を深める」(18.7%)、「メディアを活用して、広報、啓発活動を積極的に行う」(13.5%)の順となっている。

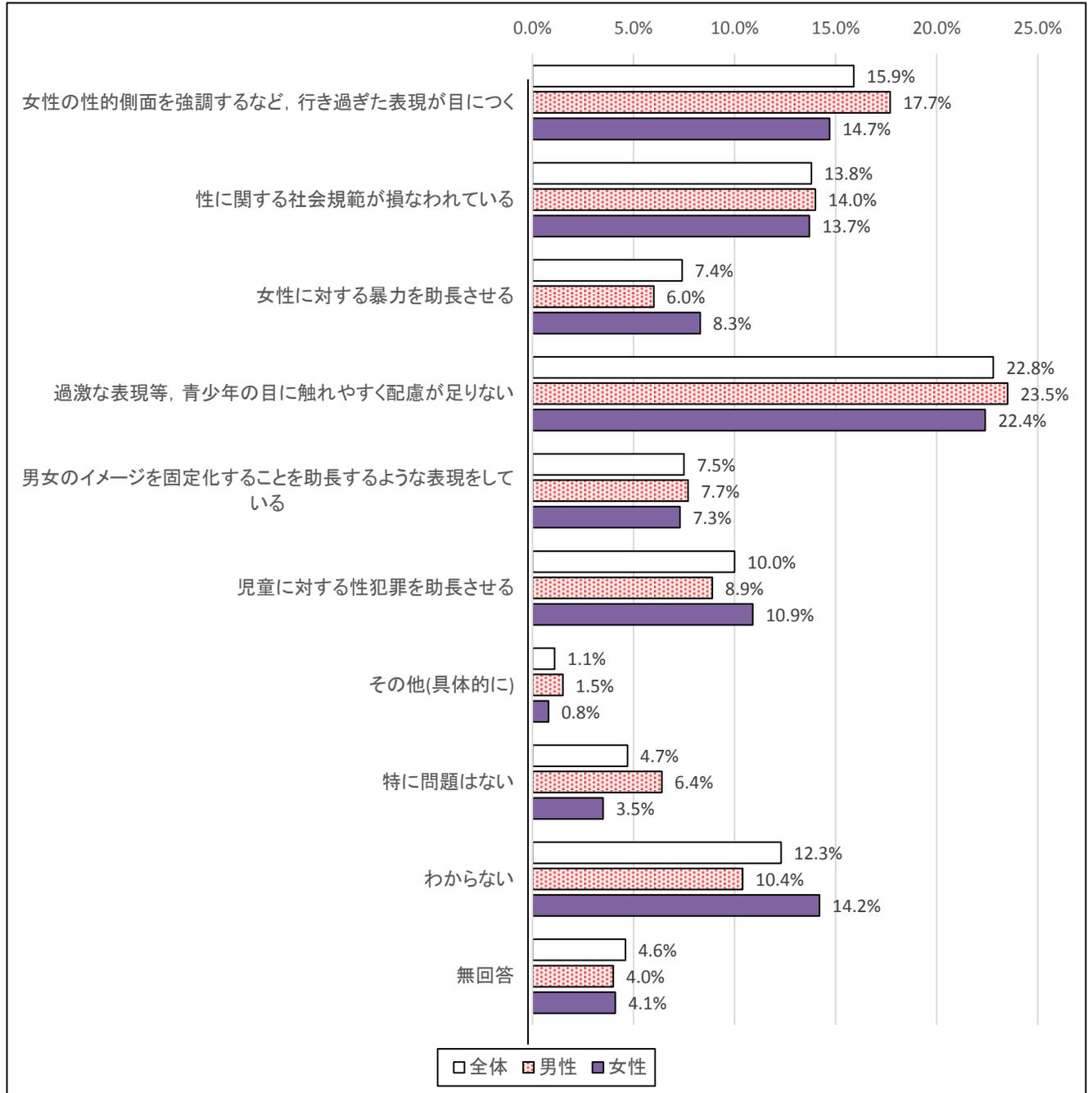
◆ 男女別で見ると、女性は「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を周知する」と回答した割合が男性より2.4ポイント高くなっている。一方、男性は「職場、学校、地域で大人が性別に由来する人権問題や暴力を防止するための学習を深める」と回答した割合が女性より3.4ポイント高くなっている。

## 《その他(主な意見)》

- ・ 自分の意見がしっかり言える様に、自信を持つこと。嫌がらせ等日常のお付き合いが大事と思う。
- ・ 人を育てる。他の事で防げることではない。1. 2. 3. 4で？質問がナンセンス！
- ・ アドバイス, 指導者のレベルアップ
- ・ 警察への通報があった時は、警察が親身になって対応していただく。
- ・ 近くても、かえって人の目が気になり相談に行けない。鹿児島市内の施設を利用しての相談が好ましい。
- ・ 法令順守の教育
- ・ 家庭で教える事が大事だと思う
- ・ 家族を大事に、愛情深く接する。自他を大切にする。
- ・ 言葉の暴力なくする
- ・ 経験者の生の声を聞く機会。思いやりの心が強ければこのような事は起こらないのにと常々思います。
- ・ 司法の厳罰化
- ・ 暴力的な人の原因と対策を考える
- ・ 就業時間の短縮や低賃金の解消など、社会におけるストレス源の軽減
- ・ 教育に関する人の再教育が必要, 事なかれ主義
- ・ 暴力は犯罪なので、警察が事件として扱ってくれるようにする。
- ・ 性教育をしっかりと伝えて、責任感を深める
- ・ 相談をした人間が、その後プライバシーの侵害を受けたり、生活の妨害を受けたりしない様な対策を行った方が良い。
- ・ 自分も勇気を出して相談することが大切である。
- ・ 親が子供に暴力をふるわない(無意味な)
- ・ いつでも身近な人に相談できる環境や雰囲気作りを常に意識する。(話し出しやすい雰囲気作り)
- ・ 正義感
- ・ 診断書を取り、早期に事件化できることを広めるべき

【問31】 テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどのメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように考えますか。次の1～9の中からいくつでも選んでください。

	合計		女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく		性に関する社会規範が損なわれている		女性に対する暴力を助長させる		過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない		男女のイメージを固定化することを助長するような表現をしている		児童に対する性犯罪を助長させる		その他(具体的に)		特に問題はない		わからない		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
全体	1,306	100.0%	208	15.9%	180	13.8%	96	7.4%	298	22.8%	98	7.5%	130	10.0%	14	1.1%	61	4.7%	161	12.3%	60	4.6%
男性	549	100.0%	97	17.7%	77	14.0%	33	6.0%	129	23.5%	42	7.7%	49	8.9%	8	1.5%	35	6.4%	57	10.4%	22	4.0%
女性	723	100.0%	106	14.7%	99	13.7%	60	8.3%	162	22.4%	53	7.3%	79	10.9%	6	0.8%	25	3.5%	103	14.2%	30	4.1%



◆ メディアにおける性・暴力表現についての意識について性別でみると、「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」(22.8%)と回答した割合が最も高く、次いで「女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」(15.9%)、「性に関する社会規範が損なわれている」(13.8%)、「わからない」(12.3%)、「児童に対する性犯罪を助長させる」(10.0%)、「男女のイメージを固定化することを助長するような表現をしている」(7.5%)、「女性に対する暴力を助長させる」(7.4%)の順となっている。

◆ 男女別でみると、女性は「わからない」と回答した割合が男性より3.8ポイント高く、その他に「女性に対する暴力を助長させる」、「児童に対する性犯罪を助長させる」などでも高くなっている。一方、男性は「女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」と回答した割合が女性より3.0ポイント高く、その他に「特に問題はない」、「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」などで女性より高くなっている。

## 《その他(主な意見)》

- ・ 女性側にも問題あり?(服装・表現等)
- ・ この質問に回答して何が出来るのですか?
- ・ 何でもすぐにセクハラに結びつける風潮があるように感じる
- ・ スマホ等で簡単に見ることができる
- ・ 性に関して多様であることへの真摯な表現が求められる
- ・ ニューハーフのタレントが多く、テレビ等出演が多すぎる
- ・ 善悪を判断する力を最低限身につける事が出来れば、有害にはならないと思います。
- ・ ネットやSNSの個人の発信(変態的な)
- ・ 性教育の充実が必要、メディアのバカげた内容放映
- ・ 時代の流れでしょう。どこかの時期でセーブがかかれば良かったのかもしれませんが、人間は欲で生きている以上、前進しているのでしょうね。性もその中の一つと考えます。
- ・ 一つの事に対し、全てのメディアが取り上げるので、何回も目にふれる。あきた頃別な事に同じように取り扱う。異なる報道があるのでは。
- ・ 生活規範の建前が多過ぎる
- ・ 1~6の項目は、テレビや映画で放映すべきでは無い(断じて)

## IV 自由意見

【問32】「男女共同参画社会」の実現にむけて、ご意見、ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、何でも結構ですので、自由に記入してください。

寄せられた自由意見の件数は99件であり、主な意見・要望を掲載した。

また、その内容は「男女共同参画に対する意識について」(21件)「男女共同参画社会の形成について」(24件)、「就業について」(8件)、「男女共同参画に関する教育について」(5件)、「男女共同参画に向けた啓発活動について」(3件)、「子育てについて」(1件)、「男女共同参画に向けた行政の取り組みについて」(5件)、「家庭生活について」(2件)、「その他」(30件)となっている

### 〔男女共同参画に対する意識について(21件)〕

- 男女の人権は、等しく尊重されるべきだとは思いますが、男女のなすべきことが違う面も社会ではあると思いますので、そこを含めて考えていくことが大事だと思います。(女性, 20歳代)
- 男女平等が叫ばれています。男も女も命は皆かけがえのないもので、差別があってはいけないと思います。差別はいけないという前提で、男と女は違うと感じています。男の役割、女の役割、男らしさ、女らしさはそれぞれ異なり、力強さや判断力は男の方で、細やかな気配り、優しさはやはり女の方が美しいと思います。そういう男らしさ、女らしさを大切に、ともに支え合い命を大切に平和な世界が男女共同参画社会だと感じます。(女性, 50歳代)
- 年配の方、特に男性の若い女性をバカにしたような言動によって、傷付けられることが多いです。(女性, 20歳代)
- 当てはまらないかもしれませんが、男性が女性より積極的でないように思われます。リタイアした人にもこのような傾向があるように思われます。(男性, 70歳代)
- 少し保守的な考えが少しちらっています。が、男性と女性しかいないこの世、皆理解でき、上手く生きていける事を願っていると感じます。正しく生きる事と思います。弱い人物を守る事を目指してほしいです。(女性, 60歳代)
- 社会が女性の地位向上を受け入れる環境が整いつつあると思われるが、女性が腰を上げることを望まない。女性自身の決起と、それを受け入れて社会全体が向上する男性の内面的な成長が必要と思う。女性がリーダーになる事によって、苦勞が待ち受けていることの意識が潜在的にあると思う。(男性, 60歳代)
- 男性も女性も、「共同参画社会」になる様に、意識改革することがまずは必要である。その為には、何が必要であるかを考える機会が多くなければ、変わらないのでは!! (男性, 60歳代)
- 小学校のPTA会長が女性になれば、地域もだんだん意識が変わっていくのでは。(男性, 50歳代)
- (1)まず、家庭において共同参画の認識を持たせること。(2)いわゆる社会(地域・職場)において認識を徹底させること。が必要だと思います。(男性, 70歳代)

- 個々の意識改革(男性, 60歳代)
- 表面では男女平等を言われますが, 実際は男性の方が, どこか自分の方が上と感ずています。長年, ずういう時代が續いたのだから仕方がないのでしょう。私は男の子が2人いたのぞ, 幼い時から家事全般をさせてきました, 成人になり結婚すると, やはり家事より仕事となつています。嫁になるべく家事をさせるようには, 言いつけています。市役所内でアルバイトをした時も, 女性職員がお茶を入れるのを, 課長・係長は席で座つて待つていたのが, これが現状だと感ずました。最後の洗い物も, 当たり前のように女性職員がしてます。まずはご自分達からでは。(女性, 50歳代)
- 昔より増えているとは思いますが, それでも男性主導の会社, 組織を多く感ずます。田舎程, 女性の社会進出がし辛い仕組みを感じます。(風潮・思い・想い等)時々はメディア等で, 主婦業の偉大さを紹介されていますが, それでも一般的な評価は未だとても低いのだろうな。と感ずる事があります。(女性, 30歳代)
- 60歳以上の方に「女なんだから」とかいうような考え方の方が多いうように思います。自分より立場の弱い人に対する言動に違和感を感じること多いです。(男女問わず)(女性, 40歳代)
- 自己中心的考えが多い中, 思いやりのある気持ちを幼少の時より身につけるべき。老若男女, 共に一緒に参加できるような行事等を, 幼少期より増やす事も大事だと思う。(男性, 60歳代)
- 良いと思う(男性, 70歳代)
- お互いに理解できる場を持ち, 子どもの時から皆で守る努力をする。(男性, 60歳代)
- 男性と女性は「平等」ではなく「対等」でなければならないと思います。近年言われている男女平等は, 女性が男性の立場になろうとしているだけのように思えます。男性には男性の良さ, 女性には女性の良さがあり, その良さを互いに尊重し, のびのびと発揮でき, いたらない部分は互いにおぎなつてゆくのが, 男女共同参画社会ではないのかなあと感ずています。(男性, 40歳代)
- まだまだ共同参画社会が浸透していないのが, 現実です。(男性, 50歳代)
- 男女にかかわらず, まず相手を認めること。(男性, 40歳代)
- 年齢・性別問わず「一人の人間」として皆が接する事が重要。「男だから」「女だから」と感ずているうちは, 変わらないと思う。(男性, 30歳代)
- 男女平等の世の中と言われているが, 実際はまだまだ男尊女卑の風潮は, 特に鹿児島ではあるように感ずます。(男性, 40歳代)

#### [男女共同参画社会の形成について(24件)]

- 女性が仕事, 介護, 育児, 家事をするのが当たり前のような社会になつている。時代は変わつているのに考えは変わらず。増税ばかりで結局家計に余裕がなくなり, 悪い循環。今のままじゃムリ!何も変わらない!政治家の金食い虫止めてください。14万で生活している人の気持ちなんてわからないでしょ?(女性, 30歳代)

- 男性, 女性がそれぞれ得意なことで活躍できればいいと思う。(女性, 30歳代)
- 女性は現実的に生きていると思うので, 個性や能力を発揮出来る社会になれば世間も変わると思います。(女性, 60歳代)
- 地域社会の環境整備を, 職場や行政(学校含む)等で, 本気で取り組むことだと思えます。(男性, 50歳代)
- 女性初の東京都知事が誕生したが。このように女性が政治の場に加わり, 様々な議論を重ねることで, 今後さらに「男女共同参画社会」へ向けた取り組みがなされていくことを期待したい。女性の社会的地位が向上するのは良いことであるが, 逆に却って, 男性の社会的地位が下がってしまうことがあってはならないと思う。男女ともに健康で健やかな社会生活を送ることができればよいと思う。(男性, 20歳代)
- 子育て環境や将来の年金が充実すれば, 女性の社会進出が改善されるのではと思えます。(女性, 60歳代)
- 育児や介護支援の充実, また, 労働時間, 休暇の普及が女性の社会進出をより充実させると思う。(男性, 20歳代)
- 社会・家庭・地域活動・教育等に関して, 男女が平等に意見を出し合って, 話し合いを重ねながら, 改善等されていくのは大変良い事だと思えます。1人ひとりが, 考え方の違いを持って, 協議されるのが大事なので, 色んな地域やグループの力関係の差で左右されない安心出来る生活環境や, 伝統行事等に対する保存会の役割の再認識と, 新しい活動等の位置付けは, 理解出来る様に, こまめに伝えられたほうが良いと思えます。(女性, 40歳代)
- 子どもに障害があり, 母親が生活面をフォロー, 自身は経済面で家庭を成り立たせている。女性が活躍できる社会を!!と言うが, 出産から育児まで障害のある子を育ててきた妻が社会に出て経済的な面まで, フォローしないとイケないとなると・・・不平等ではあるが, その機会は失われてしまうのはいたしかたないと思う。そういった不平等な面もしっかり把握してもらいたい。実際, 配偶者控除に関する改正(悪?)等, 男女共同参画社会に目を奪われすぎて, 環境的にそうせざる得ない人々に対する解答が今一つ見えてないのが心配である。(男性, 40歳代)
- 小さな子供連れでも気兼ねなく参加できる活動がもっとあれば, 若い親が参加してくれて, 色々な交流がうまれてくるのではないかと思う。(女性, 50歳代)
- 必要ない。女性が社会へ進出するようになってから日本はゆがみ始めた。昔のように男性は外へ女性は家庭におさまるべきである。(女性, 40歳代)
- 男女が自分の思いを話して議論又は討論して納得したら良いと思えます。(男性, 70歳代)
- 男は女になれないし, 女も男にはなれない。それぞれの立場や特質をお互いに補い合う様な関係が作れたらよいと思う。(男性, 50歳代)
- 子どものころから, 男女の互いの良さを認め合い, 互いを大切にしよう学習や雰囲気作りがとても大切である。「生きづらさ」を感じることの多い世の中で, 社会全体の課題として実現に向けて自分ができることに取り組んでいきたい。(男性, 40歳代)

- 女性が安心して子どもを生んで生活できる日置市にしてほしい。育児休暇制度の充実、復帰後の支援など充実させることで人口増加にもつながらないか？「男女共同参画の町 日置市」になることを、心から願っています。(男性, 40歳代)
- 男女どちらでも、努力する人が報われる社会になるよう希望します。(男性, 40歳代)
- 将来、結婚した場合、育児と家庭・仕事を両立できるかと思います。(女性, 30歳代)
- 女性の社会進出を推す一方で、家庭や育児から手が離れ、人任せ(保育サービス等)的になる部分を助長させているような気がする。待機児童の増加や、子ども食堂の広がり、育児放棄の問題など、子どもにしわ寄せがくるような女性活躍社会では良くないと思う。ライフスタイルに合わせた働き方や、仕事と家庭のバランスを取りやすい環境を作っていただきたいです。(女性, 40歳代)
- 初めて聞く言葉で、あまりピンと来ず…アンケートの質問も、わかりにくい所もありました。(自身の答えが、即答できず考える事ばかりでした)地域の皆が、安心して(安全な)暮らせることを願います。(障害者の方等の職についても…)もっと近場で働ける場所があったらとも思います。(女性, 50歳代)
- なによりも男女平等の社会をつくってほしい。(男性, 20歳代)
- 仕事と家庭のバランスの取り方は、非常に難しい。社会人として個人の達成したい目標を目指すことで、社会には貢献できるが、家庭を(家事を?)おろそかにしてしまうことが、ストレスになることも…。安心して暮らせる社会づくりには、私を捨てて公として生きる選択を、社会全体で行う必要もあるのかも…。(女性, 30歳代)
- 私達の地域という小範囲で、性別にかかわらず、その個性・能力を発揮する社会(男女共同参画の一つ)を考えてみますと、まだまだ女性の参画はあっても、その個性・能力が発揮される社会とは言えないと思います。地域にあるほとんどの組織の中で、中心にいてカジを取っているのは、男性だからです。男女共同参画は言葉(単語)だけに終わらしてほしくないです。(女性, 70歳代)
- 平等な社会を望んでいる訳ではなく、1人の人が生きやすく、自分で自分を追い詰めなければならない様な会社の仕組みを変えて欲しい。(男性, 30歳代)
- もっと女性が活躍できる場をもうけてほしい。(女性, 40歳代)

#### [就業について(8件)]

- 仕事上のトラブルが発生した場合『男女共同参画社会』と言われても、女性上司の場合、トラブル解消の力が足りないし、積極的に取り組まない!!(男性, 60歳代)
- 待機児童が全国的に大きな問題となっていて、働きたくても働けない女性が増えており、保育や育児休業の充実を図り、女性が安心して働くことのできる地域づくりをして頂きたいです。(男性, 20歳代)

- 保育施設などが充実し、使いやすくなったら、仕事をしながら子育てをしていける状況が来ていいと思う。(女性, 50歳代)
- 女性が仕事をするにあたって、どうしても出産がネックと取られがちであり、そこで、昇進など影響してしまうと思う。少子化を止めるためにも出産がネックとならないような取り組みが必要だと思う。安心して子育てできる社会作りをして欲しい。(女性, 40歳代)
- 保育士、ヘルパー等福祉関係に従事している人々の賃金や雇用形態を、見直し改善すべきであると考えます。保育園や介護施設のサービスが充実することで、女性は子育て男性は介護に対する負担が大きいに感じますので、少しでもその負担の軽減が図られるのではと思います。一方、従事者の方々の負担も福祉関係の雇用が増えることで軽減されると考えています。人格形成への影響が一番大きいとされる乳幼児期に充実した保育を受けることで男女差別や人権問題に対する考え方も違ってくるのではと思います。(女性, 20歳代)
- 男女共同参画社会「すべての女性が」と考えるのではなく「表立っての活躍を望む女性ができるように」と考えるべきではないか。また、女性の社会進出促進が多く取り上げられているが、最近では男性で参画できていない場合もあり、そこへの対応も重要ではないか。(男性, 30歳代)
- 給料・身分等、差別(男女)のない職場だったので、(男女)雇用機会均等法が制定される前から、50年経っても女性について改善されていない。特に地方に行くほど、その感が強い。ただし、家庭では食べる事も子供中心になっている様に思える。その一方で、子どもを産んでも愛情がない人達が、あまりにも多すぎると思う。学校ではいじめが多く、子供達の生活もあれている。(女性, 80歳以上)
- 現在正社員として勤めているが、結婚・出産を機に辞めていく人が多い。また、契約社員から社員へ上がる試験なども男性の方が確率的に社員になっていて、女性はなかなか社員になれない。(女性, 20歳代)

#### [男女共同参画に関する教育について(5件)]

- 1.女性は遠慮が先に立って自分を主張したがない。2.仕事でも地域活動でも女性の勉強不足。したがって家族や職場で女性の強力な指導と教育が必要に思う。(男性, 70歳代)
- “男性が常に優位”という家庭環境で育ったせいか、学校教育の中で“男女平等”“自分の意見を持って発言する事”などを学んでも、家では一切受け入れて貰えない状況で、悔しい思いを抱いて現在まで生活して来ました。家庭における教育(一方的な押し付けではなく、相互に意見を言い合えるような)は、とても大切だと思います。それが社会に出てから、とても大切な“自信”にもつながるのではないのでしょうか。(女性, 50歳代)
- 家庭でしっかりと“男らしさ・女らしさ”役割分担、慣習、しきたり、これらを見直す。それぞれの個性や能力を十分に生かせる社会、差異を認める社会、思いやりのある社会、宗教の教育も必要である。(男性, 70歳代)

- 男女同権の意識について、長期間におよぶ教育が必要と思う。(男性, 60歳代)
- 男女が同じように活躍していける社会へは、まだまだ先のように思います。男性だから出来る事, 女性だから出来る事をうまく融合させながら出来るよう, 社会に教育できる場を作って行って欲しい。(男性, 40歳代)

#### [男女共同参画に向けた啓発活動について(3件)]

- 制度が職場等で整備されても、そこに働く人の固定観念や長年の慣例等で制度を活用しにくい雰囲気があり、実際には働く女性のためになっていないこともあると思う。制度の構築も必要なことだとも思うが、各人の意識改革のため、周知できるようもっと啓発していくべきだと思う。(女性, 30歳代)
- 1.講演会や体験・意見発表をできるような行事等を設けてほしい。2.「第2次男女共同参画基本計画」ができたなら、その概要を広報誌等で周知して下さい。(男性, 70歳代)
- 「男女共同参画社会」という言葉は何度も耳にしているが、具体的な取組についての広報等が未だ不十分だと思われるので、各自治会等において説明会等実施出来ないか検討をお願いします。(男性, 60歳代)

#### [子育てについて(1件)]

- 育児に対してのサポートを充実して欲しいです。子どもが病気の時などに預かってもらえる場所が近くにあると助かります。学校の行事, 子どもの病気など重なると, 休み辛い職場もある。男の人が子どもの病気で休むのは, もっと難しいと思う。(女性, 30歳代)

#### [男女共同参画に向けた行政の取り組みについて(5件)]

- 子育て世代の住みやすい町作りをお願いします。高齢者を中心とした健診の強要とも思われる政策を中止して学童保育の充実を。若いお母さんたちが就学時の帰宅後の育児のためにパートから脱出できません。中央公民館や各地区の公民館を利用して学童保育はできないのでしょうか。そして可能なら退職された先生方をお願いして学習指導等の付加価値をつけて, 塾に行けない子どもたちの力になれば他地域との差別化もできて転入者も増えるのではないのでしょうか。できれば日曜・祭日もあれば絶対話題になると思います。高齢者の検診は正直, あまり意味がないと思います。病院にかかっている方は不要なので不満をもっている方が多いけど, 義務だと思っているので仕方なく行っているのが現状です。その予算を子育て世代に使えないものでしょうか。(無回答)
- 日本の子どもの5~6人に1人が貧困だとテレビで目にした。実際の所は分からないが, 子どもにはしっかりと食事や教育機会を与えられるように, 国や県・市の資金を投じて欲しい。(男性, 30歳代)

- 経済的に充実し、育児や介護など社会を支える制度を整えることが必要。(男性, 60歳代)
- 市役所の職員は一般的に知的水準は高いと考えられるので、特に女性の管理職登用を積極的にして、市民へ模範を示して欲しいと思う。また、日常業務担当の過程で、教育をもっとすべきではないか。(男性, 80歳以上)
- 市は、・防災(大型台風・地震)におけるライフラインをどのように守るか。・介護人口の増加に、どのように対応するのか。・若い人たちが、どのように考え(調べて欲しい)、いかに定住していくかを(仕事・会社設立・資金相談)見守って欲しい。・参加する時間が気兼ねなくとれるように。・収入の安定、精神的ゆとりがなくては、知恵も出ないのでは！(男性, 60歳代)

### 【家庭生活について(2件)】

- 鹿児島においては、他県と比べて「男尊女卑」ということが強調されることが多いと思うが、家庭ではそうでもないと思っている。家庭内での物事の決定権は女性(母親)が握っていると思う。(男性, 60歳代)
- 私がもし若かったら(独身なので)結婚し、子どもが生まれた時には、私も育児に参加して、私の妻になった方の負担を軽くしてあげたいです。(男性, 60歳代)

### 【その他(30件)】

#### 【主な意見】

- 結婚することで名字が変わるのは女性が多い。その際の手続きが面倒くさい。職場は名字を変えなくてもよい社会になるとよい。(女性, 40歳代)
- わかりません。ただ、今の時代何かよく分からないですけど、変に怖い感じの世の中になっているように感じます。問32に対しての意見とは異なるかもしれませんが、今自分で感じている事を書きました。(男性, 40歳代)
- 昔の方のように、親を大事にしてほしい。今は(すなお)さがない。早起き、すなお、しょうじきな子供になってほしい。(女性, 70歳代)
- 女性が優遇されることの方が多い気がする。(女性, 20歳代)
- インターネットで過激な映像等見れる世の中なので、子どもに見せないように努力しているが心配。(女性, 30歳代)
- 個人や国家間の戦争における暴力(殺し合い)は人間界(人界)に具わった修羅会の命が全面に表面化したときに、発生するので、そういう縁に遭遇したときは、すぐに仏界の命にチェンジして平常心を取り戻した方が良くと思います。(男性, 60歳代)
- 1.女性自身の職業意識の問題 2.職務の細分化(退職後の復帰が容易) 3.他人に寛容でありたい。(男性, 80歳以上)
- 平等ではなく、公平であってほしいと思う。(男性, 30歳代)

- 首相が女性の社会進出を表に出しています。確かに能力のある女性も多くおられます。が、現在の防衛大臣のようにお飾り的な女性が大臣として国を代表する立場に席をおいていることは納得いかず、腹立たしい気持ちでいます。もっと女性を認めてもらうには、ああいう方が大臣としている以上、やはり女には難しい、女が出るべきでないと言われるのは目に見えているような気がします。間口の質問の①に値すると思っています。(無回答)
- 後進国は子たくさん。支援してください。とか支援しますという事には私はいいかげん気付かないのかなと思います。今より将来を考えると性教育が必要なのではないかと思います。男の原因か女の原因かわかりませんが、好きなだけ子供を生んで、支援してくださいでは一時的には何とかなってもダメだと思います。(男性, 70歳代)
- 何も出来ないからわからない(女性, 70歳代)
- 成人向け雑誌など、度をこえて域を達していると思う。(男性, 40歳代)
- 性的マイノリティは神に対する冒瀆であり、決して認める事は出来ない。男・女を否定する事である。人の存続にかかわる問題である。(男性, 70歳代)
- 実行あるのみ!!(女性, 30歳代)
- 何度も繰り返しますが、男女共にお酒の飲み過ぎは良くないことをもっと教えるべきです。鹿児島はアルコール依存症が全国的にも多いことを知るべき。家族をまきこみ全くの悲劇です。飲酒運転にも繋がります。お酒の危険をもっともっと知らせるべきです。心からそれを願います。(女性, 60歳代)
- テレビ、ニュース等を見ていると、若い女性の自分に対する危機感がたりない気がする。(男性, 70歳代)
- 1.暴言や暴力等を受けたときは、すぐ第三者に相談して、解決を図る努力が大事だと思います。2.甘えや依存心を自戒し、自己を高める努力をしあうことで、相互に尊敬しあえる関係が築かれると思います。3.アンケートの末尾の「用語解説」は、大変勉強になりました。単にアンケートに答えるだけでなく、男女共同参画に対する意識を高めてくれました。(女性, 70歳代)
- 知識、技能、体育、知育、心を育てる教育、まつり、地域の環境の中で育て、必要 自分各々の人として 物欲の世界だけでなく 煩悩具足の世界を一步出て 精神の安定を求めるようにする。一切のかけごと「君子危ういに近よらず」道を求めて勉強する。知育・体育・精神「自然」を大切に。今回のカジノ9R法案とか世も末かと危惧する(女性, 70歳代)
- 男女の権利は平等で良いが、身体的特徴を考慮した制度、対応が必要であると思う。(女性, 50歳代)
- ・ある場合、私は女性だから(言葉ではなく言動で)と言って、何事に対しても、目下の女性まで引込んで引き下がる態度。・でも、人には目立ちたい態度はありありと見える。(男性, 70歳代)
- 勉強不足のため、今後見聞を深めたいと思っています。(無回答)

# 調 查 票

# 男女共同参画に関する市民意識調査

～あなたのご意見をお聞かせください～

## 市民の皆様へ

日置市では、子どもから大人まで一人ひとりの男女の人権が尊重されて、自らの意志によって社会のあらゆる分野の活動に参画する機会が確保され、それぞれの個性や能力を十分に発揮しながら暮らすことができる、豊かで活力ある社会を実現していく男女共同参画社会づくりの促進に向けて、「第2次男女共同参画基本計画」策定を予定しております。

このたび、取り組みの基礎資料とするために、市民の皆様のご意見をお伺いする市民意識調査を実施することとなりました。その一人としてあなた様をお願いすることになりましたので、ご多忙のところお手数をおかけいたしますが、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

平成28年11月 日置市長 宮路高光

- ★この調査は、20歳以上の方2,000名を無作為に選ばせていただき、ご協力をお願いしております。
- ★回答は、無記名で、結果はすべて統計的に取りまとめを行いますので、個人が特定されることはございません。
- ★プライバシー保護に細心の配慮をいたしますので、あなた様ご自身のお考えや現状をお答えください。

## ～ご記入にあたって～

- 1 この調査のご記入は、封筒のあて名の方ご本人にお願いします。  
ご本人の記入が困難な場合は、ご家族などの聞き取りによる代筆をお願いします。
- 2 回答は、調査票のあてはまる項目の番号に直接 ○(まる)をつけてください。
- 3 質問によって、ある条件に該当する方だけにご回答いただくものがありますので、説明にしたがって最後までおすすみください。
- 4 すべてのご記入が終わりましたら、お手数ですが、記入もれがないかお確かめのうえ、同封の返信用封筒(切手は不要です)に入れて、平成28年12月15日(木)までにポストへ投函してください。

〈問い合わせ先〉 日置市役所 総務企画部 地域づくり課 男女共同参画係(担当: 迫田)  
〒899-2592 日置市伊集院町郡一丁目100番地  
電話 248-9408 FAX 273-3063



問 1 次の言葉について、あなたが見たり、聞いたりしたことがあるものをすべて選んでください。

- 1 男女共同参画社会
- 2 女子差別撤廃条約
- 3 男女雇用機会均等法
- 4 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)
- 5 女性活躍推進法
- 6 育児介護休業法
- 7 DV防止法 (配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律)
- 8 多様性 (ダイバーシティ)
- 9 日置市市民のための相談室 (男女共同参画専門員)  
(配偶者等からの暴力・暴言, 子育て, 介護, 学校, 友人, 職場, 地域のこと等)
- 10 日置市子ども支援センター
- 11 日置市女性センター

問 2 あなたは、次のような分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。

①～⑦の項目について、右欄の1～6の中からあなたの考えに最も近い番号を1つずつ選んでください。

①～⑦の項目を横に見てお答えください。(○印はそれぞれ1つずつ)	優遇されている 男性の方が非常に	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	優遇されている 女性の方が非常に	わからない
① 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
② 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
③ 職場で	1	2	3	4	5	6
④ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑥ 地域社会の中で	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念, 慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6

**問3** それでは、あなたは社会全体で見た場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
次の1～6の中からあなたの考えに最も近い番号を1つだけ選んでください。

- 1 男性の方が非常に優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等である
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が非常に優遇されている
- 6 わからない

**問4** あなたは、次のようなことについてどう思いますか。

次の①～④の項目について、右欄の1～5のうちあてはまる番号を1つずつ選んでください。

①～④の項目を横に見て お答えください。(○印は それぞれ1つずつ)	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い
① 妻や子どもを養うの は、男性の責任である	1	2	3	4	5
② 女性は結婚したら自分自 身のことより、家族を中 心に考えるべきである	1	2	3	4	5
③ 女性は仕事を持つのは良 いが、家事、育児もきちん とすべきである	1	2	3	4	5
④ 男性の方が女性より、管 理職として素質がある	1	2	3	4	5

**問5** それでは、あなたは女性が、議会議員や地域活動の役員になって、政策企画立案や方針決定の場に女性の意見が反映されるようになればいいと思いますか。

次の1～5の中から、あなたの考えに最も近い番号を1つだけ選んでください。

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

【現在結婚している方におたずねします。それ以外の方は問7へおすすみください。】

**問6** あなたの家庭では次のことを主に誰が行っていますか。①～④の項目について、右欄の1～6のうちあてはまる番号を1つずつ選んでください。

育児・子育てと介護・看護については、現在はなくても、これまで経験があればそれをもとに選んでください。

該当しない場合は、「6」を選んでください。

①～④の項目を横に見てお答えください。(○印はそれぞれ1つずつ)	夫	妻	夫婦で分担	家族全員	その他の人	該当しない
① 家事	1	2	3	4	5	6
② 育児・子育て	1	2	3	4	5	6
③ 介護・看護	1	2	3	4	5	6
④ 地域活動への参加	1	2	3	4	5	6

**問7** あなたのご職業を次の1～11の中から1つだけ選んでください。

- |       |   |                                                       |
|-------|---|-------------------------------------------------------|
| 自営業主  | { | 1 農林漁業<br>2 商工サービス業<br>3 その他                          |
| 家族従事者 | { | 4 農林漁業<br>5 商工サービス業<br>6 その他                          |
| 雇 用 者 | { | 7 常勤の勤め ( 社員・職員等 )<br>8 非常勤の勤め ( パート・アルバイト・臨時職員・嘱託等 ) |
| 無 職   | { | 9 主婦・主夫<br>10 学生<br>11 その他の無職                         |

【問7で無 職 「9」～「11」と答えた方へおたずねします。】

**問8** あなたはどのような形で働きたいですか。  
次の1～9の中から1つだけ選んでください。

- 1 常勤 ( フルタイム )
- 2 常勤 ( 短時間勤務 , フレックスタイム制 )
- 3 パートタイム , アルバイト , 嘱託
- 4 契約社員 , 派遣社員
- 5 在宅勤務
- 6 事業経営
- 7 家業に従事
- 8 働くつもりはない(働くことができない場合を含む)
- 9 その他 ( 具体的に : )

【問7で「雇用者」「7」または「8」と答えた方へおたずねします。】

問9 あなたの職場では、性別によって処遇や待遇が異なりますか。  
次の1～13の中からいくつでも選んでください。

- 1 募集・採用の機会に格差がある
- 2 賃金に格差がある
- 3 配置される職域に差がある
- 4 女性に補助的な業務や雑用（お茶くみ等）に従事させる傾向がある
- 5 昇進，昇格に格差がある
- 6 管理職への登用に差がある
- 7 結婚や出産時に退職する慣例や雰囲気がある
- 8 中高年女性には退職を促すような雰囲気がある
- 9 社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある
- 10 育児休業や介護休業の取りやすさに差がある
- 11 同じ職場で夫と妻が共に働いている場合，どちらかが働き続けにくい雰囲気がある
- 12 その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
- 13 特に性別により処遇が異なっていることはない

【問7で1～8「自営業主」・「家族従事者」・「雇用者」と答えた方へおたずねします。】

問10 あなたの職場では、働く時間，給料，休業日や休暇，仕事の分担などについての取り決め（会社の就業規則，農業の家族経営協定などに類するもの）がありますか。  
次の1～4の中から1つだけ選んでください。

- 1 文章化された取り決めがある → 問11へ
- 2 文章化されていないが，合意している取り決めがある（口約束，暗黙の了解も含む）  
→ 問11へ
- 3 取り決めはない → 問12へ
- 4 取り決めがあるかどうかわからない → 問12へ

【問10で「1」，「2」を選んだ方におたずねします。それ以外の方は問12へおすすみください。】

問11 その取り決めは守られていますか。次の1～4の中から1つだけ選んでください。

- 1 守られている
- 2 どちらかというと守られている
- 3 どちらかというと守られていない
- 4 守られていない

**問12** あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは何だと思いますか。

次の1～10の中からいくつでも選んでください。

- 1 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
- 2 女性自身がリーダーとなることを希望しないこと
- 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
- 4 長時間労働の改善が十分でないこと
- 5 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
- 6 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
- 7 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
- 8 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
- 9 特にない
- 10 わからない

**問13** あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。

次の1～12の中からいくつでも選んでください。

- 1 やりがいのある仕事ができる
- 2 賃金があがる
- 3 能力が認められた結果である
- 4 家族から評価される
- 5 自分自身で決められる事柄が多くなる
- 6 やるべき仕事が増える
- 7 責任が重くなる
- 8 やっかみが出て足を引っ張られる
- 9 仕事と家庭の両立が困難になる
- 10 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
- 11 特にない
- 12 わからない

**問14** あなたは、働き続けることを希望する女性が、出産後も離職せずに、同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。

次の1～13の中からいくつでも選んでください。

- 1 保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
- 2 家事・育児支援サービスの充実
- 3 男性の家事・育児参画への理解・意識改革
- 4 女性が働き続けることへの周囲や社会の理解・意識改革
- 5 女性自身の様々な改革
- 6 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
- 7 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
- 8 介護支援サービスの充実
- 9 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
- 10 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取り扱いの禁止
- 11 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
- 12 特にない
- 13 わからない

**問15** あなたは、日ごろ、何か地域のために役立ちたいと思えますか。

次の1～5の中から1つだけ選んでください。

- 1 かなりそう思っている
- 2 そう思っている
- 3 あまりそうは思っていない
- 4 全くそうは思っていない
- 5 わからない

**問16** あなたは、現在、次のような地域活動に参加していますか。

次の1～5の中から1つだけ選んでください。

- 1 自治会や地区などの活動
- 2 P T A , 子ども会などの子どもの活動に関わる団体活動
- 3 女性団体 , 高齢者クラブなど団体活動
- 4 スポーツレクリエーション文化振興などにかかわるサークル活動
- 5 民生委員・児童委員 , 体育指導員などの公的な委員活動
- 6 子育て支援や高齢者介護 , 障害者福祉などを目的としたグループ活動
- 7 N P O 法人などの非営利活動
- 8 特定の団体やグループに属さず , 個人として地域に貢献する活動
- 9 その他 ( 具体的に : )
- 10 特に何もしていない

【問16で「1～9」を選んだ方におたずねします。】

**問17** 参加しているお気持ちについて、次の1～4の中から1つだけ選んでください。

- 1 生きがい・やりがいを感じている
- 2 生きがい・やりがいを感じることもあるが , 負担に感じることもある
- 3 負担に感じつつ参加している
- 4 その他 ( 具体的に : )

**問18** 地域の活動で、次のような雰囲気や慣習がありますか。

次の1～5の中から1つだけ選んでください。

- 1 子どもがいない世帯や , 一人住まいの世帯 , 独身者が参加しづらい雰囲気がある
- 2 女性や若い人は , 男性や年長者の意見に従う方が良い ( 従うものだ ) という雰囲気がある
- 3 団体の長や代表などについては男性になる方がよい ( なるものだ ) という雰囲気がある
- 4 会議等で女性が自分の意見を発言することに対して批判的な雰囲気がある
- 5 女性はさまざまな役割や仕事の経験を積む機会から遠ざけられている雰囲気がある
- 6 様々な役割分担の責任者には男性が就き , 女性は補佐役に就くことが多い
- 7 自治会・P T A などの役員名簿には夫の名前を載せるが , 実際には妻が役割を果たしていることが多い
- 8 女性が役職に就きたがらない

- 9 会合や行事の湯茶・食事の準備や後片付けは女性の役割という雰囲気がある
- 10 地域のために慣習を見直すなど、変革を求める人を煙たがる雰囲気がある
- 11 地域での生活に関わる事柄について、互いに助け合うために、自分ができることで貢献しようとする意識があまりない
- 12 特にこのようなことはない

**問19** あなたが地域における活動に参加するなかで感じている、活動のやりがいや苦労していることなどがありましたら教えてください。

**問20** あなたの「仕事」と「生活」（家庭や地域活動や学習・趣味・付き合い等の個人の活動）のかかわり方についておたずねします。

次の1～4の近い番号を1つだけ選んでください。

- 1 「仕事」を優先している
- 2 「生活」を優先している
- 3 「仕事」と「生活」をともに優先している
- 4 わからない

**問21** あなたの「仕事」と「生活」（家庭、地域活動、学習・趣味・付き合い等個人の活動）について、あなたの希望するかかわり方を次の1～4の中から、1つだけ選んでください。

- 1 「仕事」を優先したい
- 2 「生活」を優先したい
- 3 「仕事」と「生活」をともに優先したい
- 4 わからない

**問22** あなたの生活の中での、「家庭」と「地域活動」と「個人(学習・趣味・付き合い等)」のかかり方についておたずねします。

次の1～8の中で、近い番号を1つだけ選んでください。

- 1 「家庭」を優先している
- 2 「地域活動」を優先している
- 3 「個人」を優先している
- 4 「家庭」と「地域活動」をともに優先している
- 5 「家庭」と「個人」をともに優先している
- 6 「地域活動」と「個人」をともに優先している
- 7 「家庭」と「地域活動」と「個人」をともに優先している
- 8 わからない

**問23** あなたの生活の中での、「家庭」と「地域活動」と「個人(学習・趣味・付き合い等)」のかかり方について、あなたの希望するかかり方をおたずねします。

次の1～8の中で、近い番号を1つだけ選んでください。

- 1 「家庭」を優先したい
- 2 「地域活動」を優先したい
- 3 「個人」を優先したい
- 4 「家庭」と「地域活動」をともに優先したい
- 5 「家庭」と「個人」をともに優先したい
- 6 「地域活動」と「個人」をともに優先したい
- 7 「家庭」と「地域活動」と「個人」をともに優先したい
- 8 わからない

**問24** 男性も女性も、家事・子育て・介護・地域活動・仕事等の取り組みに、自分の意志で積極的にかかり、いきいきと暮らすことができるようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の1～15の中から、特に必要と思われる事項の番号を3つ以内で選んでください。

- 1 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりをあらためること
- 2 仕事に生活をあわせるという、仕事中心の社会全体の仕組みを改めること
- 3 男性が家事に参画するライフスタイルについて男女が抵抗感をなくすこと
- 4 男性も女性も生活面・経済面で自立できるようになること
- 5 家族の間で互いの立場を理解し、家事などの分担をするように十分話し合うこと

- 6 家事などについて，性別によらず，身につけることが出来るような育て方をすること
- 7 子どもの頃から，男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させること
- 8 生涯学習の場や学校・職場・地域社会などさまざまな場で，男女の人権尊重と相互理解による男女共同参画についての学習機会を増やすこと
- 9 職場における男女の均等な取扱い
- 10 労働時間を短縮したり，休暇制度を普及させたりすること
- 11 自宅でも仕事ができるように在宅勤務などを普及させること
- 12 育児や介護支援の充実など，育児や介護を社会で支える制度を充実させること
- 13 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
- 14 特に必要なことはない
- 15 わからない

**問25** あなたはこの1年間の生活の中で，次のような不安や悩みがありましたか。  
次の1～20の中からいくつでも選んでください。

- 1 雇用・転職/再就職など仕事について
- 2 生活費・借金などお金について
- 3 病気・障がいなど身体の健康について
- 4 ストレス・うつなど心の健康について
- 5 恋愛や結婚について
- 6 夫婦・親子など家族間の人間関係について
- 7 育児・子育てについて
- 8 介護・看護について
- 9 妊娠・出産に関することについて
- 10 自分や家族の将来について
- 11 配偶者等からの暴力に関すること
- 12 セクシュアルハラスメント，パワーハラスメントなどに関すること
- 13 職場での問題について（人間関係，労働条件，労働環境など）
- 14 就業におけるキャリアアップ・能力開発に関すること
- 15 地域での人間関係や活動に関すること
- 16 防災に関すること
- 17 自分の生き方に関すること
- 18 自分でもよく分からないもやもやとした気持ち
- 19 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
- 20 特になかった

【全員におたずねします。】

問26 あなたは、10歳代20歳代に、恋人や交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。  
次の①～③について、右欄の1～4の中からあてはまる番号を1つずつ選んでください。

①～③の項目を横に見てお答えください。 (○印はそれぞれ1つずつ)	あ っ た 10 歳 代 に	あ っ た 20 歳 代 に	と も あ っ た 10 ・ 20 歳 代	な か っ た い ず れ も
① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3	4
② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3	4
③ いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3	4

【これまで結婚したことのある方に、おたずねします。】

ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。

問27 あなたは、これまでに配偶者から次のようなことをされたことがありますか。

次の①～④のそれぞれについて、右欄の1～3の中からあてはまる番号を1つずつ選んでください。

①～④の項目を横に見てお答えください。 (○印はそれぞれ1つずつ)	あ っ た 1 ・ 2 度	あ っ た 何 度 も	な い ま っ た く
① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3
② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
③ 家庭に生活費を入れないなどの経済的な暴力を受けた	1	2	3
④ いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

【問26で1～3，問27で1または2を選んだ方におたずねします。】

**問28** あなたは，そのことを誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。

次の1～10の中からいくつでも選んでください。

- 1 家族や親戚
- 2 友人・知人
- 3 学校関係者
- 4 医療関係者
- 5 民間の専門家や専門機関（弁護士，カウンセラー等）
- 6 市民のための相談室など市の相談窓口
- 7 県の配偶者暴力相談支援センター（県女性相談センター，県男女共同参画センター）
- 8 警察
- 9 その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
- 10 どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）

【問28で10を選ばれた方におたずねします。】

**問29** どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。

次の1～16の中からいくつでも選んでください。

- 1 どこ（だれ）に相談したらよいのかわからなかったから
- 2 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- 3 相談してもむだだと思ったから
- 4 相談したことがわかると，仕返しを受けたり，もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから
- 5 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
- 6 相談先や相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- 7 自分さえ我慢すれば，なんとかこのままやっていけると思ったから
- 8 子どもに危害が及ぶと思ったから
- 9 他人を巻き込みたくなかったから
- 10 他人に知られると，これまでどおりの付き合い（仕事や学校，地域などの人間関係）ができなくなると思ったから
- 11 そのことについて思い出したくなかったから
- 12 自分にも悪いところがあると思ったから
- 13 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
- 14 相談するほどのことではないと思ったから
- 15 世間体が悪いと思ったから
- 16 その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

**問30** あなたは、男女間における暴力を防止するためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。

次の1~7の中からいくつでも選んでください。

- 1 家庭や学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を充実させる
- 2 職場、学校、地域で大人が性別に由来する人権問題や暴力を防止する学習を深める
- 3 メディアを活用して、広報、啓発活動を積極的に行う
- 4 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を周知する
- 5 その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
- 6 特に必要なことはない
- 7 わからない

**問31** テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどのメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように考えますか。

次の1~9の中からいくつでも選んでください。

- 1 女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく
- 2 性に関する社会規範が損なわれている
- 3 女性に対する暴力を助長させる
- 4 過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない
- 5 男女のイメージを固定化することを助長するような表現をしている
- 6 児童に対する性犯罪を助長させる
- 7 その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
- 8 特に問題はない
- 9 わからない

**問32** 「男女共同参画社会」の実現にむけて、ご意見、ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、何でも結構ですので、自由に記入してください。

◆最後に、お答えいただいた回答を統計的に分析するため、あなた自身のことについておたずねします。

問33 あなたの性別を教えてください。

- 1 女性                      2 男性

問34 あなたの年齢をおたずねします。(平成28年11月1日現在)

- 1 20歳代                      2 30歳代                      3 40歳代  
4 50歳代                      5 60歳代                      6 70歳代  
7 80歳以上

問35 あなたの生活形態は、次のどれにあてはまりますか。

- 1 単身世帯(一人暮らし)                      2 一世代世帯(夫婦のみ)  
3 二世帯世帯(親と子など)                      4 三世帯世帯(親と子と孫など)  
5 その他

問36 あなたは現在結婚していますか。

- 1 結婚している                      2 結婚していたが、離別した  
3 結婚していたが、死別した                      4 結婚していない

【現在、結婚されている方におたずねします】

問37 ご夫婦の職業の有無についておたずねします。

職業とは、自営業主、家族従事者、雇用者(常勤、パート、アルバイト、内職等を含む)等のことをいいます。

- 1 どちらも職業がある                      2 自分のみ職業がある  
3 配偶者のみ職業がある                      4 どちらも職業がない

問38 あなたはどちらにお住まいですか。

- 1 東市来地域                      2 伊集院地域  
3 日吉地域                      4 吹上地域



ご協力誠にありがとうございました。記入もれなどがなければ、もう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒(切手不要)に折り曲げて、12月15日(木)までに郵便ポストにご投函ください。

### ◆ 女子差別撤廃条約

昭和54年（1979年）に国連総会で日本を含む130か国の賛成によって採択され、昭和56年（1981年）に発効し、日本は昭和60年（1985年）に批准しました。基本理念は女子に対するあらゆる差別を撤廃することであり、具体的には、※女子に対する差別を定義し、政治的及び公的活動、教育、雇用、保健、家族関係等あらゆる分野での男女の平等を規定しています。

### ※「女子に対する差別」の定義

性に基づく区別、排除、または制限をすること。具体的には政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他のいかなる分野においても、女子（婚姻をしているかいないかを問わない。）が男女の平等を基礎として人権及び基本的自由を認識し、享有しあるいは行使することを阻害したり、無効にしたりする効果や目的があるもの。（享有：権利や能力などを生まれながらに持っていること。人権の享有など）

### ◆ 男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保に関する法律）

雇用における男女の均等な機会と待遇の確保を図るとともに、女性労働者の就業に関して妊娠中及び出産後の健康の確保を図るための措置を推進するために制定された法律(昭和61年（1986年）施行)労働者の募集、採用、配置、昇進、福利厚生、定年・退職等において性別を理由とする差別を禁止しています。また、実質的に性別を理由となるおそれがあるものに対する間接差別も禁止しています。

### ◆ 男女共同参画基本法

将来に向かって男女共同参画社会の形成に関する取り組みを総合的に推進するために制定された法律（平成11年（1999年）6月23日施行）

男女共同参画社会の形成についての基本理念、国・地方公共団体及び国民の責務、基本的施策について規定されています。

### ◆ 男女共同参画社会

男女共同参画社会はすべての人々が、その人権を尊重され、性別にかかわらずその個性と能力を発揮することができる社会です。

女共同参画社会基本法では、「男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義しています。

## ◆ ドメスティック・バイオレンス ( DV )

配偶者や恋人など親しい関係のパートナーから加えられる暴力をいいます。身体に対する暴力 ( 身体に対する不法な攻撃であって生命又は身体に危害を及ぼすもの ) のほか , 精神的暴力 ( 心身に有害な影響を及ぼす言動 ) や性的暴力も含んでいます。

## ◆ 配偶者からの暴力防止及び被害者の保護等に関する法律 ( DV防止法 )

配偶者からの暴力に係る通報 , 相談 , 保護 , 自立支援等の体制を整備し , 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的とする法律 (平成13年10月13日施行 , 16年・19年・25年改正)。都道府県における計画の策定や配偶者暴力相談支援センターの設置 , 保護命令制度等の規定や市町村における努力義務が規定されています。被害者が男性の場合や , 同居の恋人からの暴力もこの法律の対象となります。

## ◆ 女性の就業生活における活躍の推進に関する法律 ( 女性活躍推進法 )

働く場面で活躍したいという希望を持つ全ての女性が , その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するために制定された法律 (平成27年9月4日施行)。女性の活躍推進に向けた目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表や , 女性の職業選択に役立つ情報の公表が事業主 (国や地方公共団体 , 民間企業※) に義務付けられています (平成28年4月1日施行)。

※常時雇用する労働者が300人以下の民間企業にあつては努力義務

## ◆ 仕事と生活の調和 ( ワーク・ライフ・バランス )

誰もが , 仕事 , 家庭生活 , 地域活動 , 個人の自己啓発など , 様々な活動を人生の段階に応じて自分の希望するバランスで実現できる状態のこと。

## ◆ ダイバーシティー

「多様性」のこと。性別や国籍 , 年齢等にかかわらず , 多様な個性が力を発揮し , 共存できる社会のことをダイバーシティ社会といいます。

## ◆ エンパワメント

誰もが生まれながらに持っている本来の個性や力を十分発揮できるよう社会の在り方を変えることを前提として , 社会的制約や様々な抑圧によって発揮されていなかった自分の力への信頼と尊厳を回復すること。

一方 , 「エンパワメント」とは , 力をつけること。また , 自ら主体的に行動することによって状況を変えていこうとする考えのこと。

## ◆ 男女別等統計

男女間の意識によるかたより , 格差及び差別の現状並びにその要因や現状が生みだす影響を客観的に把握するための統計のこと。